平成 29 年度 富良野市教育行政評価報告書

教育委員会事務事業点検·評価 学 校 第 三 者 評 価

平成30年8月

富良野市教育委員会

目 次

I 点検・評価の概要	
1、教育委員会事務事業点検・評価 ・・・・・・・・・・・・・・	1
2、学校評価 ······	· 1
3、点検・評価の手法及び公表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
Ⅱ 教育委員会の活動点検・評価	
1、教育委員会の活動の一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
2、教育委員会議 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	10
3、教育委員会活動の評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
Ⅲ 平成 29 年度教育委員会事務事業点検·評価	
○事務事業点検·評価結果一覧 ····································	13
〇教育委員会行政組織図	15
○学校教育課所管事務事業点検評価シート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16
○社会教育課所管事務事業点検評価シート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
○こども未来課所管事務事業点検評価シート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	· 48
〇虹いろ保育所所管事務事業点検評価シート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	52
○生涯学習センター所管事務事業点検評価シート ・・・・・・	• 54
○図書館所管事務事業点検評価シート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 59
○富良野学校給食センター所管事務事業点検評価シート ・	63
Ⅳ 平成 29 年度学校第三者評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 69
V 教育行政評価委員会の開催について	
1、教育行政評価委員会	• 79
2、教育行政評価委員会における意見 ・・・・・・・・・・・・・	80
資料1 富良野市教育行政評価委員会設置要綱・・・・・・・・・・・・・	· 83
資料 2 教育行政評価委員名簿 ······	-
資料3 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 ・・・・・・	
資料 4 平成 29 年度 教育行政執行方針 ······	
資料 5 平成 29 年度 学校教育 重点事項 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	• 92

Ⅰ 点検・評価の概要

1、教育委員会事務事業点檢·評価

富良野市教育委員会では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(以下「地教行法」という。)の第 26 条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進と行政評価の透明性を図り市民への説明責任を果たすことを目的として、平成20 年度分の事務事業から点検・評価を実施しています。

今年度も、平成 29 年度の教育に関する事務の管理及び執行状況として 52 事業に対する点検・評価を実施しました。

2、学校評価

学校評価については、平成 19 年 6 月に学校教育法、同年 10 月に学校教育法施行規則の一部改正が行われ、学校自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者(市教育委員会)への報告が義務化されました。これを受け、富良野市教育委員会では平成 19 年度から試行的に学校評価に取り組み、平成 20 年度から本格実施をしています。

学校第三者評価については、平成 20 年に文部科学省より示された「学校評価ガイドライン」に基づき、当事者や関係者ではなく「学識経験のある知見を有する第三者」による学校評価を行うため、平成 29 年度評価においては評価項目 16 項目、25 観点について教育行政評価委員会において実施しました。

3、点検・評価の手法及び公表

1)教育委員会事務事業点検・評価報告

平成 29 年度に実施した教育委員会の主な事務事業の実績を「事務事業点検評価シート」にまとめ、それぞれの目標に照らし合わせた成果を基に必要性・有効性・効果性などを各分野別において点検し、今後の課題や改善策をまとめ、担当課により次の基準で達成度・効果度の評価を行い、その結果を教育行政評価委員会において説明し、各委員より意見をいただきました。

①達成度の評価

事業の進捗状況として、当該年度において事業がどの程度まで実施できたのか

を評価する。

<評価基準>

A: 実践が進み成果を上げている。

B: 実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。

C: 実践に努めているが、達成度は低いと判断される。

D: ほとんど(全く)実践されず、努力を要する。

②効果度の評価

事業の実践により、当該年度に得られた効果がどの程度なのかを評価する。

<評価基準>

A:期待どおりの効果が得られたと判断される。

B: やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。

C:期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。

D:期待した効果がほとんど(全く)得られなかったと判断される。

2) 学校第三者評価

学校第三者評価は、学校が自ら学校運営を改善し、その教育水準の向上を図るとともに、保護者や地域住民等の理解と参画を得て学校づくりを進めていくため、自己評価や学校関係者評価に加えて実施するもので、単に学校に点数を付けたり、格付けしたり、監視したり、教諭を評価するための仕組みではなく、より良い「開かれた学校」をめざして行っています。

評価の方法は、「学校評価ガイドライン」で示されている評価項目を重点化し、 平成 23 年度に富良野市学校教育指導委員会より答申のあった 16 項目 25 観点に ついて各学校で自己評価をし、これを受けて、教育行政評価委員が「学校自己評 価」や「学校関係者評価」を参考に、学校訪問並びに学校関係者との意見交換を 実施いたしました。

3)公表

公表は議会、市広報紙・市ホームページに掲載するとともに、市の主な公共施 設でも報告書を閲覧できるようにいたします。

4) 評価結果

平成 29 年度の事務事業点検・評価の結果について、評価基準A~Dの4段階で集計を行いました。

◎事務事業評価

第1表 事務事業評価【達成度】

	A	В	С	D	計
件数	24	27	1	0	52 事業
構成比(%)	46.2	51.9	1.9	0	100%

評価基準 A:実践が進み成果を上げている。

B:実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。

C:実践に努めているが、達成度は低いと判断される。

D:ほとんど(全く)実践されず、努力を要する。

第2表 事務事業評価【効果度】

	A	В	С	D	計
件数	45	6	1	0	52 事業
構成比(%)	86.6	11.5	1.9	0	100%

評価基準 A:期待どおりの効果が得られたと判断される。

B: やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。

C:期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。

D:期待した効果がほとんど(全く)得られなかったと判断される。



第1回評価委員会議 (平成 30 年 5 月 24 日)



扇山小学校訪問 (平成30年7月3日)



富良野西中学校訪問 (平成30年7月3日)

教育委員会の活動点検・評価

平成29年度の教育委員会の活動点検・評価については、「教育委員会会議」「学校訪問」などの項目に分け、 教育委員会独自による点検を行いました。

1、教育委員会の活動の一覧

教育委員会会議については、偶数月に定例会を、必要に応じ臨時会を開催しました。また、毎月1回教育委員協議会を開催し、教育に関する様々な案件について協議しました。定例会については、開催予定や傍聴、報道機関への案内をするとともに、市ホームページに会議の内容等を掲載しています。

以下、平成29年度の会議開催状況等を示し、それぞれの活動内容について報告します。

1) 平成29年度教育委員会会議実施状況

(1) 開催回数

定例会:6回(原則として偶数月)

臨時会: 7回(随時)

委員協議会:13回 (原則として毎月)

(2)付議件数

内 容	件 数
条例、規則等に関すること	1 3
議会の議決を経るべき議案に関すること	_
人事に関すること	2
委員の委嘱等に関すること	2 0
その他	1 4
計	4 9

2) 教育委員会議の開催状況

少数月安县云碑	なっいいまかん	,u
□	開催日	開催內容
第2回 定例会	4月17日	(1) 富良野市立学校管理規則の一部訂正について (2) 富良野市ひとり親家庭等日常生活支援事業規則の制定について (3) 平成29 年度富良野市育英基金育英生の選考について (4) 富良野市教育行政評価委員の委嘱について (5) 学校教育指導委員会委員の委嘱について (6) 富良野市いじめ問題審議会委員の委嘱について (7) 富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について (8) 富良野市社会教育委員の委嘱について (9) 富良野市立学校施設利用に係る学校開放主事及び学校開放管理指導員の 委嘱について
第4回臨時会	5月25日	(1)富良野市学社融合推進委員の委嘱について (2)富良野市青少年補導センター補導員の委嘱について (3)富良野市子ども・子育て会議委員の委嘱について
第5回臨時会	6月15日	(1)富良野市教育委員会委員長の選挙について (2)富良野市教育委員会委員長職務代理者の指定について

Ⅱ 教育委員会の活動状況

第3回 定例会	6月23日	(1)児童生徒の出席停止命令の手続きに関する規程の一部改正について(2)富良野市教育委員会公印規程の一部改正について(3)富良野市いじめ問題審議会委員の委嘱について
第6回臨時会	7月18日	(1)外国語指導助手就業規則の一部改正について (2)富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について
第4回定例会	8月29日	(1)富良野市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準に関する条例の一部改正について(2)富良野市子どもと親の相談員設置規則の一部改正について(3)平成28年度富良野市教育行政評価報告書について(4)平成30年度使用する教科用図書の採択について
第7回臨時会	9月25日	(1) 富良野市コミュニティ・スクール協議会規則の全部改正について (2) 平成 29 年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町 村別結果の掲載について (3) 平成29 年度就学時健康(郷)員の委嘱こついて
第5回定例会	10月30日	(1) 富良野市子ども・子育て支援法施行規則の一部改正について (2) 平成29 年度全国学力・学習状況調査結果の公表について (3) 富良野市青少年表彰規則に基づく平成29 年度表彰者の決定について
第8回 臨時会	11月23日	(1)富良野市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する改正指針の制定について(2)富良野市子ども・子育て会議委員の委嘱について(3)富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について
第6回 定例会	12月18日	(1) 平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について
第1回 定例会	2月9日	(1)富良野市教育委員会事務局庶務規程の一部改正について(2)富良野市第3次学校教育中期計画の策定について(3)富良野市第3次特別支援教育マスタープランの策定について
第1回 臨時会	3月8日	(1) 平成 29 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の公表について (2) 教職員人事の内申について
第2回臨時会	3月26日	(1) 富良野市立学校管理規則の一部改正について (2) 富良野市学校災害補償規程の一部改正について (3) コミュニティ・スクール協議会の設置について (4) 平成 30 年度富良野市社会教育推進計画の策定について (5) 富良野市スクールカウンセラーの委嘱について (6) 富良野市子どもと親の相談員の委嘱について (7) 平成 30 年度富良野市学校医等の委嘱について (8) 富良野市児童扶養手当障害認定医の委嘱について (9) 平成 30 年度認可保育所における嘱託委の委嘱について (10) 富良野市立学校職員服務規程の一部改正について (11) 市立学校職員に関する面接指導医の委嘱について

3) 教育委員会委員協議会の開催状況

口	開御	開催內容
第4回 協議会	4月17日	協議(1)富良野市立学校管理規則の一部改正について 協議(2)富良野市ひとり親家庭等日常生活支援事業規則の制定について 協議(3)平成29年度富良野市育英基金育英生の選考について 協議(4)富良野市教育行政評価委員の委嘱について 協議(5)学校教育指導委員会委員の委嘱について 協議(6)富良野市いじめ問題審議会委員の委嘱について 協議(7)富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について 協議(8)富良野市社会教育委員の委嘱について 協議(9)富良野市立学校施設利用に係る学校開放主事及び学校開放管理指導 員の委嘱について 報告(1)平成29年度学校編成及び学校職員名簿について 報告(2)平成29年度富良野市立小中学校の主な行事予定について
第5回 協議会	5月25日	協議(1) 富良野市学社融合推進委員の委嘱について 協議(2) 富良野市青少年補導センター補導員の委嘱について 協議(3) 富良野市子ども・子育て会議委員の委嘱について 報告(1) 「2017 図書館要覧」の発行について 報告(2) 「2017 こども図書館まつり」実績報告について 報告(3) 運動会・体育際の教育委員の訪問について
第6回 協 議 会	6月23日	協議(1)児童生徒の出席停止命令の手続きに関する規程の一部改正について協議(2)富良野市教育委員会公印規程の一部改正について協議(3)富良野市こども問題審議会委員の委嘱について報告(1)富良野市立学校の適正規模適正配置に関する改正指針(素案)について報告(2)公立高等学校配置計画案(平成30年度~平成32年度)について報告(3)富良野市議会第2回定例会について報告(4)平成28年度学舎融合事業実践集録「クリエイティブふらの」について報告(5)富良野地区中体連について報告(6)富良野市第3子以降多子世帯就学助成金の支給について
第7回協議会	7月18日	協議(1)外国語指導助手就業規則の一部改正について 協議(2)富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について 報告(1) 平成29年度いじめアンケート調査の結果ついて 報告(2) 富良野地区中体連・上川代表決定戦の結果について
第8回 協 議会	8月29日	協議(1) 富良野市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準 に関する条例の一部改正について 協議(2) 富良野市子どもと親の相談員設置規則の一部改正について 協議(3) 平成 28 年度富良野市教育行政評価報告について 協議(4) 平成 30 年度使用する教科用図書の採択について 報告(1) 富良野小学校校舎管理等防水改修工事について 報告(2) 中体連全道陸上大会について

	ı	
第9回 協 議 会	9月25日	協議(1) 富良野市コミュニティ・スクール協議会規則の全部改正について 協議(2) 平成 29 年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への 市町村別結果の掲載について 協議(3) 平成 29 年度就学時健康診断員の委嘱について 報告(1) 富良野市議会第3回定例会について 報告(2) 「市長と語ろう! 地域懇談会」の開催について
第 10 回 協 議 会	10月30日	協議(1)富良野市子ども・子育て支援法施行規則の一部改正について 協議(2)平成29年度全国学力・学習状況調査結果の公表について 協議(3)富良野市青少年表章規則に基づく平成29年度表彰者の決定について 報告(1)H29いじめ・ネットトラブル絶滅!メッセージュンクールの審査結果について 報告(2)富良野市立保育所自己評価結果の公表について
第 11 回 協議会	11月23日	協議(1) 富良野市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する改正指針の策定について 協議(2) 富良野市子ども・子育て会議委員の委嘱について 協議(3) 富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について 報告(1) H29いじめZEROメッセージコンクールの審査結果について
第12回 協議会	12月18日	協議(1) 平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について報告(1)富良野市議会第4回定例会について報告(2)平成29年度「図書館まつり」実施報告について
第1回 協議会	1月19日	報告(1)富良野地区中体連スキー大会の結果について 報告(2)緑峰高校の学科再編に関する要望について
第2回協議会	2月9日	協議(1)富良野市教育委員会事務局庶務規程の一部改正について 協議(2)富良野市第3次学校教育中期計画の策定について 協議(3)富良野市第3次特別支援教育マスタープランの策定について 報告(1)イングリッシュキャンプ実施報告について 報告(2)将来の山部中学校に対する意見書について
第3回協議会	3月8日	協議(1) 平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の公表について 協議(2)教職員人事の内申について 報告(1)平成30年度教育委員会予算について
第4回協議会	3月26日	協議(1)富良野市立学校管理規則の一部改正について 協議(2)富良野市学校災害補償規則の一部改正について 協議(3)コミュニティ・スクール協議会の設置について 協議(4)平成30年度富良野市社会教育推進計画の策定について 協議(5)富良野市スクールカウンセラーの委嘱について 協議(6)富良野市子どもと親の相談員の委嘱について 協議(7)平成30年度富良野市学校医等の委嘱について 協議(8)富良野市児童扶養手当障害認定医の委嘱について 協議(9)平成30年度認可保育所における嘱託医の委嘱について 協議(10)富良野市立学校職員服務規程の一部改正について 協議(11)市立学校職員に関する面接指導医の委嘱について 報告(1)第1回富良野市議会定例会について 報告(2)平成30年度区域外通学について 報告(3)平成30年4月1日付人事異動について

4) 学校訪問・各種行事・会議・研修会等への参加

実施月日	行 事 内 容	開催場所
4月3日	・教職員着任式	文化会館
4月7日	・着任校長、教頭歓迎会	ワインハウス
4月17日	・平成29年度上川管内教育委員会連合会総会及び第1回委員研修	上川合同庁舎
	会	
5月24日	・平成29年度少年の主張大会	文化会館
5月25日	・教育委員学校訪問(西中、扇山小、山部中、こども通園センター)	小・中学校
5月下旬~	・各小中学校運動会(5月下旬~6月上旬)	各小中学校
6月13日	・平成29年第2回富良野市議会定例会開会	市役所議事堂
6月15日	・富良野市戦公没者追悼式	朝日ヶ丘公園
6月15日	・平成29年度富良野市音楽大行進	刘会館
7月6日	社会を明るくする運動街頭パレード	フラノマルシェ 2
7月18日	 ・教育委員学校訪問(東中、鳥沼小、東小、虹いろ保育所)	各小中学校
7月20日	・富良野市総合教育会議	市役所
8月22~23日	北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会	稚内市
8月227~23日	- 礼母旦都印教育安貞云建裕励歳云足別応云 - 教育委員学校訪問(山部小、布部小中、富良野小)	小・中学校
8月29日	• 教育安貞子仪初前(田部小、和部小中、苗民野小)	小•甲子仪
9月1日	・山部中学校開校70周年記念式典	山部中学校
9月5日	・平成29年第3回富良野市議会定例会開会	市役所議事堂
9月中旬~	・各小学校学芸会、学校祭(9月中旬~11月上旬)	各小中学校
9月25日	· 教育委員学校訪問(樹海中、樹海小学校、麓郷小中、布礼別小)	小・中学校
9月26日	・富良野市内小中学校音楽発表会	文化会館
10月12日	・上川管内教育委員会連合会研修会	和寒町
11月3日	・富良野市条例表彰式	市役所
11月12~14日	・教育委員会道外視察研修	高知県、愛媛県
11月23日	・平成29年度富良野市青少年表彰式	文化会館
11月27日	・第10回富良野市子ども未来づくりフォーラム	文化会館
12月6日	・平成29年第4回富良野市議会定例会	市役所議事堂
12月9日	・富良野市コミュニティ・スクール研修会	文化会館
1月7日	・平成30年富良野市成人式	文化会館
1月9日	・平成30年富良野市新年交礼会	文化会館
1月11日	・平成30年山部地区新年交礼会	山部福祉センター
1月11日	・平成30年東山地区新年交礼会	東山公民館
1月12日	・平成30年富良野市新春教育懇話会	バランドふらの
1月20日	・平成29年度富良野市PTA連合会新年懇親会	バランドふらの
2月28日	・平成30年第1回富良野市議会定例会開会	市役所議事堂
3月中旬~	・各小中学校卒業式	各小中学校
3月26日	・校長、教頭惜別式	バランドふらの

2、教育委員会議

次に掲げる事項が、教育委員会議において議決が必要な事項で、それ以外の権限に属する事務は教育長に委任されている。

- (1)教育行政の運営に関する一般方針を決定すること。
- (2) 学校その他教育機関の設置及び廃止すること。
- (3)教育委員会規則及び規程を制定し、又は改廃すること。
- (4)請願、陳情等の処理に関すること。
- (5) 1件300万円以上の教育財産の取得及び処分を市長に申し出ること。
- (6) 1件300万円以上の工事の計画を策定すること。
- (7)学校その他教育機関の敷地の選定及び変更を決定すること。
- (8) 道費負担教職員の懲戒及び道費負担教職員たる校長、教頭の任免その他の進退について内申すること。
- (9) 道費負担教職員の服務の監督の一般方針を定めること。
- (10)人事の一般方針を定め及び懲戒を行うこと。
- (11)教育部長、課長、館長、主幹、館長の任免を行うこと。
- (12)法令、条例、規則に定める委員の任命又は委嘱すること。
- (13)教育予算その他議会の議決を経るべき議案について市長に意見を申し出ること。
- (14) 通学区域を設定し、又はこれを変更すること。
- (15) 富良野市育英基金条例による貸与、若しくは給付対象者を決定すること。
- (16)校長、教頭、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。
- (17)長の補助機関たる職員、若しくは長の管理に属する行政機関の長に教育委員会の権限に属する
- (18)事務の一部を委任し、又は補助執行させること。
- (19) 市文化財を指定し、又は指定を解除すること。
- (20)児童生徒の出席停止に関すること。

3、教育委員会議の評価

1) 議事について

条例や規則の改正、各種委員の委嘱等、事務的な手続きによるもの以外については、各委員の高い識見と課題解決に向けた積極的な発言が多くありました。また、各委員への報告や事前相談・協議、情報提供等により、円滑な会議運営がなされました。

なお、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が平成 27 年4月1日から施行されましたが、執行機関としての教育委員会の位置付は維持されており、公立小中学校の管理、教職員の人事その他の教育委員会の所掌に係る事務は、引き続き教育委員会の合議に基づいて執行されることとなっております。このため、教育の政治的中立性、継続性・安定性の確保、教育行政への多様な民意の反映、教育長及び事務局が執行する事務の評価・監視という教育委員会の役割の重要性に変更はありません。

2) 学校訪問について

教育委員と事務局職員により市内 15 校の小中学校を全て訪問し、校長・教頭からの説明及び児童生徒の学習の様子を見学し、子ども達の学びの様子や学校の概要、運営方針、施設、教育環境、授業等さまざまな視点から、学校現場の実態把握と総合的な観点から学校の運営状況についての把握に努めています。

また、平成29年度に組織機構改革に伴い教育委員会への移管となった虹いろ保育所・こども通園センターも併せて訪問し、施設概要や運営方針、子どもたちの様子を視察・把握することにも努め、児童福祉及び教育の観点・視点の一元化による幼児期からの一貫した特別支援の推進や福祉サイトと教育サイドの相談支援体制の総合的な構築についても理解を深めています。

3) 各種市内行事、会議、研修会等への参加

各学校の運動会・体育祭・学芸会・学校祭・卒業式などの学校行事には、各委員が教育委員会を代表して出席をし、教育委員会が主管する教職員着任式、音楽大行進、青少年表彰式、成人式等の行事や式、会議に出席しました。さらに、全道、管内、富良野沿線の教育委員研修会にも積極的に参加し、教育に関する情報収集や教育行政の諸課題についての理解を深め、地域の実情や特性に応じた特色ある教育行政の推進に向けて研鑚を図りました。

4) 広報活動

定例会・臨時会の審議内容については、市のホームページで公開しています。教育委員会や学校で取り組んでいる状況について、市民の一層の理解と協力を得るために、今後も引き続き広報紙やホームページなどをはじめ、新聞・ラジオ等のメディアの活用を進め、開かれた教育行政、効果的な教育行政の推進を図りました。



◎事務事業点檢·評価一覧

所管課		評 価 項 目		細項目		度評価 効果度	備考
	1	市立小中学校配置計画	1	・適正規模適正配置に関する指針	A	A	
	2	全国学力・学習状況調査	2	・全国学力・学習状況調査	A	Α	
	3	全国体力·運動能力等調査	3	・全国体力・運動能力、運動習慣等調査	A	Α	
			4	・適応指導教室事業	A	Α	
		S W Is	5	・スクールカウンセラー活用事業	В	Α	
	4	心の教育	6	・子どもと親の相談員活用事業	В	А	
			7	・心に響く道徳教育事業	A	А	
	5	いじめZERO推進	8	・富良野市いじめ問題対策連絡協議会	А	А	
学校	0		9	· 特別支援教育支援員配置事業	А	А	
学校教育課	6	特別支援教育	10	·特別支援連携協議会推進事業	В	Α	
育課	7	キャリア教育	11	・富良野市キャリア教育推進会議	В	А	
	8	食育	12	・食育推進事業	В	А	
	9	情報教育	13	・ICT利活用事業	В	А	
	10	国際理解教育	14	· 外国語指導助手招致事業	А	А	
	11	健康診断事業	15	・児童生徒、教職員健康診断実施事業	А	А	
	12	小中学校歯科衛生	16	・フッ化物洗口事業	А	А	
	13	高校教育	17	・高校教育の推進	А	А	
	14	コミュニケーション教育	18	・学校教育コミュニケーション教育推進事業	A	А	
	15	芸術文化	19	・子ども芸術鑑賞教室事業	В	В	
	16	家庭教育	20	・家庭教育支援事業	В	Α	
	10	永庭教 自	21	・親と子のふれあい事業	В	Α	
			22	・子ども未来づくり事業(未来づくりフォーラム)	A	А	
			23	・ふらのまちづくり未来ラボ推進事業	В	А	
			24	・子ども会育成事業	В	А	
社会			25	・青少年表彰事業	В	А	
会教育	17	青少年教育	26	・青少年補導センター運営事業	В	А	
育 課			27	・放課後子ども教室推進事業	В	А	
			28	・児童館・学童保育センター運営費	В	А	新規評価項目
			29	・学社融合推進事業	A	А	
			30	· 青年活動活性化事業 (青年塾)	В	В	
	18	成人教育	31	・ふらの市民講座事業	В	В	
	19	高齢者教育	32	・ことぶき大学運営事業	В	В	

所管課 評 価 項 目		部 /F /B D	細 項 目		29年月	度評価	備考	
川官珠		評価項目				効果度	// // // // // // // // // // // // //	
; [33・ファミ!	・ファミリーサポートセンター事業	В	A	新規評価項目
こども未	90	子育て支援	34	・子育て支援センター運営費	В	Α	新規評価項目	
未来	20	丁月〔又拔	35	・こども通園センター運営費	В	A	新規評価項目	
課			36	・へき地保育所運営費	В	A	新規評価項目	
保虹	01	は、7月本 記	37	・認可保育所運営費	В	A	新規評価項目	
育い所ろ	21	虹いろ保育所	38	・障がい児保育事業費	В	А	新規評価項目	
生	22	文化財保護	39	・文化財保護啓蒙・普及活動	В	В		
セ涯ン学	90	[40	・博物館活動推進事業	А	А		
タ習	23	博物館	41	・自然体験・環境学習事業	А	A		
Ì	24	文化振興	42	・山部菊の会補助金	С	С		
	25	森林環境教育	43	・森林学習プログラム推進事業	В	В		
		図書館	6 図書館	44	· 図書館運営管理事業	А	A	
図	0.0			45	· 図書資料整備事業	А	A	
書館	26			46	・読書活動推進事業	А	Α	
			47	・子どもの読書推進事業	А	Α		
給富 食良			48	・安全安心な学校給食の提供	А	Α		
セ野			49	・「富良野ふるさと給食」の実施	А	A		
ン学を校	27	富良野学校給食センター	50	・食に関する指導の推進	А	A		
			51	・学校給食費の徴収	А	А		
			52	・食物アレルギーの対応	В	Α		
				A (実践が進み成果を上げている)	24	45		
評価結果:集計			B (実践が進んでいる)	27	6			
			C(実践に努めている)	1	1			
				 D (努力を要する)	0	0		
				計	52	52		

①達成度の評価基準

A: 実践が進み成果を上げている。

B: 実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。

C: 実践に努めているが、達成度は低いと判断される。

D: ほとんど(全く)実践されず、努力を要する。

②効果度の評価基準

A:期待どおりの効果が得られたと判断される。

B: やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。

C:期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。

D:期待した効果がほとんど(全く)得られなかったと判断される。

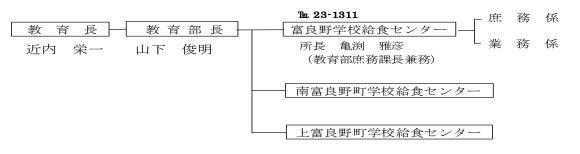
富良野市教育委員会行政組織図

平成29年4月1日現在



富良野広域連合教育委員会行政組織図

平成29年4月1日現在



評 価 項 目	市立小	ト中学を	交配置	計画				担	当	課	学校教	女育課			
事務事業名	適正規	見模適工	 E配置(こ関す	る指針							_			
事業の	達にと 効果が う子めの	による! それ、 にてもよが! も方向性!	育の機会 、又、公 常に良め	会均等の 公平性を 好な教育	り観点か と保ちな	ら十分 おら次	な教育 代を担	事業	巻 年	度	~19	始 P成17 年度 1年度	終継	了 続	
目的・概要											H25	H26	H27	H28	H29
								事業!				_	_	_	_
前年度の課題	ある	の学校(。	の在りえ	庁につ↓	いては、	単Pや	地域と	の意見		を重	重ねなが	ら方向	性を協	議する。	必要が
当該年度 <i>0</i> 目 楊	関係	28年 者への 記	説明及で	び機関決	央定を行	゙ う。			•						
	以後	11月21	に応じ、 日~樹約 日~布部	説明 毎地区巻 部小中学	(意見交 教育懇話 学校 P T	換)を会A会議	実施。 10月	3 日~	将来	の山	山部中学	₽校を考	える会		
	●○ 改訂 換。	指針(案	(i) につ v	へて、柔	女育 安貝	、協議会	で内容・	を協議	きし、	総合	介教育 宏	議にお	いて申	長と恵り	 見父
事業の	기 訂指	後、市場		手続「ノ	ペブリッ	クコメ	ント」	を経て	. 11	月阝	昇催の勢	(育委員	.会第8	回臨時会	会で改
実施状況	○山部	中学校	及び樹糸												
	○山部に「	・ 中学校(平成324 意見書)	年3月を	をもって	て市内中										
		H25	H26	H27	H28	H29							ま の		
評価	達成度	A	А	A	A	A	備が ○適正	進んで規模通	ごいる	。 L置 (こ関して	て、教育	百会要 「委員会 「委員会	の考え	方を示
	効果度	A	A	A	A	A		から、行う。		有 ~	℃地域1:	E氏とい	教育環	境に関	する筋
		Ŀ	}		後		0)			課		是	夏	
h bit o	ね、	とも、こ方向性					方につい	いては	、 単	P	(保護者	[*])や地	域との	意見交換	<u></u>
今後の		7	 发				크							育	
,	○文部考に	科学省 、今後 び適正	から平 の児童 ^生	生徒数の	り推移や	РТА	、公立、地域	小中学 の意向	を十	分に	こ踏まえ	_、「市	手引(i立小中:	改訂版) 学校のi	
		方針を行して統分									民の意思	を尊重	し、生	徒・保証	護者が

評価項	目	全国学	生力・当	学習状活	兄調査				担	当	課	学校教	女育課			
事務事業	纟名	全国学	生力・当	学習状活	兄調査											
事業	の	から、 ること		徒の学え	り・学習	状況を	≝持向上 ∵把握・ 。。	分析す	事	業 年	度	開 平成1	始 9年度	終継	続	
目的・根								-				H25	H26	H27	H28	H29
									(単	養(決 位 : 千	円)		国費	国費	国費	国費
前年度課	の題	を含 〇富良 上推:	め望ま 野市 P ′	しい生活 T A 連る	舌習慣の 合会・富)定着を 『良野市	図る必 対校長会	ランの () 要が a 良い 作成 しか	る。 野市	教育委	員会	⊹の3者	で構成	する富	良野市	学力向
当該年度目	ぜの 標		生徒の ⁹ 紙調査(習慣の	把握								
		○調査	日 平成 対象及で 教科	び調査さ		数		手生:15	58名	中学	≥3年	生:21	2名			
事業実施状		・ 小は中っな率、の 警値も	全校い、全語国 平は。 現国 国国 国国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国	力均 中均算	の結果に を ・	回ってV 番 B ・ 数 3 年 前 の を と 国 平 で 全 国 平	る。 (学A・)小学6 () () () () () () () () () (全国平均数学Bの発生でできる。 年生、下回に対している。 できるというできる。 できる。	の全 ける 学 6 で 9 で 9 で 9 で 9 で 9 で 9 で 9 で 9 で 9 で	ての を 調査 年生た オイ	女科に 至点に では、 という	こおいて 国語 A・ ごは の 内 い 以 内 ま	、全国 B、算 語Aで I査では	平均正 数 A・ 全国平 、全国	答率と「 B)の ³ 均正答 ³ 平均を	司等と 平均正 率と同
			H25	H26	H27	H28	H29	ì	達	成月	度	· 効	果児	ま の	検 i	E
評	価	達成度 効果度	A	A	A	A	A	取組、 期休 着が つまた、 ミュ	、業現、ニ教中れ演ケ	職員のできる	か習さ となっ かいこう かいこう かいこう おいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま か	记、特別 けポート る。 ひ りの も力の に	た授業 川支援教 い」な いた リト リト リト	(育支援 *学習内 ・クショ	員の配 容の着 ップに	置、長 実な定 よるコ
				\ \		B						⇒ ₩			चर्द	
		○確か	な学力」	•	りざして	後 〔、学習	改善プ	ランの領	実施	ととす	に、	授業改	(善及び		題 開と家原	 庭学習
今 後	の	を含 〇富良 上推: 組を	め望ま 野市 P ′	しい生活 T A 連る	舌習慣の 合会・富)定着を 『良野市	:図る必 i校長会	要がある・富良野作成した	る。 野市	教育委	員会	会の3者	で構成	する富	良野市	学力向
取 組	み		Ę.					車							策	
		子ど	もたち	の状況を	ときめ組	ヨかく把	捏握し、	的に推済の計算の意	炎善	充実を	図る					
		に対す る。	る適切に	な助言な	学習内	羽容の確	実な定	徒の家原着や家原 着や家原 結果を不	庭で(の学習	機会	きを確保	いするた	めの課	題等を記	設定す
						・ナナル	, 「大.邑.」	70 / C 1	13 ///11	->1010	- 111 /1	, U 、 /I	エッナ		- EU で。	

評	価 項	目	全国体	力・道	重動能力	カ、運	動習慣	等調査	:	担	当	課	学校教	故育課			
事務	务事業	名	全国体	力・追	重動能力	カ、運	動習慣	等調査	:								
事	業		子ども が全国! とに課題: る。	的な子 り、子	どもの位	本力状況 本力の向	元を把握 可上に係	・分析 る施策	するこ の成果		業年	三度	開平成1	始.9年度	終継	了 続	
	ーデータング ウェ 概	-											H25	H26	H27	H28	H29
											費 (ε) 位 : ∓		国費	国費	国費	国費	国費
前課	年 度		○調査	引き続 結果の 要があっ	き体力に データを る。	句上の耶 を把握・	対組みを ・分析し	·継続す 、児童	る必要 生徒一	があ 人ひ	る。 とりの	の体ナ	つや運動	內習慣等	の改善	の取組を	を進め
当意目		の標	○児童 ² ○質問 ²				見状調査 まの運動		把握								
-	業 施 状	況	・実 【29年』 体力・ 平均も	施対象目 調計回生均 結点つ徒を	小小 中	交5年生 支5年生 左5年生 左5年 左5月 大5月 大5月 大6日 大7日 大7日 大7日 大7日 大7日 大7日 大7日 大7	: 180名 フ、上体 フのm走上体 フのm走、体 でかる である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	、 起立起立 に 正 に に に に に で し に に で し に に で し に が し に し に に し に し に し に に に に に に に に に に に に に	校2年4年 (水)	体ソ体ハ 平 と中 前フ前ン 均 と学	届 ト 屈 ド ・ を 回 校 2 4 と と と と と と と と に に に に に に に に に に に に に	- ル投 を マル り り た 生 り 、 害 り 、 き り り た り り り り り り り り り り り り り り り り	せげ 黄跳げ 小 合 引子では、	20m シ 変男子・ 小学校 は、全国	ヤトル 中学校 5年生を	ラン 男子は、 男子・ ³	女子共
評		価	達成度	H25 A A	H26 A A	H27 A A	H28 A A	H29 A A	○ 各学 活会で ○ 各学	校・ 、部 も優	活動; 秀な! おい	を挙り が継組	ずた体力 売的に耳 を上げて	果 月 かが 組ま いる。 に体力 向	やスポ れてお	ーツ少り、各	年団 種大
				Ŀ	<i>y</i>		後			つ			課		旦	頁	
今	後	の		校でも? 向上の〕 結果の? がある。 からの?	・ 独自に含 取組みを データを 漬極的な	を継続すると把握・	で体力調ける必要・分析し	∵、児童	施して 。 生徒一 での登	おり 人ひ 校な	とりの	の体力	上取組と	· 習慣等	の蓄積の改善る機会	により の取組? を持つ。	を進め
取	組	み	〇小学		女 少年団活	舌動、 中	学校で	の部活		姜 積極	的なり	加入る	>促し.	家庭・		地域・	スポー
			ツ関(〇「早? よる(〇引き)	係団体 寝・早戸 体力向 続き、『	と連携し 起き・韓 上を推進	ンながら、 明ご飯、 生する。 テストを	。「知・ みんな と全学年	徳・体 :そろっ	」の調て晩ご	和のはん	とれ7 」運動	と成長 動なと	を促進 、規則	まする。 引正しい	生活習	慣と食	習慣に
								-	-	-						-	

評価項目	目	心の勢	女育						担	当	課	学校教	大育課			
事務事業	名	適応指	導教 国	宦事業												
事 業 (目的・概要	の	し保護 へ情優・ はの操・ でる家庭	者、学校制練。社会性の	交、関係 と基本的 の育成を への支持	系機関等 内な生活 を図る。 爰及び7	る市内の 静と間 で を で を で を で を で を で を で を で を で に に に に に に に に に に に に に	携のも 改善や 童生徒	と学校 豊かな を抱え	事	業 年	度	平成1	始 5年度 H26	終 継 H27	了 続 H28	H29
		○ひき や学校 ☆焦ら	関係機関である。	関との過 きらめっ	車携強化 げ、コミュ	つ解決を とに努め ニケーション?	る。 を基本 <i>l</i>	こ推進	(単/		円)			2,592		
前年度は課								携を図り意義を覚						_	-	
当該年度は目		○不登	校及び	その傾向	句にある	る市内の	児童生	徒に対し	ン、 ¹	学校~	への後	夏帰訓練				
事業(実施状)	の況	○不登○に、○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方○下方<th>校児童 こもり 24年度 3年生る。 3 年生る。</th><th>生徒を招かり、それから、とり、</th><th>包え 題のと 土 会 不 を と し た の と の と と し た の の の の の の の の の の の の の の の の の の</th><th>)解決を たの積を 上士し、 計し、 対策</th><th>援するし情にかれている。</th><th>とともに、家庭やは、 本等の関かな支援を実施を実施を実施を実施を実施</th><th>や学 写明 を し</th><th>校・</th><th>関係機 持った な受験</th><th>と関との に個々の 対を整え 食に対す</th><th>連携強 課題に て る 支援</th><th>化に努 対応で。 を行い</th><th>きる教員、全員7</th><th>員免許</th>	校児童 こもり 24年度 3年生る。 3 年生る。	生徒を招かり、それから、とり、	包え 題のと 土 会 不 を と し た の と の と と し た の の の の の の の の の の の の の の の の の の)解決を たの積を 上士し、 計し、 対策	援するし情にかれている。	とともに、家庭やは、 本等の関かな支援を実施を実施を実施を実施を実施	や学 写明 を し	校・	関係機 持った な受験	と関との に個々の 対を整え 食に対す	連携強 課題に て る 支援	化に努 対応で。 を行い	きる教員、全員7	員免許
	-							応指導教								だいた。
評	価	達成度	H25 A	H26 A	H27 A	H28 A	H29 A	〇一人で な体駅 的なII 基礎的	ひ	動、 心の 学力の	実態に うじょう しょう こう	こ即した きこもり かた基本	上教育相) 」の解 生活意 に的な生	消、学 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 き っ し 、 に う に り に り に り に り に り に り に り し し り し し り し し り し し り し し り し し り し り し り し り し り し り し り し り し り こ り こ	校支援 校復と き の 改善	や多様 、社会 もに、
		効果度	A	A	A	A	A	○スク-	ール	カウン	ノセ	ラーと通				護者に
今後(の復	帰を目	・ 童生徒に 指すとと	ともに、	適応指	導教室	携を図りの意義を) な; と学	校及で	ド保護	養者に広	く周知	する必	らい、 ^を 要があ ^り	る。
	み		Ę	女				善善善						9	ड	
		配布 〇適応 こと	の手段。 すると。 指導教 から、!	として ともに、 室に通 見童生	気軽に 吸してい 走及び家	こ教室を いる児童 を 庭に対	·訪問し 生徒が する一	取組みたれたるに対してもある。	える 引題 支援	よう、 の多く が必要	学校は、	交等への 家庭な っり、引	周知に どにも き続き	内容の 努める 原因が スクー	チラシュ チラシュ 起因し [*]	ている

評価項	目	心の耄	女育						担	当	課	学校羲	故育課			
事務事業	名	スクー	ールカリ	ウンセ	ラー活	用事業										
事業	の	校となる	不登校の要理ストリストリストリストリストリストリストリストリストリストリストリストリストリス	ウンセ 題となっ して高 ルカウン	リング等 っている 度に専門	等の機能 る。この 月的な知	充実を ため、 1識・経	図るこ 生徒の 験を有	事	業。	宇 度	開 平成1	7年度	終継	了 続	
目的・棚			ケアを 徒への		セリンク	Ť						H25	H26	H27	H28	H29
			職者、				援助		事業	巻書(:	決算)		道費	1121	道費	道費
											千円)		一部市費 83	道費	一部市費 139	一部市費 245
前年度課		不安 し、	を抱え 適切な!	ること z 助言や i	が多く、 きめ細や	相談内	容も多 接が必	岐に亘 要であ	って る。	いる	。生物	こちの心 走をはじ ることか	じめ、教	職員や		
当該年度目	で標	○生徒	の不登	校、い	じめへの	対応と	・心のケ	ア。								
-tr 116		○教職 ○保護 ○H29年	へのカ 員に対 者に対 手度実績 費・市	する助 する助 { 4 校	言・援助 言・援助 (富良	カ カ 野東中学	延 9 延 4 学校、[山部	中学校。	、樹海「	中学校)		
事業実施状	の温															
	1)4															
			H25	H26	H27	H28	H29		達	成	度	· 効	果原	更の	検証	
評	価	達成度	В	В	В	В	В	いる など のケ	ケー がカ ア、	スが ウン 保護	ある。 セリン 者と	よまがまたまままままままままままままままままままままままままままままままままま	学校で そけたこ き務の成	*生徒・ .とによ : : : ! ! ! !	保護者 り、生 がって	・先生 徒の心 いる。
		効果度	A	A	A	A	A				もあれ	連携も♡ る。	SOM	. わり、	金仪に	茶かつ
				>		後			0			課		是		
		不安 はじ	を抱え め、教 ¹	ることz 職員やf	が多く、 呆護者に	相談内 二対し道	容も多 切な助	岐に亘 言やき	り、 め細	相談 やか	件数 を な支払	こちが心 ら増加し 爰が必ま ることか	ている である	。引き 。		
今 後	の 7			,) /·						£-	
取 組	み	() 7 h		ウンセミ	⇒ — ≃	2 校 淬	1.大投道		<u>等</u> レの	桂却	六協 1	と連携を	> III N	相談事		n 幺F フ・
			極的に										. 凶り、	7日 吹 争。	₹♥ノ収「	リ RLL グナ

評価項目	一心の著) 育						担	当	課	学校教	女育課				
事務事業名	4 子ども	らと親の	の相談	員活用	事業											
事業の	して、 て不登 期対応 育相談	また、 校や問 、児童	学校と 題行動 虐待への	呆護者・ 等の未然 の対応及	目談でき が域 は 防 は が が が れ が れ に が れ に が れ に り れ に り れ に り れ に り れ り た り れ り た り れ り た り れ り た り た り た	パイプ 早期発 :校にお	役とし 見、早 ける教	事 業	年	度	開 平成1	始 6年度	終継	了 続		
目的・概要		童の話	し相手	悩み	目談						H25	H26	H27	H28	H29	
					炎活動の)支援		事業費(単位			1,658	1,754	1,589	1,682	1,869	
					R護者へ	のきめ	細やかな	な対応	と、	相割	後員と関	わるこ	とので	きない。	ケース	
前年度の課	〇配置	アプロ・こしてい	ーナかり る学校り	必要。 以外にま	おいても	要相談	ケースか	ぶ発生	して	おり	、個別]の対応	が必要	である。		
	○ いじ	め・不:	登校なる	どの未然	*防止や	早期対	応。									
当該年度の目																
	○子ど	- どもと親の相談員を小学校に配置(富良野小学校、扇山小学校、東小学校)														
事業の実施状況	②家 ③そ ④中	①児童の話し相手・悩み相談 ②家庭・地域と学校の連携の支援 ③その他の学校の教育相談活動の支援 ④中休み・昼休みを中心に来室 来室者 延べ208名(心の相談・学習相談・児童同士の相談など) ※児童、教員、保護者 未配置の児童に対する個別カウンセリングの実施 保護者に対する心のケアに関する講話の実施とカウンセリング体制の確立														
大旭 1八 1	○木配								セリ	ンケ	で体制の	確立				
	〇木駅	字児(1	保育所/	人)灯况)	の行製	関祭べ	保護者~	\(\(\)\(\)\(\)	1	セリ	200) 美胞				
		H25	H26	H27	H28	H29	į	幸 成	度	Î.	• 効	果月	ぎの	検 証	É	
							○教室 る		った	親し	レみやす	トく和め	る場所	として	開放し	
評 促	達成度	В	В	В	В	В	○気にた 教諭。	なる児 と情報	共有				気の様子 いな見守			
	効果度	A	A	A	А	A	(二分)	めてい 	<i>૱</i> 。							
	0.000		>	D -t> 10	後	- 3: .3	0)		,	1	課		是			
		を抱え アプロ			・ 護者へ	いさめ	細やかな	2 对心	٤, ١	相彰	≷貝と関	わるこ	とので	さない	ケース	
	○配置	してい	ない学札	交におり	ヽても要	相談ケ	ースが多	後生し	てお	り、	個別の	対応が	必要で	ある。		
	○カウ	ンセリ	ングが』	必要なり	見童の把	握と対	応が必要	更とな	って	きて	いる。					
今後の																
取組み							善						9			
		児童が 保護者					があると							た側面フ		
						子 [] 147	知識を作	すした	有(臨牙	·心理士	. 守丿 を	'引き統	き配置で		
	〇未配	置校に	おいて゛				知識を作要に応し						りき続	き配置で	, v ,	
				も、学を	交と連携	もし、必		ごて個	別の	対応	を行う		・ 引き続	き配置で		

評価項目	心の教育						担	当	課	学校教	育課			
事務事業名	心に響く	道徳教育	事業											
事業の	自然体験やなる。 のに教専門の を のな の の の の の の の の の の の の の の の の の	さどから規範ではいやる心 で実に努め でなる人を では会人を でおいて	色意識やいなど、: るため、 と外部講師 そどもの	倫理観 豊かな 地域の 師とし	、生命 心を育 の人材 ^な て活用	を大切 む「心 や多様 し、道	事	業 年	三度	開 平成1	始 9 年度	終 継	疗続	
目的・概要	い、道徳教	有の充実を	と図る。							H25	H26	H27	H28	H29
								養費(海 位 : 千		88	78	87	85	85
前年度の課題	○長年実施 が求めら		とめ、富	良野市	にゆか	りのあ	る身	近でノ	ベラコ	ニティに	富んだ	講師(人材)(の確保
当該年度の 目 標	○命を大切 育の充実 ○全小中学	€.												
事業の実施状況	・富良野・富良野・北海道	が が で 所「自「大」 で で で で で で で で で で で で で	所 会頭の 会間の 対象人間 を教と大 を要と大	生林の松間橋 大方 き 生静	おい は は り り り り り り り り り り り り り り り り り	て」 いて」 ついて	実施実施実施)のmm 校 6 tk 校 2 tk 校 1 tk 校 4 tk	交 交 交					
	H	25 H26	H27	H28	H29		達	成	套	• 効	里 博	ま の	給 訴	
評価	達成度 4		A	A		○講師 生徒	の豊 から	富な気	知識なの尊る	や経験等	Fに基づ 「新たな	で く 講話 発見」 を 響く 講	により. といっ:	、児童 た感想
	効果度 4	A A	A	A	A							造講師		
	○長左字坊	今 iしているカ	- み 庁	後	シェルム	n n t		E7.		課	宮) だ	是		ひた 1日
今後の	が求めら		こめ、 畠.	艮野巾	(C 197)3	9000	○ 夕:	近 C/	ヽフュ	ーアイに	. 畠 ん に	講印	人材)。	グ催休
取組み		改					痵					Э	ŧ	
	○市内企業	きからも講自	市派遣に、	ついて	協力を	願う。								

評価項	目	いじぬ	うZERO才	推進					担	当	課	学校教	育課			
事務事業	名	富良野	予市いし	じめ 問題	題対策	連絡協	議会、	富良興	予市し	ハじめ	問題	題審議	会			
事業(•	議発も対にを・	組織し、早期解:登校の	、協議会 消、その 防止・原 学校やF	会はいし の他いし	がに基づた。 とのの登り とのの登機 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	然防止 処を図 校時等 関・団体	・早期 るとと の安全 本との	事	業 年	度	開平成2	始 6年度	終 -	了	
目的・概		か確に	対応す	16を図り る。	ノ、一月千	以父1矢で	11 A.YE	述がり				H25	H26	H27	H28	H29
		する事	垻を調:	企番議	する。	ヽじめZE				124	1 7	_	_	53	67	51
						と検証しない」こ								に授業	や学級活	舌動等
前年度。課		<u></u> ついじ		に向けて	て講演会	会を開催								な学校	• 地域~	づくり
当該年度	の標		めZERO) 意識向			文組取り	組みと	ともに	、児	童生徒	^	「いじめ	は絶対	にゆる	されない	ハ] こ
事業(実施状)	の況	のい・協・・・・い・・富・安じ審議校富子社富じ11講良応	全め議会長良ど会良め月師野募な審会構会野も教野に28旭市総生議~成 警会育市関目川い数	活会月16日 現 で	の催日 A・格 員寅55光の点確し開 連富協・会会名台メ(保、催 合良議会・の参中ッし)		ERO事良保石ー村ン部良・護油ト田ク部での部100	業 等良童協良 昌ル の 学野対同野 俊 996年 札 校医策組 ゼ 点	対性が師地合と、	連絡なっない。富い議会は、いまれば、いまれば、いまれば、は、のでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	議会審経済・員	☆~5月 ☆~をい 議をい ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	25日開作 ただい 校 ・連 導連 議 領 協議 会	能た。 合町内 協議会		
			H25	H26	H27	H28	H29		達	成度	ŕ	• 効	果馬	ま の	検証	
評	価	達成度	_	A	A	A	A	な内 ○いじ より	容に め Z 394f	ついて ERO 作品多い	学習)メッ い応	寅会を開 習する良 ッセーシ 募結果	催し、 い機会 コンク となっ	いじめ となっ ールを	に関す た。 実施し	る様々、昨年
		効果度	_	A	A	В	A	度、	初め		ター	一部門に		9 作品		
		O1 > 1°		7	7 仕田 3	後記し	71.2		D 四 李	4-3-	T. F	課	. 1, 1. 3	是極業		工利が
	の	で「 ○いじ	いじめ	は絶対記	午された て講演会	を検証しない」こ 会を開催	との理	解や意	識向	上を図	る必	公要があ	る。	な学校	・地域~	
取 組	み	○正座		女	サーナフ !!	主车业分	~ 小戶		غ	1、古 24	tr	\$ 	- Z 1, 1.	# 15		知 Æn ≀ァ
		努め ○引き	る。			見童生徒										

評価項目	特別支援教育	担 当 課 学校教育課
事務事業名	特別支援教育支援員配置事業	
事業の		事業年度 平成20年度 継続
目的・概要	介助や学習活動の支援、安全確保などのサポートを行うため、特別支援教育支援員を配置する。	事業費(決算) (単位:千円) 15,492 18,349 21,033 21,006 26,761
前年度の課題	等を推進していくことが大切である。 ○増加し続ける対象児童生徒のニーズに応じたす	なか、関係機関と連携を図り、早期からの教育相談 区接員の配置や増員。 マー、教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた
当該年度の 目 標		
事業の実施状況	めの指導体制を進め、支援員の増員を図った。 配置支援員 富良野小8名、扇山小5名、東小6名、山部小 (平成28年度 20名、平成27年度 19名) 対象児童生徒 341名(平成28年度 338名、平成27年度 338名、平成27年度 338名、平成28年度 3382)、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行うた 1名、鳥沼小1名、東中2名、西中2名の計25名 ^Z 成27年度 324名) 3必要な児童生徒数の調査+特別支援学級児童生徒)
評 価	達成度 B B B A A 共不改計 切り () (低空	達成度・効果度の検証 学校のコーディネーターとの関わり、担任との情報 肯において課題のある学校も若干みられるが、年々 善しながら、児童生徒の教育的ニーズに合わせた適 な支援に取り組むことができてきている。 学年からの対応することにより、進級に従い、対象 電生徒が減少傾向にある。
今後の取組み	等を推進していくことが大切である。 ○増加し続ける対象児童生徒のニーズに応じたま ○各学校に配置している支援員とコーディネータ 支援・指導が必要。	の 課 まか、関係機関と連携を図り、早期からの教育相談 支援員の配置や増員。 一、教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた 養
	○研修・講習会を行い、配慮・支援が必要な児童 ルアップに努める。○各学校で行われている支援の方法やコーディタ	重生徒への適切な支援を行えるよう、さらなるスキ ベーター、教員との情報共有の方法などを全校で共 協議会で共有し、関係機関との連携と課題解決がで

評価項目	特別支	泛援教育	育					担	当	課	学校教	対育課			
事務事業名	特別支	天援連 担	隽協議:	会推進	事業										
事業の	づなら教携は	すべら 発望を 利	の幼児・ が、おる けっるたる なする。	・児童・ 互いの個 い豊かに め、関係	こたくま 系者によ	障がい 重しく る 特別	のある いな合う 支援連	事	業 年	度		始0年度		続	
目的・概要	就学 •協議	を図る 会に知	的部会	情緒部		語部会	• 専門	事業	費(決 泣:千	: 算) 円)	H25 160	H26 130	H27 221	H28	H29 488
前年度の課題	等を ○学校 ○各学 指導	推進し、 内でに配け が必要。	ていくこ ーディス 置してい	ことが必 ネーター ヽる支持	公要であ −業務、 爰員とコ	る。 役割等 ーディ	いるなだ 、引き約 ネーター を定作業	坐ぎ(- 、 [‡]	のさら 教員 、	なる	徹底が	必要。			
当該年度の 目 標	のニ ○各関 ○児童	ーズに 係機関 生徒に	応じた と一貫 l 対する i	教育の推 した連携 適切な対	生進 隽と共通 対応と関	認識を 係者の	慮・支払 図り、早 十分な遅	早期 海	から <i>の</i> を図る	支援 ため	きを行う)、協議	。 ٤会組織	の構築	を図る。	
事業の実施状況	一医就専研①② ③	絡・時家会ー1コユ回スを福健チ・デ特バトフロニキー 1111年 1115日 - IV	設等診ム演ネ」一」7個関係(よのタ接ル接に会一接ル接能がなりを発い教検	幾即30年一育ご育査と検稚 絡修い修概	○連携 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ばの検問:「校別り で特別りる で特別りる でないして	行う専門 査の 支援を を接入を を を を を を を を を を を を を を	尾佐 でして でんしょ しゅう かんしょう かんしょう かんしょう はんしょう かんしょう かんしょう はんしょう かんしょう しゅうしょ しゅうしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう しょうしょう しょうしょう はんしょう しんしょう しんしょう はんしょう はんしょ はんしょう はんしょく はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ	10月 中・年 くりに ター づくり	16日 長女 こつV 研修: の実	l、10月 け象) いて」 会)({ E際」	23日、	10月 30 34名) 55名)		ネータ
		H25	H26	H27	H28	H29	į	室	成 月	Ę ,	· 効	果厚	そ の	検証	
評 価	達成度	В	В	В	В	В	○専門簿	でき 家チ り、	連携を ームが 児童	·図る i小中 E徒の	ることか 中学校の D把握・	ぶできた シコーデ 理解が	ィネー スムー	ターと ズにな	の兼務 った。
	効果度	А	А	A	A	A		園・ うこ	保育原とがで	f、当 ごき た	≱校での こ。	課題解	決に向		
今後の	等を ○学校 ○各学 指導	感を抱しっ 推内校が必 がマス	ていくこ ーディ ^ラ 置してい タープラ	ことが必 ネーター いる支持	公要であ −業務、 爰員とコ	る。 役割等 ーディ	のいるなが、引き組 、引き組 ネーター の活用を	**ぎ(**********************************	のさら 教員 、	なる保護	徹底が 養者が情	必要。	有し、	らの教育 連携を注	
取組み	理解	相談を を図る。					<u>養</u> る充実に 担当者の	こ向り					し児童		把握・

評価項目	キャリ	セリア教育担 当 課学校教育課良野市キャリア教育推進会議													
事務事業名	富良野	予市キ -	ャリア	教育推:	進会議										
	きろカ	トを身	は学校 に付け、	勤労組	業舗の	観 及で	職業に				開	始	終	了	
事業の	関、団ていく	知識・ 体等が 必要が	一体と7	の育成を なり、協	: 図る観 協議・連	点から 携を推	関係機し進め	事	業年	声 度	平成1	7年度	継	続	
目的・概要	į										H25	H26	H27	H28	H29
										央算) - 円)		—	_	_	_
							的に合っ								
前年度の	○富良	野市キ	ャリア	教育推 進	生会議の	活性化	を図るた	こめ、	、組組	哉のり	見直し。				
課題	[○最終	年度を	迎える	「小中高	ら 貫ふ	るさと	キャリア	ア教育	育推通	生事美	業」と連	望携・連	動した	事業の排	隹進 。
	○児童	生徒一	人ひとり	りの望ま	ミしい勤	労観・	職業観と	: ك :	もに	自己有	有用感・	肯定感	の育成	を図る。	
当該年度の															
目標	ŧ														
			職場見学校、中学			学坛 0	坊								
	0マイ	ノート	の活用			子仪 2	1X								
			校、中学 、ボラン			ど									
			校、中学 育推進3			6日盟	ឧ								
事業の	構	成市	内小中华	学校、市	方内高等	学校、	商工会議				-n .[a -n]				
実 施 状 況		富	良野デー	ザイン会	議、富	良野市	所、富良 教育委員	会							
							業と連携良野西は				推進(H2 野小学校				
								P -7-1							
							KA O I	尸子1		1 ~~					
								₽ 子1							
		H25	H26	H27	H28	H29	į	幸)	成	度				検 証	
							○職場見	達) 見学·	成や職	度場体制		辞は、授	業では	味わえ	ない経
証 佃	達成度		H26	H27	H28 B	H29	○職場 験が ていた	達 月 学 え さ い 。	成 や職 てい。	度 場体! るが、	験学習等 、教育活	等は、授 舌動全体	業では を通し	味わえた た活動。	ない経 となっ
評 価							○職場が 験がいた○全につた	達 見きいでが	成やて。マって	度 場体! るが、 ノーる。	験学習等 、教育活 トの活用	等は、授 舌動全体 目を図り	業では を通し 、自己	味わえた活動。	ない経 となっ の醸成
評 価							○職場がた 験がいた ○ にキー ○ にキー ○ にキー ○ にキー	達 見でな交なリ良	成やて。マっ教	度 場る ノい推 に を が、 ーる。	験学習等 、教育活 トの活用	等は、授 舌動全体 目を図り スンバー	業では で ・ に 民間	味わえた た活動。 有用感の 実施体。	ない経 となっ の醸成 として
評 価	î	В	В	В	В	В	● 職場がれた ・ 職験がいた ・ 会に ・ で全に ・ できる ・ で	達 見でな交なリ良た	成やて。マっ教	度 場る ノい推 に を が、 ーる。	験学習等活力の活力の表表のでは、	等は、授 舌動全体 目を図り スンバー	業を通 、 自 、 に 民角的	味わえた た活動。 有用感の 実施体。 な意見か	ない経 となっ の醸成 として
評 価	効果度	ВВ	B B	В	B A	В	○職場がた 験がいた ○ にキー ○ にキー ○ にキー ○ にキー	産 見でな交なリ良と	成 やて。マっ教デ	度 場体が、 しい性 イン:	験学教活用の会議」を	等は、授 舌動全体 目を図り スンバー	業では で ・ に 民間	味わえた た活動。 有用感の 実施体。 な意見か	ない経 となっ の醸成 として
評 価	効果度	B B B リア教 野市キ	B B F の目f ャリア	B B の共存 権進	B A 後 で 図 を 図 を 図 を 図 を 図 き 会 議 の	B A A り、目	職験で全にキ「図に図に図	達 見でな交なりもた。	成 やて。マっ教デ 実織の	度 場るが、一る。 推注 の見直 である。	験教の議議は会会と	には、授権を関する。 は、授権を関する。 は、対象を関する。 は、対象を関する。	業を を は し は し 日 民 角 し 是	味わえ; た活動 有用感 実施体 な意見。	なとと の酸 とれない 成 と と と と し か と と し か と と れ と し か と と し と し
評 価	効果度	B B アカキー	B B F の目f ャリア	B B の共存 権進	B A 後 で 図 を 図 を 図 を 図 を 図 き 会 議 の	B A A り、目	● 職場がれる ・ 職験で全にキ「図 ・ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	達 見でな交なりもた。	成 やて。マっ教デ 実織の	度 場るが、一る。 推注 の見直 である。	験教の議議は会会と	には、授権を関する。 は、授権を関する。 は、対象を関する。 は、対象を関する。	業を を は し は し 日 民 角 し 是	味わえ; た活動 有用感 実施体 な意見。	なとと の酸 とれない 成 と と と と し か と と し か と と れ と し か と と し と し
	対果度 ○キャ ○富小 の推	B B アカキー	B B F の目f ャリア	B B の共存 権進	B A 後 で 図 を 図 を 図 を 図 を 図 き 会 議 の	B A A り、目	職験で全にキ「図に図に図	達 見でな交なりもた。	成 やて。マっ教デ 実織の	度 場るが、一る。 推注 の見直 である。	験教の議議は会会と	には、授権を関する。 は、授権を関する。 は、対象を関する。 は、対象を関する。	業を を は し は し 日 民 角 し 是	味わえ; た活動 有用感 実施体 な意見。	なとと の酸 とれない 成 と と と と し か と と し か と と れ と し か と と し と し
今後の	が 効果度 ○ キャ良 ○ 「作	B B ア市高一道。	B B B で り ア ま る る る る る る る る る る る る る る る る る る	B B の共存 権進	B A 後 で 図 を 図 を 図 を 図 を 図 き 会 議 の	B A A り、目	職験で全にキ「図 の の の の の の の の の の の の の	達 り きいでな交なり きょう かっぱ H2	成 やて。マっ教デ 実織の	度 場るが、一る。 推注 の見直 である。	験教の議議は会会と	には、授権を関する。 は、授権を関する。 は、対象を関する。 は、対象を関する。	業を 、 に多 を 生か	味わえず	なとと の酸 とれない 成 と と と と し か と と し か と と れ と し か と と し と し
	が 効果度 ○ ○ ○ ○ ○ の推 ○ 富良	B B ア市高。 市キ	B B B B F のリネるる サント	B B 内の育推進を含まれた。	B A 後 で	B A 目化進	職験で全にキ「図に図に図	茎 見でな交なりまた) っぱ HLL	成やて。マッ教デ 実織のでき	度 場る ノい惟イ	験、 ト, 会会 学教 の 議議 歌。を、 検実	等は、授体 引を図り くかえ、 すす効果	業を 、 に 多 を 生 か の の の の の の の の の の の の の	味わえ動物を表現した事業の	なとな 醸 し約 と集
今後の	が 効果度 ○○○○ ○○○○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○	B B ア市高。 市充	B B 目 f オ で リス る で ア で る 。	B B 内の背推進数音推進数音	B A 後 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	B A 目化進 開催に	□ 職験で全にキ「図 的を事 り の c 、 b 善 今	達 見でな交なりまた) っぱ	成やて。マッ教デ 実織29で 事	度 場る ノい惟イ の見き 業	験、 ト。会会 学教 の 議議 課。を、 の 連携 神神 神神 神神 神神 神神 神神 神神 神	等は、 授体 り で が で は、 授体 り で 、 かっこう かっこう で は の が ままま で は で の が まままま で は で が まままままままままままままままままままままままま	業を 、 に 多 を と し 、 に 多 を も し 、 に の の の の の の の の の の の の の	味わえ動物では、有寒なのでは、大きないでは、たいでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、たいでは、たいでは、たいでは、たいでは、たいでは、たいでは、たいでは、た	なと か
今後の	i	B B ア市高。 市充ノ、市充ノ、	B B B F を P で B を P で B を P で B を P で B を P で B を P で B を P で B を P で B を P で B を P で B を P を P で B を P を P を P を P を P を P で B を P を P を P を P を P を P を P を P を P を	B B 内の育と 育 リ中・ で	B A 後 図の の で を で で で で で で で で で で で で で で で で	B A り活育 開 」い に の検	職験で全にキ「図に図業の合うお進等な進	達 見でな交なりもた) っぱ 学 だっぱいでがで かっぱ た組出 2 校 にる。	成 やて。マっ教デ 実織ので 事 り	度 体が、一る。 推直 1 所 児	験、 ト。会会	等 計 ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	業を 、 に多 を も 民角 生 、 感 も 、 の に の の の に の の の に の の の に の の の の の の の の の の の の の	味た有寒なり、大きなり、大きなり、大きなり、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、	なと の と集 を
今後の	i	B B ア市高。 市充ノ、市充ノ、	B B B F を P で B を P で B を P で B を P で B を P で B を P で B を P で B を P で B を P で B を P で B を P を P で B を P を P を P を P を P を P で B を P を P を P を P を P を P を P を P を P を	B B 内の育と 育 リ中・ で	B A 後 図の の で を で で で で で で で で で で で で で で で で	B A り活育 開 」い に の検	職験で全にキ「図 に図業 り 用 な た	達 見でな交なりもた) っぱ 学 だっぱいでがで かっぱ た組出 2 校 にる。	成 やて。マっ教デ 実織ので 事 り	度 体が、一る。 推直 1 所 児	験、 ト。会会	等 計 ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	業を 、 に多 を も 民角 生 、 感 も 、 の に の の の に の の の に の の の に の の の の の の の の の の の の の	味た有寒なり、大きなり、大きなり、大きなり、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、	なと の と集 を

評価項	目	食育							担	当	課	学校羲	女育課			
事務事業	名	食育推	進事業	É												
事業	の	に域て身のためのため	ただがいる。ただがいる。ただがいる。ただがいる。これではいいできません。これではいいできません。これではいいできません。これではいいできません。これではいいできません。これではいいできません。これではいいできない。これではいいできない。これではいいできないできない。これではいいできないできない。これではいいできないできないできない。これではいいできないできないできないできない。これではいいできないできないできないできないできない。これでは、これではいいできないできないできないできないできないできない。これでは、これではいいできないできないできないできないできないできないできないできないできないでき	でなく(連携した を持ち、	呆育所・ ながら、 子ども とを目的	・幼稚園 食育の たちし、	・学校 重要性 健やか 「子ど	など地 につと も た ち	事	業 年	度	開 平成2	始 10年度	終継	続	
目的・概	要	る。	~ ~ 117		, , , ,	C 22.1-	X 17 1L					H25	H26	H27	H28	H29
										巻費(決 位∶千		27	15	-	_	-
前年度課	の題		校の「: どもた`													
当該年度目	の 標		教諭と													
事業実施状	の況	稚園 ○栄養 配置 ○栄養	20年3月3日 (20年3月3日 (20年3月 (20年3	所、学村 2名)の 良野小学 よる食育	交で配布 配置。 学校、富 育指導と	市。 富良野西 : 啓発活	中学校									幼
			H25	H26	H27	H28	H29		達	成月	Ę	· 効	果度	ま の	検証	
評	価	達成度	A	A	A	A	В	~~—	ジに	掲載し	、	なく市員	こに紹介	`ライン '。 :生徒及		
		効果度	A	A	A	A	A									
				•		後		0			,.	課		是		
今 後	の		校の食 [・] どもた [・]												-	
取 組	み		5	攵				Į.	礕					角	É	
		健康 ○栄養 ○学校 の促	診断等に 教を 教命 食 を を を を を を と と と と と と と と と と と と と	行う。 曽員に同 「食べ死 売実施で	うけ、 á 捜しゼロ する。	全道市長 2 運動」	会等を	通じて寝、早	強く 起き	要請し、朝こ	てい	いく。 ノ、みん	なそろ	って晩	ごはん」	運動

評価項目	情報教	女育						担	当	課	学校教	女育課			
事務事業名	ІСТ	1利活月	月事業												
		の利活									開	始	終	了	
			という観点で効果があり、児童生徒の の理解向上を図ることを目的とする。				事	業年	巨度	7 00					
車業の											平成21年度 継続			続	
事業の目的・概要											H25	H26	H27	H28	H29
									養費()						
								(単	位:刊	- 円)			4,284	3,112	920
	○各学	校及びi		青報班に	こおいて	· 、引き	続き教	材研	究やる	研修を	 - - - 促す必	】 S要があ	る。		
前年度の	○情報	セキュ	リティの	の確立に	に向けて	、教職	員の意	識改	革が	必要。		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	- 0		
課題															
	\bigcirc I \bigcirc	か ナ. 江.	田 1 上 4	∞₩πσ	E T. 7 V 45	** 1/1 18	0 # #	1. [日	本 4-7	H 00 H	수 되지 나는 성	Z - OTH	## ± 1.	≯. log y	
当該年度の	○タブ	Tを活 レット							里生1	定の气	产省内名	・への理	解 问上	を凶る。	
目を特別															
		Tを活り 研修等り							図る。						
	○タブ	レット 9 布礼	端末の塾	整備 (耄	対育用コ	ンピュ	ーター	の更		由学	校 99・	4			
	112	9 4114.6	1))1/1 · 1	- K	H / Ab t	alb v 1 l =		υμ	H	, 1, 3-	12 22	Н			
古 光 の															
事業の実施状況															
		TT0=	TTOO	TT0=	TICO	TTOO	1	\	ь.			FB .1		1 A	
		H25	H26	H27	H28	H29			成 教科			果 度			
	達成度	В	В	В	В	В	り、	児童	生徒	の学	習意欲⊄	つ向上が	図れた	0	
評 価	i						調べ	タブレット 調べ学習や		育の打	受業の重				
							れ、	成果	が図	られ7	₹.				
	効果度	Α	Α	Α	Α	Α									
			}		後		0	<u> </u>			課		是	夏	
		校及び			こおいて							がある			
	() 情報	セキュ	リアイの	ク惟立に	上回け (、教職	貝の思	誠以	・単かり	公 安。					
今後の	,														
取組み		ţ	女				草	善					É	色	
		におけ、 等デジ:						情報	提供	を通し	ごて教職	員の意	識改革	を図る。	
		習指導						につ	いて	の情報	吸集を	図る。			

評価項目	国際理	里解教育	Î				4	担	当	課	学校羲	 育課				
事務事業名	外国語	B指導即	力手招到	政事業												
	習慣な	慣れ親 どを学。 遣し、 ³	ぶために	こ、外国	国語指導		小中学	事美	業 年 度		開 平成	始 7 年度	終 継	了続		
事業の													****	****	****	
目的・概要							T	も 张	費(決	竺)	H25	H26	H27	H28	H29	
							(単位	立:千	円)			14,108			
前年度の課題	ら、A ○小学 ○「英	L T の <i>,</i> 校から中	人数や酉 学校英語 せるふり	記置、活 香へのス、 うのっ子	5用方法 ムーズ * / 子」を推	:の検討 な移行と :進する	指導体制	さら 句上を	っに、 を促す	小学 ため	を校教爺 の取組み	の英語	力も、求	められる	ことかる。	
当該年度の 目 標	がら	、英語 校英語	力の向」	上を図る	5.		能力を養 新学習指			•						
事業の実施状況	ザ及外も・「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1年語、会語学え課ン会良 の校り が を が 校い後 が 科野 話にご こ リ 副を ポ と に る り る り る り る り る り る り る り る り る り る	計に推会口せおLAどッ読紹一名遺委サーふるし教立のすり あるい教立のすりをいるない。 からのすりをある。	をし員ユ5ら明の室や舌るの配て会ン回のの実やヤ用教改置いを」開っ英応児ン・材訂しる説の催予語・童フ・の	いるとの様子 西・重ず 英の大い との 世子 西・重ず 英の 大い この 一番の 一番の 一番の 一番の 一番の 一番の 一番の 一番の 一番の 一番	語 小よ 進実小行・ルード に施校に 下り に 施校に 下げ に かん でんしょ こうしょ しゅうしゅ かんしょ しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう はんしゅう しゅうしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう しゅうしゅう はんしゅう はんしゅん はんしゃ はんしゃん はんしゃん はんしゃ はんしゃん はん	2名、独教 校員 け 東加し 1月 (南 担ル み 交英目の 12 12 12 13 14 15 15 15 15 15 15 15	総 教ッ 実 富品~13	的 とを	c 学習 時 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	#間等に 計導助手 ・提供 ・ を ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	向けてとの連続の家	市内小学機を図る	学校	
		H25	H26	H27	H28	H29			戊 度	-			隻の			
評価	達成度	A	A	A	A	A	による ○「えレ	ヽて∄ る体制 ヽごL	担任教 制が整 AND」	な論 & 任備 さ	ヒALTと された。 イングリ	の協議さ	を進め、	小中連 プ」等。	携	
	効果度		A	A	A	A					ってきて				2 1 1	
	<u></u>		<u> </u>	テ宇振っ	後 おんぼ	鈺洋 禹	及び教科		-	Λ	課 ITの増	昌 乃ィドク	と 校 レ 浦	=	指道	
今後の	体制 〇小学 〇小写。 〇「英	の構築 校教員(校から「 語が話 ⁻	が必要との英語力中学校対	となる。 力・指導 英語への	拿力の更)スムー	[なる向 ·ズな移	上が必要 行と学習 指導体制	で。 引意翁 リのオ	次向上	を仮	足すため		みと更	なる連打		
取組み			文	古△ミ	F-H- 17 \	ナンジナ		養								
	○小学 語と ○「英	校におい係われる	いて外国 る環境へ せるふり	国語とふ づくりを うのっ子	られ合う と行う。 ←」をめ	機会を	継続してた。	め、	「イ	ンク			_			

評価項目	健康記	诊断事 簿	É					担	当	課	学校教	女育課				
事務事業名	児童生	上徒、寿	数職員(建康診	断実施	事業										
事業の	教職員 ○児童 の健	断事業 の健康 生徒の は康診断 校保健	増進を 健康診 を行われ 安全法	図る。 断=毎号 なけれに 第13条第	牟年定期 ばならな 第1項)	月に児童 :い。	事	業 年	度	開始終了						
目的・概要	() 教職	員健康	診断=4 康診断る	学校の訳 を行わた	は置者は こけれは	は毎学年 ばならな				H25	H26	H27	H28	H29		
	(同 ○就学 者の	法第15 時健康 健康診 法第11	条第1項 診断= 断を行る) 翌学年カ	ゝら就学	ささせる	ベキ		養(⅓ 位 : 千						9,656	
前年度の課題	○児童 行う	○引き続き児童生徒及び保護者の健康管理への意識を向上させる必要がある。 ○児童生徒の健康状態を把握し、養護教諭と栄養教諭が連携しながら「食育」を通じた健康管理を 行う必要がある。											管理を			
当該年度の 目 楞	○教職	○児童生徒の健康診断の完全実施 ○教職員健康診断の受診率100%達成														
	○児童	生徒の	建康診	断 ・ 学	ዾ校保健	安全法	第13条	第 1	項に基	基づき	実施。					
事業の		・同法第15条第1項に基づき毎学年定期に実施。 ・平成29年度受診状況 対象者183名中 179名受診 (受診率97.8%) ・年2回の健診受診案内通知、未受診者に個別に呼びかけ実施														
実施 状 沥	(○就学	・同法第11条に基づき実施 ・平成29年度 就学時健診受診案内者 171名 ・何らかの支援が必要とされる児童を発見し、就学前から該当 児童及び保護者への相談・支援を実施している。														
		H25	H26	H27	H28	H29		達		~			ぎの			
評 価	達成度	В	В	A	A	A	見に 〇教職 識向	つな 員の 上も	がっ 受診 定着	ている 率は してる		: なった ら。未受	:が、健 :診者も	康管理・ いるこ	への意	
	効果度	A	A	A	A	A		, ,	и е	, A	ζ ID (C -		<u>л</u> о с			
			}		後		0	-			課		是	<u>E</u>		
今後の	○教職	続き児					への意	識を	向上さ	させる	が必要が	ある 。				
	21										É	É				
		生徒及									き理の意	識向上	を促す			

事務事業名 フッ化物洗口事業 北海道は、全国に比べて、12歳児におけるむし歯が多い事から「歯・口腔の健康づくり8020推進条例」が制定されたことに伴い、北海道教育委員会としても幼児・児童生徒の歯・口腔の健康づくり推進を図るために小中学校でのフッ化物洗口の導推進を図るために小中学校でのフッ化物洗口の導入を支援している。さらに富良野市健康増進計画(第2次)においても歯科健康対策の推進としてフッ化物洗口実施による12歳児1人平均むし歯1.0歯未満が目指されたことから、事業実施を行 事業費(決算)	8 H29
が多い事から「歯・口腔の健康づくり8020推進条例」が制定されたことに伴い、北海道教育委員会としても幼児・児童生徒の歯・口腔の健康づくり推進を図るために小中学校でのフッ化物洗口の導推進を図るために小中学校でのフッ化物洗口の導入を支援している。さらに富良野市健康増進計画(第2次)においても歯科健康対策の推進としてフッ化物洗口実施による12歳児1人平均むし歯1.0歯未満が目指されたことから、事業実施を行事業費(決算)	3 H29
(第 2 次) においても歯科健康対策の推進として	3 H29
1.0歯未満が目指されたことから、事業実施を行事業費(決算)	
う。 (単位:千円) 382 240 156 22	198
前年度の課期題○歯科疾患の予防は「むし歯予防」及び「歯周病予防」が大切な事であり、フッ化物洗口なく、歯磨きの習慣を定着させることが必要。	ごけでは
□フッ化物洗口にあたって、教職員の負担軽減と誤飲等の事故が起こらないよう、対応と ・	プッ化物
● 富良野市においては、全小中学校において希望者のみフッ化物洗口を実施。フッ化物洗しない場合は、水道水によるぶくぶくうがいを実施。 ○小学生は対象者1,057名に対し実施者数1,044名・実施率94.9%、中学生は対象者604名に施者数526名・実施率87.0%である。 事業の実施状況	. —
H25 H26 H27 H28 H29 達成度・効果度の検	
連成度 A <th>中で検証</th>	中で検証
効果度 A A A A A	
今後のかまた。 選 ○歯科疾患の予防は「むし歯予防」及び「歯周病予防」が大切な事であり、フッ化物洗口:	ごけでは
今後の取組み 改 養護教諭を中心に、児童生徒の歯・口腔の健康意識を向上させるための生活習慣を身にせる指導を行う。	

評価項	目	高校教	女育					担	当	課	学校教	女育課 (
事務事業	名	高校教	枚育の 割	推進													
						五連携に					開	始	終	了			
		日派兴	C 1676		いる回び	X 2 X 9	-C D -S		業年	度	平成1	9年度	継	続			
事 業 目的・概											Н95	H26	H27 H28 H		H29		
									業費(決 位:千			_	_	_	_		
前年度課	の題		生が選接続の				、より	充実した授	業交流	でや意	. 说明会⊄	実施。			l		
当該年度目	で標	○富良	野地区	の望ま1	い高を	が教育づ	らりか	の解決を図 推進する。 校教育の充]る。							
		市内 地元	の中学	交及び で育て、	富良野地富良野	予地区の	等学校	が連携し、 業を担う人					るべき	優秀な』	人材を		
事業実施状													議				
		富良 枠組	野地区	広域教育 寺」「勧	育圏振興	具協議会	と連携	し、12月	川減が示されたことから、富良野圏域連携協議会・ 12月20日に「農業系・工業系・商業系の三つの 設定や選択科目の導入」等について北海道・道教委								
			H25	H26	H27	H28	H29					果原					
評	価	達成度	A	A	A	A	A	○市教委主て行ったり説明さ○中高間の	:取組と :れた。	こして	て意義だ	ぶあり、	両高の	特色が	しっか		
		効果度	A	A	A	A	A		合唱=				琴査員として高 きている。		校教諭		
				}		後		の			課		是	夏			
								した授業交 る高校づく									
今 後 取 組	のみ		3	女				善					<u>\$</u>	負			
料 雅	07	など ○授業 ○小中 ○緑峰	の洗い 交流を 高一貫.	出しを注 継続実 が 動向に つ	進め、□ 施すると ヒキャリ	中高が連 こともに リア教育	携して 、他の 推進事	各段階での 学力向上を 教科の協力 業との連携 に、富良野	·図る。 につい 及び中	って <i>の</i> い高 <i>ろ</i>)検討。 を流の仮	建進					

事務事業名 学校教育コミュニケーション教育推進事業 開	評価項目	コミュ	ニケー	ーション	ン教育				担	当	課	学校耄	故育課			
現金生徒に豊かな起像力や思考能力ともに他者 事業 年度 平成28年度 報総 平成28年度 報総 平成28年度 報総 平成28年度 報総 平成28年度 報総 平成28年度 報総 平変費(映算) 日的・概要 日か・概要 単立 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日	事務事業名	学校教	育コミ	ミュニ	ケーシ	ョン教	育推進	事業								
事業の実施について、児童生徒のほか、保護者の参加についても検討する。	事業の	児童生行理解、計算の資産を	児童生徒に豊かな想像力や思考能力とともに他者 理解、話す・聞くの基本など、「気づき」「きっかけ」を得て、児童生徒のコミュニケーション能								度					
事業費(決算)		i						-				H25	H26	H27	H28	H29
新来 度 の 題												_	_	_	1,313	1,264
上を図る。		〇 事業約												導入方	法が必り	要。
実施校 全12校(延べ18回) 参加児童生徒数 670人		上を図		におい	て演劇的	的手法を	用いた	ワークミ	ショ	ップを	: 実施	直し、コ	1ミュニ	ケーシ	ョン能力	力の向
 		実施 () 実施 F ・ 表す : ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	施加 内見ミデク マコーパエーバエー	生 グケーー・グケーー・ション・ジャン・ジャン・ジャン・ジャン・ジャン・ジャン・ジャン・ジャン・ジャン・ジャ	全12校 670人 ・シン・フィン・フィン・フィン・フィン・フィン・フィン・フィン・フィン・フィン・フィ	(延べ18 マーゲー プログラ コグラム	ム) ム 等	容で実加	施。							
 			H25	H26	H27	H28	H29	ì	幸	成月	E	• 効	果馬	ぎの	検 証	:
効果度	評 促		_	_	_			○平成2 学校2 ニケ [、] ○児童2	27年 教 う 生 徒	を度まで 変に取り では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	ご社会) 入れ 可上(護者)	会教育 乳るこう こ向けた が体 駅	事業とし こにより こ取組を 食(プロ	て実施 全小 する で ラム	してき 学校で と を び で び で 通	たが、 コミュ きた。 じてコ
 ○事業の実施について、児童生徒のほか、保護者の参加についても検討する。 ○事業継続により小規模校では、同一児童生徒が繰り返すことになり、様々な導入方法が必要。 ○コミュニケーション教育の必要性は、全校で理解がされているが、日程調整によりH29は全校実施に至らなかった。 ★ ○コミュニケーション能力の向上については、各学校とも理解されており、今後も様々なプログラムの継続実施により児童生徒の関心を高める取組が必要。 		効果度	_	_	_		A	1					R 时X (C →			
 事業継続により小規模校では、同一児童生徒が繰り返すことになり、様々な導入方法が必要。 ○コミュニケーション教育の必要性は、全校で理解がされているが、日程調整によりH29は全校実施に至らなかった。 ★ ○コミュニケーション能力の向上については、各学校とも理解されており、今後も様々なプログラムの継続実施により児童生徒の関心を高める取組が必要。 		O = 11/4		•	<i>-</i> IH →) T ?			de la			L	是	良	
収組み 改 善策 〇コミュニケーション能力の向上については、各学校とも理解されており、今後も様々なプログラムの継続実施により児童生徒の関心を高める取組が必要。		○事業約○コミニ	継続に。	より小丸 ーション	見模校で ノ教育の	では、同	一児童	生徒が終	繰り	返すこ	とは	こなり、	様々な			
○コミュニケーション能力の向上については、各学校とも理解されており、今後も様々なプログラムの継続実施により児童生徒の関心を高める取組が必要。			-	h				بد.	益					, Kr	在	
	料	○コミュ ムの約	ュニケ [、] 継続実力	ーション 施により	り児童生	上徒の関	心を高	は、各当める取組	学校 組が	必要。				後も様	々なプロ	コグラ

評価項目	1	芸術文	化						担	当 課	学校教	效育課			
事務事業名	名	子ども	芸術鑑	监賞教皇	室事業										
事業の			徒を対象 育と芸徒						事 業	年度	開 開 昭和4	始8年度	終継	了 続	
目的・概要								-			H25	H26	H27	H28	H29
										費(決算) :千円)			1,400		
前年度の課	題	※平 移 平	管にとす 成 2 9 ^g	F度まで らないP F度から	では、社 区成28 ら、学校	3年度は 交教育課	、市長 とで所管		市民生	活部)	で所管。				部局
当該年度6 目 株	の 票	○児童	生徒を対	対象に舞	乗台 芸術	所の鑑賞	(機会を	設け、情	青操教	育と芸行	ド文化 <i>σ</i>	意識高	揚を図	る。	
		○舞台	芸術鑑賞	賞(小・	中学生	Ξ)									
			事業名日 程会 場	9月6		・7日(フ		ディ G.	АВЕ	ZZ					
事業の	D		内 容	ジ). テー	」を招 ジを楽	き実施。 しんだ。	小学校	ントにな低学年	から中	学生ま	でが見る	て楽しみ	メ参加型	のス	
実施状剂								-クショ こもつな;					区的 (こ 参	: <i>/</i> /	
			入場料	300円			y								
			入場者	9/6		745名 460名	市内小	中学校児	見童生	徒、教詞	渝、保護	達者			
				9/7 計	1	,205名									
				HI		,		***************************************	***************************************]		
			H25	H26	H27	H28	H29				• 効				
評	画	達成度	В	В	В		В		を育み	、芸術	る機会を 文化の意 を実施し	意識高揚	見に向け		
		効果度	В	В	В		В	※平成: して!			市長部局いない。	弱所管の	ため、	教育委	員会と
			4			後		0)			課		,	夏	
今後(を図 ○学校 り、 ○文化	ってい [、] から文(学校独 E 会館の [。]	く必要が と会館す 自の他事 キャパシ	ぶある。 きでの時 事業(フ ノティの	け間ロス くセナ等 ○関係で	·や授業 ·)との ·3公演	く必要が 時間確保 の必要が必要が のニーズに	Rのた 公要。 ぶあり	め、ほ、	とんどの 的に道事	中学校	が鑑賞	を見送・	ってお
	み		己					善善善					套	美	
				て、早々		8収集等	に努め	、児童生		ニーズ	調査や学	ど校側と			鑑賞
			で単独領について				業など	芸術文化	とに触	れる機会	会も創出	されて	きてお	り、事	業効果

評価項目	家庭教育	担 当 課	社会教育課		
事務事業名	家庭教育支援事業				
事業の	幼児・児童生徒の保護者及び地域の人々を対象に、家庭や地域の教育力をより高めるため、子どもの基本的生活習慣・自立心・自主性・耐性などを培うことについて、関係機関・団体と連携し、学習機会の充実を図る。		開始	終了継続	
目的・概要			H25 H26	H27 H28	H29
		事業費(決算) (単位:千円)	99 212	278 255	279
前年度の課題	〇室ましい電子メディアとのかがわり方や規則正 今後も取り組んでいく必要がある。	加しやすい環境	覚づくりや学習	内容の検討、	継続的
当該年度の 目 標	○家庭の教育力を高めるための学習機会の充実				
事業の実施状況	市街地区 6/16(金) 子どもは天使 7/18(火) どうやってし 8/29(火) けんかと遊び 布部地区 10/29(日) これからのス 東山地区 12/12(火) 子どもを愛す	つけるの	<u> </u>	11人 12人 9人 27人 39人	
关 爬 扒 优	○家庭教育講演会 (会場:富良野文化会館) 9/29(金)	めに大切なことで生教育、今からできるこ 学年編、小学間	こと~	49人 23人 編)の作成、i	配布
	H25 H26 H27 H28 H29	達成度	• 効果 ほ	まの 検 証	:
評 価	○家庭 関す	・地域の教育だる知識が増えた。 で学ぶ機会となった。	カ向上につなが るとともに、家	っており、子	育てに
	効果度 A A A A A				
今後の	今 ○各関係機関・団体と連携し、家庭教育に関するが家庭教育に関して関心を持つように、より参な情報提供が必要である。 ○望ましい電子メディアとのかかわり方や規則正今後も取り組んでいく必要がある	加しやすい環境	竟づくり や学習	内容の検討、約	継続的
取組み	改			策	
	○引き続き、多くの親が参加する機会を活用した ○各種事業等を活用した父と子のふれあい交流を ○家庭教育ハンドブック等の有効利用をはじめ、 発信に努める。 ○市PTA連合会と連携した家庭教育向上に向け	推進し、家庭教 各関係機関・国	故育への関心と	努める。 参加を推進す	-

評価項	目	家庭教	育						担	当	課	社会拳	女育課			
事務事業	名	親と子	・のふれ	ιあい¤	事業											
事 業 目的・概	の	家庭や にして、 どもの』	、心の	つながり	りを深め	的な人間 かる活動		て、子	事	業。	宇 度	昭和5	始 2年度 H25	終 継 H27		H29
									(単	位:=	決 算) チ 円)	市民	講座事業			
前年度課			るとと	もに、	子どもの		な成長	を目指す								
当該年度目		○家庭の ○親子で ○地域の	で楽しる	みかがら	・豊か	かかか	音でる	共同体験	験機制の	会の構築	充実					
事業実施状	況	○読みどん・土崎	明日かのファミアロイボートに対している。 関い いっぱい はいい はい は	らコリHール ・ リーク ・ はいないないないない。 ・ はいないないないないない。 ・ はいないないないないないないない。 ・ はいないないないないない。 ・ はいないないないないないないない。 ・ はいないないないないないないないないないない。 ・ リーク ・ リーの ・ リーク ・ リーク ・ リーク ・ リーの ・ リーの	たくなった とう とう とく ない また とう とう とう とう い おり と 会 会 とう	るキャラ ンョンへ 室 モデル拳 イ箸づく	・弁講座 ・ 対室 ・ り講座 ・ 延延延	ッサー		6 8 8 8 1 7 6 8	/3 · 2 /13 · /10 1/18 /22 · /17 · /26	2 · 7/4 4 · 9/8 27 · 9/ · 25 · 1: 10/15 18	18 2/9	8人 延30人 延16人 延25人 10人 延62人 延58人 延15人 9人		
評	価	達成度	H25 B	Н26 В	Н27 В А	H28 B	H29 B	○親と 学ぶ ○親子	<u>-</u> が場と	ふれ なっ めの	あうれている	幾会を追る。	果 店 通して、 朗が偏る 下足	家庭教	育の重	要性を
		公民館実させ、	館・図書					<i>の</i> れあい 会の提信	を深							容を充
	のみ		内容の材					関係する提供した	る機					第 一ト企		と連携
		<u> </u>														

評価項目	青少年	E教育						担	当	課	社会教	故育課			
事務事業名	子ども	・未来~	づくり	事業 (少年の	主張大	会&于	<u> と</u> ど	も未来	ぞう	くりフ	ォーラ	ム)		
	子ど	もの立	場から	「まちつ	ゔくり」	に対す	る自由				開	始	終	了	
	な発想	や意見に市政	を出しる	合い、自	自主的に シ真め	社会参	加する		MIR F.		, , , ,		., .		
	来を担	う青少年	年を育品	女 するこ	に同め、 ことを目	的とす	る。	事	業 年	度	平成1	9年度	継	続	
事業の															
目的・概要	II .										H25	H26	H27	H28	H29
								事美	養費(決	算)					
								(単	位:千	円)	37	29	34	32	31
														<u> </u>	
前年度の	V V V	への理り	解と郷= 主眼に品	上への多 置いた国	愛情を育 事業展開	「み、将 目の継続	来、ま	ちの	担い手	اع	て 成長	そできる	キャリ	ア教育、	
課題								+ 1	1 11) , T	1. 1	~ A E	· + 7	. 11 م	マルナ	
当該年度の		への埋)						ちの	担い手	ع د	ノ (放長	そできる	キャリ	ア 教育、	
目標	○自分				え、表現	まする力	の育成	と子	どもー	人て	トとりの	多様な	考えを	引き出っ	す
	/	の場を		5 °											
		少年を		土会やも	世界に向]けての	意見、	未来	への希	望々	?提案等	Ş			
		庭、学											本ルル	- マガ	= &
	II .	セマ新!想、提		秋坦され	している	少年の	问題仃:	則、	大人へ	'任宝	きの様々	な出来	争に刃	する思り	見べ
		5/24	(水)	5校(13人)	西4・亨	頁4・山	部1・	· 樹海2	. · 詹	直郷2				
					ことぶき	大学生	、来賓	、学	校関係	者	及び保証	隻者等)			
		も未来													
		校の授									且みや地	地課題	解決に	向け自然	分達
事業の		/29(水)	-		: 文化:										
実施状況		扇山小	5年	~~~~~	富良野	の農業	について	て考	えよう		***************************************			6人	
		麓郷小			ļ		を創造し			lo	.b. v . •	<i>I</i> → > .		6人	
		舟 心 鳥 沼 小	小5・64 3・4年	牛	ļ	と!他		~ / / / /	化別と	知り	たい!	伝えた	ν ! ~	2人	
		樹海小			ł		!!~D	AΙ	YASAI	\sim				13人	
		布部小			ļ		ベマル			·····	!			10人	
		山部小					山部アリ	<u>-</u> ° — ,	ル大作	戦				12人	
		東小学富良野				の水をの未来	する! につい ^っ							9人	
		в Д Д	9校		B ()	-> > < > <	(***************************************			81人	
	聴衆都	5/約22	20人(こと	ごうき大	学生、来	賓、学校	と関係者	及び	保護者	等)				•	•
		H25	H26	H27	H28	H29		捧	市田	ŧ	• 劫	果度	f D	始 新	:
		1120	1120	1141	1120	1120	○各学	校に	おける	特色	色ある耳	対組や学	習内容	、富良!	野市の
	達成度	A	Α	A	A	Α						ごもたち る場とな			やアイ
評 価	,											o 場 c な 活用に			きちの
												上が見ら O発表も		夕松の	丁土が
	効果度	A	A	A	A	A	見ら	-		L7H %	<i>У</i> /ш 王 v	プ元权も	(0) 9	石(人)	工人が
	O Zne I		\$7 1 Kmiz		後	a wy - 11-4)	de s	, -	課	:		夏 マガボ	
A 54 C		への理り 育成を						ちの	担い手	اعن	,て成長	できる	キャリ	ア教育、	
今後の取組み		7	女				<u>۽</u>	姜					华	 	
, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		との連)、計画	画的な事	業推進	•							1	

評価項目	青少年教	育						担	当	課	社会参	女育課			
事務事業名	ふらのま	ちづく	くりオ	き来ラ:	ボ推進	事業									
中 果 の	地域の名持った子と動を通した育み、次化	ども達か ながら、	が、ワ 子と	!ークシ !も達の	/ョップ)情操教	。 学習や (育と郷	体験活 土愛を	事	業生	F 度	平成2	始8年度	終	了	
事業の目的・概要											H25	H26	H27	H28	H29
									養費(注 位∶∃)	_	_		1,722
前年度の課題					イ ディ	アを活	用しな	がら	、行	政と]	民間の役	割を明	確にし	、協働	で
当該年度の 目 標				: 自らカ	ぶ参画で	きる地	域社会	づく	りの	実践	を通して 	、富良	野で豊	かな郷	土愛を
			ワーク	クショ	ップ名	(ワーキ	・ング含	む)			実施回数	参加延	べ人数		
	は	たらく。	人にな	よって2	017 IC	Tエンシ	シニア				27回		284名		
	§	~~~~~	~~~~~	~~~~	ズ~ふら		めて				10回		128人		
F. 3070	}				らのを		空み う				36回		210人 89人		
事業の実施状況						4 W S					77回		711人		
		施 期	間	平成	のまち [、] 29年4月)富良 [§]	1日~ [∑]	区成30年	3月	31日		・ション				
	H	25 H	H26	H27	H28	H29			成			果原	•		
評 価	達成度 -		_	_	В	В	され	る。			の関係を 野コミニ				
	効果度 -	_ .	_	_	A	A									
		今			後		0	-			課		是		
今後の	○今後もE 推進して ○小中高の	ていく必	必要が	ぶある。						政と]	民間の役	割を明	確にし	、協働	で
取組み		改					<u> </u>	卓					É	É	
	○行政と目	民間の選	車携協	易力 に努	努めてい	·<.									

評	価項	目	青少年	教育						担	当	課	社会拳	女育課			
事	務事業	名	子ども	会育局													
事	業	Ø	図り、	齢集団 団体活動 動の活り	動の基礎	楚的知 證				事	業 年	度	昭和3	始8年度	終継	了_	
-	的·概										 費(決位:千		H25 952	H26 927	H27	H28 948	H29 800
前課	年 度		の働 ○子ど 必 ○アウ	きかける も会活! がある。 トドア(を継続し 動の基礎 体験をと	して行う 楚知識や とおした	必要が P技術を エリータ	がある。 : 持った ・一研修	連絡協議育成員の会は年の要がある。	の養 々、	成を維	継続し	って行い	、子ど	も会の	活性化る	を図る
当計	該年度	の	○豊か ○スポ	な心と ーツ、	社会性を 文化、ス	と身につ ドランラ	ける学 ティアな	習機会 どの活	会の充実 の充実 動への ネット	支援	と参加 クの鏨	口促進 整備	É				
	業 施 状		・加 ○子ど	シニアリータ かるた	数 業 一研修: 一研修: `-研修:	15団体 会【前身 会【後身 会(青夕	朗】 朗】 い年サーク	• 会	員数 7 8/10~ 3/24~ 6/17~ 1/14 7回	12 26	小 ^に 小 ^に 高〕 4が	Þ57人 L7人 -ム14名	・高15人	・ボラ11/ ・ボラ12/ ・ボラ へ派遣			
				H25	H26	H27	H28	H29		達	成月	度	効	果度	ま の	検証	
評		価	達成度	В	В	В	В	В	ること られて ○友達	の大 いる と課	切さ ^々 。 題解》	や家が 央に「	をへの愿 句け達成	での活動 蒸謝の気	持ちを 験する	育む機会	会が図
			効果度	В	В	A	A	A	н С н	上 恐	(化同)	<i></i>					
			O 7 12	2 0 24.	•	h 10 =	後	a to	O to the left of	_			課	. III• -2	是		y -h-n -
今取	後組	のみ	の子必ア自 ○ ○ ○ ○ ○ ○ 子必ア自 ○ 子ど 子ど 子ど 子ど 子ど と と と と と に と に と に に に に に に に に に に に に に	きもがト体	を継続は 動 体 を した 女 の働き	と お組み たい かける	・必要が・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	がある。 ・持った ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ き っ と ら こ と ら こ と ら こ と ら と と ら と と ら と と と と	連絡協議会は年の会がある。	の養 々る。 姜 ど	成を維参加する会社	* 続し 一る ラ ・加フ	ンて行い こども達	、子ど ぎが増え <u>まも</u>	も会のでおり、	活性化を 、四季 を 参加し、	を図る 折々の 異年
									行うとを取り								5.

評価項目	青少年表彰						担	当	課	社会教	女育課			
事務事業名	青少年表彰	事業												
事業の	青少年(個 社会活動及び 者を表彰する	家庭生活					事	業 年	度	開平成1	始 9年度	終継	了 続	
目的・概要										H25	H26	H27	H28	H29
							(単	:費(決 位:千	円)	39	39	26	41	40
前年度の課題	○他の模範と ○青少年団体								して	きもらう	必要が	ある。		
当該年度の 目 標	○ふるさとの	意識を高	高める名	・ 種リー	・ダーの	養成								
事業の実施状況	○富良野市青 ・ 11月2 ・ 被表章 ・ 活動ゲ	3日開催 者]容	1個校 一 と で っ 発 う た ろ 発 う れ き っ え き れ き れ た し た う た う た う た う た う た う た う た う た う	文化性/3年生かの13年生の力高にてングの2) いら続け 」を主体 され、こ 齢者グ/	ている 崔し、小 大学で専 レープや	ト中学 厚攻し アふれ	生へいた生に とない。 とない。	の実 厓ス	技指導 ポーツ	をはじる の専門タ	か、競技 n識やb	ちの普 を術を	
	H25	H26	H27	H28	H29		達	成月	Ė.	• 効	果度	き の	検証	
評 価	達成度 B	В	В	В	В	少年	の模	範や励	りみと	こなって	・団体 いる。 なに繋が			他の青
	効果度 B	В	В	В	A									
	○他の模範と ○青少年団体					広く発			して	まもらう	必要が	是 ある。	<u> </u>	
今 後 の 取 組 み	○様々な機会○各関係機関					制度に						S	इं	
						0								

評価項目	青少年	三教育					‡	旦 当	該	社会	教育課			
事務事業名	青少年	三補導日	ヒンタ	一運営	事業									
事業の	できる	よう、 少年の	お早や目	と は な は は は は は は は は は は は は は は は は は	ご調和の 関・団体 艮とした	ことの連		事 業	年 度	昭和:	始 50年度	終継	了 続	
目的・概要	◇補	導員								H25	H26	H27	H28	H29
	団体	の推薦	によりす	教育委員	会が委	:嘱	Ì	単位:	千円) 98				160
前年度の課題	する 非行	ととも	に、引き 努める』	き続きが と要がま	施設管理 らる。	者や関	商業施設 係機関団 の連携。							
当該年度の 目 標	○家庭	、地域	社会、	関係団体	本及び学	校との	ネットワ	ークの	整備					
事業の実施状況	(つ)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)(す)<th>結員11 結員1 指会日 導補 無地 無地 無地</th><th>富区福(催旭····································</th><th>地山し多名区へ市に真といい。会出広そ街に真連な祭巡施を観りませる。</th><th>びかけ2 文 主 す 等 典 道 (富 会 の る る る る る る る る る る る る る る る る る る</th><th>6人 館 協議 (富 (富 (富 (事) (長 (長) (長)</th><th>) 良野市) 市) 4人 英間)5人 者会議</th><th>5人((うち</th><th>(うち)富良</th><th>富良野市1人</th><th>)</th><th></th><th></th><th></th>	結員11 結員1 指会日 導補 無地 無地 無地	富区福(催旭····································	地山し多名区へ市に真といい。会出広そ街に真連な祭巡施を観りませる。	びかけ2 文 主 す 等 典 道 (富 会 の る る る る る る る る る る る る る る る る る る	6人 館 協議 (富 (富 (富 (事) (長 (長) (長)) 良野市) 市) 4人 英間)5人 者会議	5人((うち	(うち)富良	富良野市1人)			
		H25	H26	H27	H28	H29				· 効				
評 価	達成度	В	В	В	В	В	○街頭掛けい 声っ商ルを第	を交れる。 設や始	っすこ	とによ	り、非行	の未然	防止に	つなが
	効果度	В	В	A	A	A								
	O 7 12		>	H 1 2. 1	後	م بارياب	の	A 1.0 14	- 44 ==	課	*	是		# \// =
今後の	する 非行	ととも 防止に	に、引き 努める』	き続きが	施設管理 ある。	者や関	商業施設 係機関団 の連携。							
取組み							善善					É		
					本、施設 戈を推進		等とのネ	ットワ	<u>ー</u> ク	<u></u> 化を推え	進し、情	報交換	や連携を	 を密に

評価項目	青少年教育						担	当	課	社会教	育課				
事務事業名	放課後子ど	も教室推	生進事業	É											
事業の	放課後の∃ け、子ども選 じて、心豊か 進する。 ○平成20年	をに文化いで健や	・スポー かに育る	ーツ 活動 まれ る環	り等の体 環境づく	齢を通	事	業 年	度	開平成2	始 0年度	終継	了続		
目的・概要	○平成22年 ○平成23年 ○平成25年 ○平成25年	度 樹海 度 布礼 度 布部	≨小学校 ∟別小学 3小学校	で新規版 校で新規 で新規版	開設 見開設 開設			き費(決 位:千		H25 6,293	H26 5,567	H27 5,782	H28 6,455	H29 7,087	
前年度の課題	○未開設地区	(麓郷月	、学校区)の継続	売協議										
当該年度の 目 標	○地域の教育○豊かな心と○スポーツ、	社会性を	身につ	ける学習	習機会の	充実		参加の	促進						
事 業 の 実施状況	○山野 では、 ・開発 では、 ・開延教 に では、 ・開延教 に では、 ・開延教 に では、 ・のは	数37名 224日 224日 24日 24日 24日 24日 25日 25日 25日 25日 25日 25日 25日 25日 25日 25	(H28年 (H28年 (H28年 (H28年)一登 教 (H28年 (H28年 (H28年 (H28年 (H28年 (H28年 (H28年	是 数 5 17 t	166日 名出席 ナポータ 果後子ど 女11名 185日	(H28年 (H28年 (H28年 一登録 も教室 (H28年 (H28年 (H28年	三度/12名 三度/81日 三度/551	日) 09名) 3) 3)							
評価	財政 達成度 B 効果度 A	H26 B	Н27 В А	H28 B	H29 B	○児童	の安:	全、安	心な		づくり。	ぎ の と心豊か ている。			
	,	<u> </u> 今		後		0))			課		ļ	題		
	○コーディネ ○未開設地区				,	共有の	場								
今後の取組み	i	汝				草						j			
取組み			改												

評価項目	青少年	三教育						担	当	課	土会拳	女育課			
事務事業名	児童館	す・学童	重保育 つ	センタ	一運営	費									
市 柴 の	す居場 を担う える地	ての児 所を提 子 ど も 域 社 会	共し、 の健や を推進っ	学習や体 かな成長 する。	×験活動 をと社会)等を通 で子育	し次代てを支	事	業 年	度	開昭和4	始 3年度	終継	了	
事業の目的・概要	○麻町 ○桂木	峰児童貨 児童セン 児童童セン 児童 リア	ンターンター	(緑町学 (麻町学 (桂木学	⊭童保育 ⊭童保育 ⊭童保育	デセンタ デセンタ デセンタ	—) —) —)		:費(決 位:千	算)	H25	H26		H28 29,763	H29 33,936
前年度の課題		福祉法は	こ基づく	く 放課後	货児童 支	接員の	確保						1		
当該年度の 目 標	努め ○児童	る。 福祉法(こ基づく	く 放課後	後児童支	援員の					舌動が	できる 	居場所	作りに	
	○年間	利用状剂		由来館+		-	1.14	20	1	1197	,	1			
		北の峰り	施設名 日帝館		Н	29 8, 171	H:	28 8, 0:	20	H27	8, 618				
		緑町児		ター		15, 078		14, 5			3, 516				
		麻町児:				8, 940		8, 2			0, 877				
		桂木児				14, 348	•••••	12, 3			3,676				
事業の		東部児				6, 797		7, 5			3, 421				
実 施 状 況		ж пр.Л.	5 館			53, 334		50, 6	_		5, 421				
	○主な	◎娯楽	紙芝居: かる	、読書、 た、オヤ	20,	・ランフ	カ:一輪 ^I °、伝承 °レゼン	遊び	等 ◎	社会	:挨挖	※、身た	ごしなみ L作等	、清掃	等
		H25	H26	H27	H28	H29			成度				度の		
評価	達成度					В	び通し 間、共 ○引き	、情感を続き、	操豊か 等の家 、保育	な成 庭支 士・	長に 援に 社会福	つながっ つながっ 畐祉士・	は居場の って も ない な かな い る の で る の で る の の る の の の の の の の の の の	ととも。	に、昼
	効果度					A	る放課	(友)冗.	里又货	:貝の	育 成 必	ζ () , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	1 作作		
		<u></u>	}		後		0)			課		是	夏	
今後の	○児童	の方と- 福祉法!			童セン			後児主	童クラ	ブの)		努めて			
取組み		导					토 크	•					<u>د</u> ا	色	
	○保護	者や地域	或の方法	が参画し	、やすい	事業展	開に努	める。							

評価項目	目	青少年	教育						担	重	ii	果社会	会教	有課			
事務事業名	名	学社融	合推進	生事業													
		学校 野市極 を積極 の実現 地域本	・家庭・対教の活動に推議を図るのでである。	地域社会を実し、は	舌性化を すとりと こ、平成 なり込ん	育力を結 注目指す 注潤いの 対23年度 して、数	「学社 ある学 より学 域の教	融合」 習社会 校支援 育力を	事	業	年月	医 ()	成1 校	始 1年度 支援は 0年度	終継	了 続	
事業の目的・概要	-	活性化	9 6 12 8	双 地	百体 ぐう	之校教育	で文侫				(決 第 千 円	£)	25 243	H26 282	H27	H28 269	H29 226
前年度の課						芝校支援 5用する			^、	より	多く	の登録	録を	進める	ととも	に、地は	或の教
当該年度6目 村	_	○家庭	、地域社	生会、関	月係団体	た様々な 本及び学)情報提	校との	ネット	ワー								
事業の実施状態	の児	○学社; 演題 講師 ○学校:	市内。推進。融合研修出域の出力出力に 士別	委 小 委 を か こ 市 ラ 科 整 ・ ア ス ト ラ イ 東 文 会 教 お 教 ン 補 備 22~ ア カ 1 22~	22名 表 が	属(教頭 する実践 (6/6)	表 2/23開 2/23開 の活課 を 288 補利学・	291 催 取り組 育 1 名 2 4 4 4 4 4	事 6 40人 み主 (男	列(前 幹 身性8 (()	前年2 新年3 場 第 9 3 3 7 10 3 10 3 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	: 文化	昭氏:199:1せ8	名) 36名	®パソ 旨導29名		
				H26	H27	H28	H29		達	成	-					検証	
評 値	画	達成度	A	A	A	A	A	○学校 を推 域本部 新たな	・進を体制	庭る盤の	地域、	成社会 平成 下支援 成学校	が 29年 」 協賃	·体とな を 度いら 「連 り 本部」	り、地 は従来 携・協 に ひめ	域の学をりいるを	育活動 支援地 目指す 多く
		効果度	A	A	A	A	A	る体制			-			A IL			, _ , ,
		0 27 13	<u> </u>	•	H SIII	後		0	-	,		割	-	\(\frac{1}{2}\)		<u>Í</u>	4
今後の	の		源をより	り一層す		ዾ校支援 5用する 		ある。		より	多く	の登録	録を	進める			或の教
	み	○江郵	りなのに	- 1	出せ、名	うととも	١~ ٢٠٨		宇 把	75 H	5 &A →	· 行 · · ·	+> 2"	2 半+		ランテ	ノアハ
						ととも											

評価項目	青少年	三教育						担	当	課	社会教	有課			
事務事業名	青年活	5動活性	生化事	業 (青	年塾)										
事業の	~39歳 の活性 動に関 求めて	23年度 対象 化 3 で で で る で る 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	から、(ボランラ 題意識な とが明り	D出会 v ティア沿 があり、 らかにな	v・交流 5動 ④ 同世代 よった。	の場)休日・ :の交流	②まち 余暇活 を強く		業 年	度	開平成2	始 4年度	終継	了 続	
目的・概要	図ると	ともに、	様々な	よ学習 の)機会を	が 通 し、	青年集		負責(決 位∶千			H26			H29 180
前年度の課題	学習	なる塾 機会の に活動	提供がる	き続き	・必要で	ある。			との交	き流ぐ	♥課題解	決やス	キルア	ップに[句けた
当該年度の 目 標	けた	の出会し 学習・信 等を活り	本験活動	助や広垣	成的な交	流行う		続き	開設し	/ 、 É	目己実現	!を行う	ための	課題解	央に向
事 業 の 実施状況	会員	H29.8 状況 (H 区 自主 地域	129) 分 活動 活動	青年塾 定例会 北海へ サンタの Juku-C フラノビ 社協「ふ ス ス ス 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	定期総会 ・部会 そ祭り つ宅急便 Cafe「かる ・アモー」 いらの夏勢	るた教室 ル協力 祭り」協力 出店協力 協力 なキルア	J		7/3 3/3 7~ 7/3 9/3 1/3 2/3	-3月(29 /24 28~: -8月(23 3 7	日程 (4回) 29(3回) (4回)		ど。		
評 価	達成度	-	Н26 В В	Н27 В В	H28 B	H29 B	○塾生 やの ●塾生 ○塾生 ○塾生	一地のとし自	(イだの イだが 良た でが が が が	やトらればいい	業へなを 種をかれて を ないて 住れて もれて	えた() によれる () また	の出会 i運営に の体験	検 証 いと交携わり (学習) 仕組み	流の場 、活動) 活動
今後の取組み	いく ○青年	自ら主作必要がる塾の自言	・ 体性を ある。 主性を。 女	より醸成	大させ、	自立型	組織を	学び進め	る。				りの場		広げて

評価項	目	成人教	有						担	当	記	果 社会都	教育課			
事務事業	名	ふらの)市民講													
事 業 目的・概		題に 〇中央	化する ⁴ 関大 は して、	教室等を 、山部な	を開設す 公民館、	トる 東山公	:民館の	講座を	事	業	年月	開 平成1 H25	始 6年度 H26		了 続 H28	H29
											決算 千円		799	763	762	759
前年度課	の題	課題		• 行政部	果題と↓							市民生活 習機会の				
当該年度目	ぎの 標	○現代	的課題 [。]	や地域説	果題なと	ごの解決	に向け	た学習	機会	:の充	実と	提供				
事業実施状	の況	中央・・・・ 山 ・・・ 東 山	の公子成家女自 公成全 」成市民ど人庭性主 民人世 民人 民人 民人 田 大	官対象音楽 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	子対象) E E E E 学習	2講座 6講座 4講座 1講 セ 6講座	全10回 全9回 全10回 全13回 一 全8回 全9回	延 94 延 71: 延 79: 延181: 延147: 延154:	名名名名 名名	加)						
			H25	H26	H27	H28	H29	,	達	成	度	· 効	果」	度 の	検 i	E
評	価	達成度	В	В	В	В	В	に努 ○学習	めてした	.成果)。 具を出	ケート? 地域で生? いる。				の把握教育力
		効果度	В	В	В	В	В									
		○ <i>夕</i> 4×	L. train	•	-J*1- H	後	1. 4 1-	<i>0</i>	-	* >	+>1	市民生活	E Ø 1. =	, -	夏かって	1日 小子
		課題		行政部	果題と↓		_					市民生活 :習機会の				
今 後 取 組	のみ		Ş		_	_	_		卓				_		段	
八川		をし ・現	ながら、 代的課題	、より豊 題〜社会 く~	豊かで彡 会生活を べき課題	⊌様性に ☆送る上 圓	富んだ での様	講座を	企画 題の	する中で	'。 [*] 、特	、関係部に現代に現代に係る部	こ生きる			

評	価 項	目	高齢者	教育						担	当	課	社会教	育課			
事	務事業	名	ことぶ	き大賞	学運営 🖺	事業											
事目	業 的・概	の要	人生 しと知 に で 富良	観の確認のできる。野校、同様のである。	立と家庭 を認識し 会に生た 山部校、	を及びれ してして 取山杉	び会れも のして とおで自 校い	ける 高 い き の き が 地 域 が 地 域	齢者と な経験 活向上	事	業年	三度		始 7年度 H26	終 継 H27		H29
	13 191							- 0		(単	き費 (∑ 位∶千	- 円)	982	1,012	955	967	869
前課	年 度		に努 ○近年	める必 、個々	要があるで趣味や	る。 や軽スオ	ポーツ等	に親し	が、入む傾向のる環境を	にあ	るこ。	とから					
当目	該年度	で 標	○趣味	女化?	壬動かり	ビのガル		サーク	動の推								
事実	業 施 状		○ 3 校 ○在籍 ・富 ・山	合同学者数良野校。	習の実施 本 科3 ~ 学習 F 本 科1: ~ 学 科1: 本 学習 F	施:講記 1名 日数30日 4名 日数32日 2名 日数36日	大運動大学院大学院大学院大学院	J会、主 20名 15名 5名	30日程/ 張実践 研究科 研究科 研究科	発表 4名 4名 0名	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		(出)	席率899 席率949 €率86%	%)		
				H25	H26	H27	H28	H29		達	成	度	• 効	果原	ま の	検証	
評		価	達成度	В	В	В	В	В	内容 的な また	の統 講師 、自	一と	充実を よる多	と図って 多様な学	ている。 全習活動	·同学習 教科学 」を行っ 学年別	習では. ている。	、専門
			効果度	В	В	В	В	В		に に に 広					·ツ交流 ·発行し	、市民	割知に
			- 1		•		後		0				課		是		
今	後	の	に努 〇近年	 める必 、個々	要がある で趣味 ^く	る。 P軽スオ	ペーツ等	に親し	が、入れむ傾向しる環境・	にあ	るこ	とから		•	V		
取	組	み	○各メ○公開	ズを把 ディア 学習日	を利用し や学習	ンた、こ 内容の成	ことぶき	大学の 表する	いを充っ 活動の 機会を の交流	情報 通じ	発信に	こ努め)る。			する。	ō.

評 価 項	目	子育て	支援						担	当	誰	具	こども	未来	課			
事務事業	名	ファミ	. リー·	サポー	トセ	ンター	·事業											
		乳幼児 を会員											開	始	終	了	^	
事業	の	たい者 (提供会 連絡調 児や子	(依頼会 計員) る 整を行 育ての	会員) との相 うこと 相互援	と当該 互援助 により 助活動	援助を 活動を し、地域 かを推済	提供す 組織化 或におり 	る者 し、 する を 様な	事	業生	下 虏	芰	平成2	6年度	ž á	迷続		
目的・概	要	子育で	ニーズ	に応え	る子育	で支担	爱対策 6	つ一環					H25	H26	H27	H2	8	H29
		として	実施す	`る。					事業(単/	費(注 位:日			_	2,291	2,46	$\begin{vmatrix} 2 & 2 & 5 \\ 2 & 5 & 5 \end{vmatrix}$	50	2,568
前年度課	の題	○会員○新規○会員	会員の	加入促	進													
当該年度	<i>(</i>	○去員 ○会員 ²	相互の	交流を	<u>明ガ云</u> 深め、	信頼陽	関係の特	な貝貝 構築を行	_{ひと同}	相互	L援	功 ?	舌動の	推進				
目	標	○活動 ○会員	の学習	機会の	充実													
事 業実施状	の況	2会· 会· 3会· 定· 会· · <td< th=""><th>員会員相幼幼員出内期ファ公員講木バ簡共緑、の員相互稚稚等タ・容的シサ共の演エル単施町募数互援園園に11:なボ施交「クー離設児</th><th>集【の助・・対/2心広通設流元ラン乳を、会援活保保し1,の報信等会気フア食利の肝の肝の関係を表現の)のアトーの用</th><th>(154番) 等終互7,と等行 催プ/2体りた一 の名の2の7接(154番) 等終互7,と等行 催プ/2体りた一 で名の2の7接(154番) 2・1000 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1</th><th>の(()) 15) で 60 (() () () () () () () () () () () () ()</th><th>A A A A A A A A A A A A A A A A A A A</th><th> </th><th>共 事買 戦員 養 石 育 の 支援</th><th>(38名 送等与对于 (6) (3</th><th>40件30 (40件3) (40+3) (4</th><th>(両 : 時た4 : 示 19 未)</th><th>保預かり日子 依 組32名</th><th>たの 臨中 3件 3件 3件 3件 3件 3件 3件 3 請時 1 で り う が 見 と</th><th>到 21名 他 幼稚園</th><th>自24件 名参加</th><th></th><th></th></td<>	員会員相幼幼員出内期ファ公員講木バ簡共緑、の員相互稚稚等タ・容的シサ共の演エル単施町募数互援園園に11:なボ施交「クー離設児	集【の助・・対/2心広通設流元ラン乳を、会援活保保し1,の報信等会気フア食利の肝の肝の関係を表現の)のアトーの用	(154番) 等終互7,と等行 催プ/2体りた一 の名の2の7接(154番) 等終互7,と等行 催プ/2体りた一 で名の2の7接(154番) 2・1000 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	の(()) 15) で 60 (() () () () () () () () () () () () ()	A A A A A A A A A A A A A A A A A A A	 	共 事買 戦員 養 石 育 の 支援	(38名 送等与对于 (6) (3	40件30 (40件3) (40+3) (4	(両 : 時た4 : 示 19 未)	保預かり日子 依 組32名	たの 臨中 3件 3件 3件 3件 3件 3件 3件 3 請時 1 で り う が 見 と	到 21名 他 幼稚園	自24件 名参加		
			H25	H26	H27	H28	H29		達	成	度	•	効	果	度の	検	証	
評	価	達成度	_	_	_	_	В	活動 〇年々 〇活動	へつ 、相	なが 互援 られ	って 助活 るよ	い動う	る の件数 にはな	女が増加	関係の「 加してい いるが、	いる。		
		効果度		_	_	_	A											
				今		後			の				課			題		
		○会員 ○活動 ○会員	 が十分	に認知	されて	いない	`面がす	あるので	で、広	報記	動	クラ	た実を	図る必	要があ	る。		
今 後	の			改					善							策		
取組	み	○より ○会会事境 受し ○最 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	同士や の資質 所を保	非会員 の向上 健セン	も含め につな	にがる研	开修会等	等の開作	崔	さあ と	これ	移輔	伝し、	会員等	が気軽	に立ち	寄	れる

評価項	目〕	子育~	て支援						担	当	課	こども	未来記	果		
事務事	業名	子育~	て支援	センタ	/一運	営費										
			とその									開	始	終	了	
			さし、子 言その				災、 1百 ¥	牧の徒	事	業 年	度	平成1	5年度	継	続	
事 業	の	,										1105	1100	TIOT	IIOO	TIOO
目的・										W. 751		H25	H26	H27	H28	H29
									事業(単位	費(海 立 : 千			3.006	3 009	3 410	2,884
												2,102	5,000	0,000	0,110	2,001
前年月課	更の題	- 子 杏	利用して支援					0					I			
当該年月	度の 標	. #ILE						淡を行う 推進を行		もに	、情	報提供	等を適り	刃に行う	· .	
		①ひよ	っこサ	ロン(,	月10:0	0~11:	30) 1H	I自由遊	び+0.	5H紙	芝居	· 読み	聞かせ(~2歳8	67名	
		②ふれ	あい広場	景(火・	金10:00)~11:3	0) 1H自	由遊び+	·0.5H伊	录育士	と親	子で遊ぶ	0~2歳	登録制2	2,455名	
												子で自由	∃遊び2,	616名		
								親子で					1 144 - 18			-
												.子で自 ム遊び・ルー				治
		_										生び (身体				55名
												V) 0~				Д
		⑨すく	トくすく遊びの広場 (6/12 10:00 ~13:00) 文化会館中会議室 公民館フェスタ 3歳未満 64名 子育て護座の関係 3 同135名 (小児歯科・教会法・ことげ)													
		⑩子育	子育て講座の開催 3回135名(小児歯科・救急法・ことば)													
		①地域	也域幼児クラブへの支援(月1回10:00~11:30)山部、東山、あおぞら 301名													
			型域切児グラブへの支援 (月1回10:00~11:30) 山部、東山、めおてら 301名 で育て相談116件 (支援センター相談115件、電話1件、来所0件、メール0件) つどいの広場の開設支援 月1回開催 10:00~11:30													
												\•\\ a =	0 11 111	nu .		
												※6月 3名参加	~3月 開	1催		
			アミリ :の貸出				二云貝以	里呂 励ノ	J IX 特	1 刈止		1名 多 加				
			て情報		•											
		• \$	れあい	広場お	毎 り 発	善行12回	1									
		• 43	カ月児、	1歳半	4、3点	暖の乳糸	力児健調	診時に日	子育て	ガイ	ドブ	ック等	の配布	390組	の親子	
		% ①~	5.10	保健	ミセンタ	7 — 1 附	皆子育~	て支援さ	マンタ	ーで	開催					
		⑥~	· · ·					リーナで	- 1							
		<u> </u>	H25	H26	H27	H28	H29					• <u>効</u>				
		本本曲					D	って	いる。			交換や業				
評	価	達成度	_	_	_	_	В	○育児○子育	不安てに	に対 係る	して、 青報:	気軽に 提供を行	目談でき Fってい	る場と る。	なって	いる。
н	IIIII								- '	,,, ,	17 100	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		3 0		
		効果度	_	l	_		Α									
				今		後			の			課		是	夏	
		○利用	者のニ	ーズを	: 把握し	.、より	が利用し	しやすい	・施設	運営	を行	う。				
今 後 取 組	のフ			改					善善					설		
取組	み				∄提し	事業内	内容の見	見直しる		、よ	り利	用しや	すい施設			

評価項	目	子育て	支援						担	当	課	こども	未来記	果		
事務事業	名	こども	通園	センタ	'一運'	営費										
		支援が				-						開	始	終	了	
		児童に		、光廷	怪义饭、	丁月 (、义抜?	±11 つ	事業	き 年	度					
电 邪	σ											平成	3年	継	続	
事業目的・概	の要											H25	H26	H27	H28	H29
									事業							
									(単位	江:千	円)	12,325	11,517	11,304	11,840	11,232
		○心身	に障が	い又は	障がし	ヽの疑レ	いのある	る児童に	<u> </u> ご対し	、障	ゔシン	に応じ	 た適正フ	な療育を	と行う。	
前年度	の															
課	題															
		○心身	に除が	1.1 \(\neg 1:\)	・「傍がし	かほん)のある	る 旧 舎 に	- 計1	- P /	-	チにお	ける基準	大動 <i>作の</i>) 指道区	7.ド生
当該年度	മ	団生						建全な言				10 (0 40	() ·J Æ	+ ±911 F ∘	/1日 子 /	. O **
	標	伯、	いり適心	訓除を	11 ('\	コ砂グ	正里のり	使土化ド	月灰を	凶る。						
		○旧幸	3	477												
			身の発	達に心						的 • 	集団	的療育	を行い、	発達を	と促すた	めの
								けするす 舌動作を		て、,	心身	の発達	を促し、	子ども	が持っ	てい
					-) 支援3 間形態を										
事業	の	○構成	職員					7 夕 (4	2. 杏 十	5夕	(内	嘱託 //	名)、亻	乍娄 睿》	上十 1 夕	
実施状		言	語聴覚	士1名)			rah (n	к н т	о ₂ д	(11)	.%battr -≖ .	71 / 、 I		3114	
		○療育○療育	時間:	指定さ	れた目	時に作	呆護者[1回	の療	育時間	は、1時	間~1時	時間15 分	r
		○定員	:1月1	0名]	週間5	0名	と基本。	としてい	いる。							
		○通園○乳幼				- /) H29 :、3歳			
		士)	H25	H26	H27	H28	H29		達质	支 厚	F E	• 効	果原	ま の	検証	•
									児童の				こより適			
⇒		達成度	_	_			В	○専門	職(作				5聴覚士	、保育	士) に	よる適
評	価						<u> </u>	止な	指導刀	いなら	*XL =	ている。				
		効果度					A									
		○ 3% 14		<u>今</u>	・トキ	後	カンブ	適正	クナッドマ	5 (지 누니	課		£	<u> </u>	
		○保護	養者対	芯					/よ/原	月 , 人 (ソ刈	心				
		○民間	児童	発達支	接施	設等と	の連携	隽								
	のみ		-	1 <i>h</i> -					羊					<u>K</u>	企	
一九	▽	○学習		<u>改</u> を充実	€し、J	職員の	資質の	の向上	善 を図る	5 。				5		
		○保護	養者の?	相談や	家庭`	での子	育てき	支援を	丁寧り	こ行し			療育を		₹. ₩∴#、	-}-
		る。										次守で	. 11 V',	生伤?	1.7压)	9
		〇自己	と評価)	及び利	J用者	(保護	者)し	こよる	評価の	り実力	衐					

評 価	項	目	子育て	支援						担	当	課	こども	未来記	果		
事務事	業			地保													
			へき地										開	始	終	了	
事業		の	の児童し、運			を図る) ため所	也段を記	ダ直	事 業	年	度	昭和	41年	糸迷	続	
目的・													H25	H26	H27	H28	H29
										事業費(単位	:手	円)					20,636
前年)課		の題	保育課	程に記	載され	ている	保育理	里念 、何	呆育方釒	十、保育	育 目相	票を	踏まえ	た適正	な保育活	舌動の扌	推進
				理念:	子ども	一人で	トとりを	と大切り	こし、例	R護者/	3269	ら信	頼され:	地域に	愛される	る保育原	斤を目
当該年目		σ	○保育 ①丈	目標 夫で体	力のあ	る子と	i	②明る)びあ-	そぶき	子ど			目を向け		
			④自 ども	分のこ	とは自	分でて	できる子	とども	⑤した	といこ	と、し	して	ほしい	ことを	言葉で表	長現でき	きるこ
				教育施	設とし	て、	「幼児丼	月の終れ	つりまて	でに育っ	って名	次し	い姿」	を意識	した保育	育の推済	<u></u>
						Щ	部保育	所	東	山保育	所		あお	ぞら保	育所		
				定	員		50名			30名				30名			
				入所	者数		23名			16名				20名		※ H2	9. 4. 1
				対象	年齢	満2	歳~5点	&児	満2	2歳~5	歳児		満2	2歳~5歳	遠児		
事業		の				8:3	30~15	: 30	8:	30~15	:30			30~15			
実施:				保育	時間		2歳~5			i2歳~!		Ī		2歳~5			
							4月~10			4月~1				4月~10			
				4/	<u> </u>		シェスト シェスティング			0迄延長		1		0迄延長			
				給 保育			/おや/ ・混合			/おや· ・・混合		5		/おや/ ・混合			
			運動				幼小:			子遠足					所合同	 行事	
				祭への			·会との					-			交とのる		
		Ī		H25	H26		H28			達成					きの		É
評	,	価	達成度	_	_	_	_	В	○地域	の保育	· 教	育加	を設とし	て、保	と育理念 ている	、保育	
			効果度	_	_	_	_	A									
					今		後			の			課			夏	
今 後		の	○保育 ○地域	所が幼 や教育	児教育 施設等	「施設と ≦との連	: しての 連携によ	り機能を こる保育	を持って 育事業の	ている 3 O推進	ことを	を理	が必要 解し、 への支	保育を	する必要	要がある	°°°
取 組		み															
			○地域 ○全体	の関係 的な計	機関等画 (保	と連携 と言葉程	りょう () () () () () () () () () (R育内? 基づい/		ミを図る 刀な保育	るとる 育活重	とも			全確保に	こ努める	ó 。

評価項目	富良野	市立虹	Lいろ供	呆 育所				担	当	課	富良野	市立虹	Lいろ信	保育所	
事務事業名	認可保	育所選	軍営費												
	認可保										開	始	終	了	
事業の	児・幼児の最美の	児を日々の利益」	マ保護者 を宝鵄	かい かい かったな保		せて「=	子ども	事業	羊年	度	昭和	41年	継	続	
目的・概要	幼児教	育の向_	上を図る						# / 24	<i>\$</i> ** \	H25	H26	H27	H28	H29
								事業5			,	67,590 中央・麻町	61,844	55,895	53,850
前年度の課題	的に		とする児	見童の健	康と安	全を保障	章し、伢	ですが	におり	ナる	環境をる	とおして	養護及	び教育	を一体
当該年度の 目 標	を提作 〇各年 野市立作 健全乳児に 〇幼児に	供する。 齢の育所含 保育成に有 保育を を で で で で で で で で に を で に で が に で た で た で た で た に た う に た う に た う に た う に た う に も た に も に も た に し に し た に も に も に も に も に も に も に も に も に も に	幸と特徴 全体的な らいて こ ひとして	枚、ねら a計画」 は、十分 こ、「幼	い、内 として ·に養護	容、保育 内容の の行き 終わりる	育者のか 数訂を行 届いた環	いかわ fい、f	りを 保育P もと、	「富力容」生	良野市3の充実な の充実な 命の保持	立保育所 や家庭と 寺および	「保育課 : の連携 『安定を	ができ を を 行い 図って 全体 を	「富良 児童の いく。
事業の実施状況	保育 対象 入所 入所 ②一時 (3)障がい ④世代間	時間 年定児童数 保育事業 保育	満6ヶ 156名 121名 0歳べ の の 保 一 育 で 下 下 下 大	0分~18 7月 7日 7日 7日 7日 7日 7日 7日 7日 7日 7日 7日 7日 7日	て 30, iや出産 [®]	で ~24名 ;151人 等により かつ心身 童 22 o為年2回	2歳児〜 緊急に保 いに障がい 名 加 記 訪問及	:育が必 vを有す 配保育 び保育	が要と する児 士 1 ず所に	する! 童を 0名 来所	児童に対 集団保育	する一時	寺的保育 別保育を を図る。	と行う。	
		H25	H26	H27	H28	H29	-	達成	文 厚	Ę	· 効	果児	度の	検 i	E
評 価	達成度	_	_	_	_	В	かわ や要 応じ	り方を 求を満 た保育	: 保育 情たし 『を行	課程た生	≧を基に ∈活やあ ことがで	児童の そびを	自発性を 通して付	保育者を大切に を大切に 固々の発	具味
	効果度	_				A	○H29	年度よ	り保	育所		利用し		で子育て	こをして
		4	<i>`</i>		後		(り			課			題	
	がある。 ○保育 ○日 ○日 ○日 ○日 ○日 ○日 ○日 ○日 ○日 ○日 ○日 ○日 ○日	ため、例 所が が は 表 で 支 援 は す そ で 表 で 表 で 表 で る で る で る で る で る で る で る	呆育の貿 見教育が 題を見扱 のため ほと のため	ででです。 ででである。 ででできまれる。 ででである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でき	を図っ ての自 画を柔	ていたがくがない 覚をになる ひまれる ひまれる かいまん かいまん かいまん かいまん かいまん かいまん かいまん かいまん	必要性か ち教育機 え反省・ が安心し	ぶある 能を 実践 て遊	果たっ を行っ ぶこる	すとう必	ともに、 要がある できる\$	全体的 る。 場所と地	かな計画	してい に基づ 子同士	き子ど
A 袋 の		己	<u>t</u>					善善善						 策	
今 後 の 取 組 み	I○研修:					通して信	呆育のオ	(準の	句上を	と図	り教育	· 保育の	質の確	保を行	い効率
, ,	〇養護	と教育の				め、全体	本的な計	画の記	変訂る ひまり かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい	を進	めこの記	計画に基	でき具	体的な	保育に
	努めてい ○児童 係機関	福祉施調				確保を図	図るため	安全	管理	• 危	機管理	マニュア	ル にそ	って地	域の関
	〇少子	化の進行	テに伴い	就学前	児童数									会進出	
	場合は	小規模型の保護	型事業別	行内保育	所との	連携を図	図る。							の空がっての広	
	211 /	D													

評価項目	富良野	野市立動	エいろん	保育所				担	当	課	富良野	市立虹	いろ保	育所:	
事務事業名	3 障がし	\児保育	育事業9	費											
事 業 <i>0</i> 目的・概勢	る児童 がい児 必要な 図るこ	「の必要」 に対し の心身 基礎能 とを目	、必要な の成長を 力を養い	な保育を を促すと ハ、障か	と行うこ こともに	とによ .、社会	り、障 生活に 増進を			-	H25	始 15年 H26	終 継 H27	了 続 H28	H29
				- (rt. A .)				(単位	::千F	円)	麻町	中央· 麻町	9,742		
前年度の課	て、 〇発達 〇就学	ともに が気に :期児童	成長でる なる児童 の関係	きる保育 童の入列 幾関との	育を実施 所が増加 の情報共	i し、引 i し加配 i 有及び	き続き 保育士(連携を	障害児 の育成 図る。	保育の	の増	進を図	る必要	他の児童 生がある		を連し
当該年度0 目 材	O 必要 の第 ○ 児童 ○ 就当	安全確保 置発達で 学児を対	じて障? 保を行 センタ 対象と	がい児 うこと した小	担当保 で児童 かよを 学校と	育士の の成長 教室と の連携	配置を 、発達 の連携 を図る	:行い きの促 きをと)。	健常の	支担 個別	爰。 別に対加	むした	の中での指導計画	画の作り	戍。
事 業 0 実 施 状 ?	士の哲文の個別の特別	記置を行 対象児重	テい児 童数 計画の 車携協調	童の成 平成2 作成お 議会に	長発達 9年度 よび 出席し	を (2) 2 ービス 小学校	保育体 名 担当者 との連	制の 加配 会携 を	促進。保育に図る。	。 士 : 児 :	10名	環境の(保障及	び適切	な保育
		H25	H26	H27	H28	H29							度の		
評 信	達成度	_	_	—	_	В	合わせ ○加配 援が図	た支援 保育士 られた	に取 の配 。	り組 置を	flむ事が と行うこ	できた。	り児童の		
	効果度	_	_	—	_	А		いがあ	る無	しに	関わら	ず、保	。 育所生活	舌の中で	子ども
			今		後			の			課			題	
	生活 要性が 〇発達	舌を通し びある。	して、。 こなる!	ともに	成長で 入所が	きる保増える	:育を実 中、児	施し	、引成長	き 紀 に 届	売き障が	がい児位	竟の下、 保育の 育士の	曽進を[図る必
今後 0)														
取組み								善						策	
	生活 〇教育 置に勢	舌を通し 育・保育 努める。	して、 育の質	ともに	成長で する観	きる保 点から	:育を実 、保育	軽施し 計士の	、引スキ	き終ルフ	売き障グ	がい児位及び人間	竟の下、 保育の別 的確保を を図っ、	増進を を行い;	図る。 適正配

評価項目	文化則	才保護					担	当	課	生涯等	2習セン	/ター		
事務事業名	文化則	1保護層	冬蒙・	普及活	動									
事業の	保護 ○郷土 の民俗	のための	の普及・ された める。	· 啓発活 民俗芸能	舌動を推 指を保護	進する し、そ	の活動事	業	年 度	昭和4	始 3年度		了 続	
目的・概要									決 算) 千 円)		902	H27 898	H28	H29 1,612
前年度の 課 題	〇郷土	芸能保	存団体(り伝承活	5動レ谷	継者育	に伴い外部 成に対する 伝習館の努	支援	を継ぎ	声する	⁻ る。			
当該年度の 目 標	〇郷土		存団体の	り伝承活	5動と後		成に対する 思想の普及			-				
事業の実施状況	世・・市「「・郷・郷・代書」、 郷・ 郷・代書	文営会定良海北芸費 芸定用化農福文野道海能補 能管団体理体	保整法財子学大存金 習者:護備人の舞第学団〜 館で富の事富保」八第体富山のあ良いのあ良い まき がいまき かんき	こ巻を雙「襲しいを邪劝る呼め(野 北場農活野獅果富弥の側あ 海富場動獅子的良栄	事也さ、 直艮コモニ 乗氏予 式前帯ひ 中野部援舞保用市鼓保保存 郷保存 郷保存 郷保存	《·所在在成設 《·斯奇音》 《·斯奇言》 《·斯奇。 《 ·斯克 《 ·斯克 《 ·斯克 《 ·斯克 《 ·斯克 ·斯。 ·斯克 ·斯克 ·斯。 ·斯 · · · · · · · · · · · · ·	」「北海道」 」の説明板)千円、富良	と と で と で と で と で と で と で と で と で と で と	所って (所)	確認調查 農場山部 (器具) 技保存会	3成墾記 修繕料1 : 344千	念碑」 70千円 円		
		H25	H26	H27	H28	H29	達	成	度	· 効	果原	きの	検 訂	Ê
評 価	達成度	В	В	В	В	В	○ 見学会の 再評 の郷土芸育 より民化 ていると	つ開催 と保存	によ 区の 団体 この保	り各地区 歴史につ への財政 護と活動	ついて学 女的支援 かの奨励	ぶ機会 や活動 に一定	となっ 拠点の の効果	た。 確保に をあげ
	効果度	В	В	В	В	В	は至って			が、 云 身	100少。	妆 种	小座の	用牛 (円 (⊂
			•		後		Ø			課		Ę	夏	
今後の取組み	○市指	定文化原	財に劣化					文継者	· の育店	灭			*	
取組み			女 存団体の	り伝承性	5動レ谷	絲老杏	善 成に対する	支	の継丝	赤		j		
							成に対する 保護思想の				進			
		· <u></u>	· <u></u>	·		_	5/1 _					·		· <u></u>

評価項目	1	博物館	İ						担	当	課	生涯等	全習セン	ノター		
事務事業名	Š	博物館	含活動的	進事	業											
事業の			集展示			ついて <i>の</i> み等の博				業力	下 度	昭和4	始 3年度	終継	了 続	
目的・概要												H25	H26	H27	H28	H29
										業費 (位:=		1,190	1,196	1,141	1,137	1,084
前年度の課	0	盟保	1. 市	早の学?	図音欲の	う酸器を	図る					らの市国			をとりフ	ながら
当該年度の目)	よう 〇美術	な事業	を展開し系の講座	していく							育普及に で美術の				
事 業 0 実 施 状 没	り R	・・・講 絵小 イ博富個第第富道演 画中 ン物良人	32良北会 ワ学 タ館野(回野地「「一校 一資西野中」であシク等 ン料中)	別別ー博らマシの シの麓 「「ジーキのフョ学富ッ貸郷 でいる はいかい かんしょう かんしょう かんしょう いんしょう いんしょう いんしょう いんしょう いんしょう いんしょう はいいいん いんしょう いんしょう いんしょう しょう しょう かんしょう はんしょう はんしょう はんしょう いんしょう はんしょう いんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう いんしょう いんしょう はんしょう いんしょう はんしょう いんしょう いんしょう いんしょう いんしょう はんしょう いんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう いんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう かんしょう はんしょう かんしょう はんしょう はんしょう はんしょう かんしょう はんしょう はんしょく はんしん はんしんしょく はんしん はんしんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん は	市ンヤ等外コプ友野受し、 民マラ連彫ウ「援高入 富 美フリ絡対にア・校れ 良	カー協議メジト 前良官 ウ画会知自を講り良良 の展巡離然楽座野野	撃が2017 (10年 を 1017 を	こえる。 COLLEC 道北地 17 13 9/2 !」全: 小・校で・ 下生 2名 上海道博	。」 ΓΙΟN 区人 26 / 3回1・良1 第 11	7/22 7/22 1 GAL 文 人 11/18 高市 1/7·8 馆特	~9/2 LERY_ 者 ・11/ 小・ 扇)	7/7 観覧 44 観覧 11/11 5 11/ (25・12 i山小・富 研究会社	t者1,84 ~3/4 11~12/ /9 延6 「良野小 :会科班	1人 観覧者 17 観 2人 ・ 産 郷小	覧者 43 い布礼気 の青年	39人 別小・ 部)
	Ī		H25	H26	H27	H28	H29		達	成	度	· 効	果度	ま の	検証	
評 個		達成度	A	A	A	A	A	とで ○美術	、 系講	『土意	識の新た	、文化を 高揚につ な講師を	つながっ	ている	0	
		効果度	A	A	A	A	A									
		0 /== :		}		後		0	-		- ···	課	H. 5.7.	是		m = tot
今後の取組み	り	育普. ○美術	及に努	める。 <u></u> 座や展え	テは協力		開催内	容の多	様化	に引		習資料の				
4人 租 6				女					礕					Ś	色	
						本等とも ě掘を進		力し、「	調査	研究	活動	を継続し	て実施	する。		

評価項目	博物館					担	当	課	生涯学	全習セン	/ター		
事務事業名	自然体験	・環境学習]事業										
	る。	環境への理解 験学習や森林	,				業 年	度	開 昭和5	始 1年度	終継	了	
事 業 の 目的・概要									H25	H26	H27	H28	H29
							ઇ費(決 位∶千		博物	勿館活動	助推進	事業に信	2含
前年度の課題	示や学習 ○自然体駅	自然環境につ 習資料作成等 険や環境学習 幾関や市民団	に活用する で通して	る。 人と自然	太の関わ	り方、	郷土へ	· の愛	着、自				
当該年度の 目 標	の回りの	察や体験の線の自然につい と関や市民団	ヽて考えるホ	幾会を持	寺つ。								民が身
事業の実施状況	・10/15 14/15 10/1	察とのの等保対里太子 のが自然を変えるとのの等保対里太子 察の花のが自開室環活オルのないを 本際 本陽社 一花察 の花 のが の の の の の の の の の の の の の で の で の で	7 オッチンラ 切りマース リシマース リシマース リカマース リンゴの リンゴの リンゴの リンガの リンガの リンガの リンガの リンガの リンガの リンガの リンガ	7/2・7/2・7/2・3/に3/2・ウョ・・ウョ・・をへ」・参街4/2・クラ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2十雪ぶ察(らず裁季 よび勝中自ガ山 そ夕察般 う朝岳散然イ部 〕ルコク 」日	の策保ド小 、生一 M 全丘 M 全丘 M 全丘 M を M を M を M を M を M を M を M を M を M	活ゾ9/ 樹 川査活体 国園 上力 2 海 草 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	小を6 ト 木 整東 5 松追人 巨 を 備京 人	:原原生 !って !、麓郷 育てる! (上川i	3小布礼 集い植植 南部森材	別小合財祭(清本管理署	同1回) 青水山) 骨との協	」、定)
	Н	I25 H26	H27 H	28 H	29	達	成 厚	Ę	• 効	果原	ま の	検証	
評 価	達成度	A A	A A	A <i>P</i>	A	本の身 ることの ることの る なり な も た も た も た も た も た も た も た も た も	よって 少生物	1 7をラ	方民の環 テーマと	環境教育 : した展	に寄与 示や講	してい 演会の	る。 開催に
	効果度 .	A A	A A	A A	A	-0							
h M	○地域の目	今 加型の自然体 自然環境の変 的し、今後の	ご化を知り、	とおして 将来的	りな保全	と活用					と育成		-
今後の取組み		改				善善善					告		
		後関や市民 _団	体等の協	力を得た	よがら自		活動や	調査	研究活	動を推			

評価項	皿	文化振	長興						担	当	課	生涯等	全習セン	/ター		
事務事業	名	山部菜	あの会社	甫助金												
事業(の	会活 ○会は 究、 づく	動に対 昭和 5 研修見 り指導	する補 6年3 学会、/ 等の活動	助。 月発足り 小学生や 動を展開	こめ 、	種改良 対象と る。	等の研した菊	事	業 年	度	開平成2	始25年度	終継	了 続	
目的・概	要					- gに、 O「山部						H25	H26	H27	H28	H29
		承•	発展を	図り地場	或の活性	生化に資	する。			養 (決位∶千		300	300	300	300	300
前年度(課	の題	○市民	講座の	開催を	とおして	て菊づく	りの楽	学習の しさや た活動	ノウ	ハウを	PRl			継続す	る。	
当該年度	の標	続す	る。					学習の しさを [,]			して	、菊花	E展開催	等の活	動の支持	援を継
事業実施状	の況	※(ふ※※ 山山ふ会視当部ら員察	展0/678 1(1) (1) (1) (1) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	、平成2 1921/678 19000点を 19000度 19000度 19000度 19000度 19000 19000度 190006 19000g 1900	20年122/4 10年122/4 10年122/4 10年12/4	以降 H23/ 48 H23/ 出体報で、お花験 の お花験 の と 対展講	23年の 721 H2 あった。 座」 の名の年 」の朝	催	:ピー H25/ : なし	- ク に: 644 H2	28年 26/5	まで600 56 H27/	0∼400 f ′445 H2	8/460 I	H29/226	,
			H25	H26	H27	H28	H29		達	成月	Ę	• 効	果度	き の	検証	
評	価	達成度	В	В	В	В	С	○会員 月現 状況 ○菊づ	の減 在54 でく	少傾向 名)及 り、 体験語	可が絶 び健 す花原	売いてV 康上の 展出展数 D今年度	vること 理由かり 女の 愛の 受講 関	っ活動組 にもな 者はな	*続が困ってい。 かった。	難な る。
		効果度	В	В	В	В	С	られ		、平司	* 来 0	7 達成 8	まと効果	没は仏	V 1人/元	と与え
			1	}		後		0)			課		是	<u> </u>	
今後(の	○後継○同様	者の発 状であ のこと	掘・育成 る。 が菊づ。	につい くり市国	ても、: : : : : : : : : :	ライフ <i>></i> 参加者	から、 スタイル 数にも て組織	⁄ の 多 表 れ	多様化 ている	こよ	り興味	関心を対			
取 組	み		Ş	文				‡ 5	礕					Э	₹ <u></u>	
		では	大変厳	しい状と	兄である	5.		学習の		組みと	して	会 員σ	確保は	重要で	あるが、	現状

評価項目	森林環:	境教育	Ĩ					担	当	課	生涯学	学習セン	/ター		
事務事業名	森林学	習プロ	ヷラ.	ム推進	事業										
事業の	進する 〇市第5 の実施	市内/ 5。 5 次総 6 事業。	小中学生計画後重要等	を対象 後期基本 後績評価	きに森林	環境教 び市総 (KPI) 系	育を推 合戦略	事	業年	F 度	開 平成2	始 7年度	終継	続	
目的・概要	○文科省	ゴンフ・ 貨「首!	5000mm 長部局等	x 1375 等との 協	はかによ	131 <i>)</i> る新た	な学校				H25	H26	H27	H28	H29
	〇森林学 掘・育	学習プロ 育成を見	ュグラン 東大演習	ムの構築	監修の下	ボイド	の発			央算) - 円)	_	_	(国費) 479	3,672 (内国費 1,483)	3,157
前年度の課題	○プロク 善し気 ○森林太 ○事業の	と成する ゲイド(る。 奏補者を	と発掘し	/、育成	このため	の講座	や研	修会	を開催	崖する。		ま えプロ	1グラム	を改
当該年度の 目 標	○プログラマ年度○森林太○神社山	度作成 ガイド(を制度を	したプロ 奏補者の を設ける	ュグラ♪ O発掘を Cレベル	への改善 ご進め、 ンの維持	を図り 育成の 向上に	、定番 ための 努める	プロ 講座 。	や研り				すると	ともに、	ガイ
事業の実施状況	○プロク ・6/20・ ・8/18・ ・9/5・6 ○「ガイ	つ ブ 21・9 1 1 25・8 ド 事 森 度 6 3・9 1 1 前 2 5・8 ド 事 森 度 6 3・9 1 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	で か 2 部毎集か学事会者の 2 部毎集か学事会者の 3 本富り3 本富り3 で 本富り3 で 報見人森 8 は 9 プ 号 4 の 9 で 4 の 9 で 4 で 4 の 9 で 4 で 4 の 9 で 4 で 4 の 9 で 4 で 4 の 9 で 4 で 4 の 9 で 4 で 4 の 9 で 4 で 4 の 9 で 4 で 4 の 9 で 4 で 4 の 9 で 4 で 4 で 4 の 9 で 4 で 4 の 9 で 4 で 4 の 9 で 4 で 4 の 9 で 4 で 4 の 9 で 4 で 4 の 9 で 4 で 4 の 9 で 4 で 4 の 9 で 4 で 4 の 9 で 4 で 4 の 9	・ と野 4年 D N D D F H Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y	→ 中 ・ 中 ・ 8/24・ ・ 8/24・ ・ 4 ・ 9/1 ・ 4 ・ 1 ・ 2 ・ 4 ・ 2 ・ 4 ・ 3 ・ 4 ・ 4 ・ 3 ・ 4 ・ 4 ・ 3 ・ 4 ・ 4 ・ 3 ・ 4 ・ 4 ・ 4 ・ 5 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 7 ・ 8 ・ 8 ・ 8 ・ 9 ・ 7 ・ 8 ・ 8 ・ 8 ・ 8 ・ 8 ・ 8 ・ 8 ・ 8	樹木然18日 1 · 6/230 樹 度検5年業画プ 発5年業6年業7年7年7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7	学習・4 73人 7-28 7-28 7-10 7-29 10 10 10 11 10 11 10 11 10 11 11 11 11	三様加贝年 プラ実 2~10 フリカ フリカ フリカ フリカ フリカ スリカ ストリー アイ・ファイ アイ・ファイ アイ・ファイ アイ・ファイ アイ・ファイ アイ・ファイン アイ・ファイ	加(ガ年人人 グ뢲改へ 5湖毎イ33布 ライ 24番の 進	: 木ド)人礼 ム// こ参 捗天調延 別		. 工林の the column	観察 比較) 山谷同) けた)		
		H25	H26	H27	H28	H29		達	成	度	· 効	果厚	ま の	検証	
評 価	達成度	—		В	В	В	を作 ○学習 きな	成し の深 かっ	実践 化に た。	した。 必要 ⁷	さらた な事後学	と中学村 こる改善 と習を必	に取り ずしも	組んで [†] 行うこ	いく。 とがで
	効果度		_	В	В	В	の発	掘に	は至	らなが	かった。				
		4	·		後			り			課		是	<u>Į</u>	
今後の	○平成3 ○定番フ ○森林与 ○神社山	プログラ 学習サス	ラムの5 ポーター	と成に向 - 認定制	可け、プ 川度を導	[°] ログラ 【入し、	ムのさ 人材の	確保	と育り	成に 多	子める。	、東大	演習林	と協議で	する。
取組み		ţ						善					9	É	
	●●ののののののののののののののののののののののののののののののののののの	- ター「 ター 「 東習林 [」] の進捗 [‡]	向 け ア ン 教 育 え え え え え え え え え え た え た え た た た た た	トストの トト、枸 大学旭川 古報紙や	作成に 計会議 校との ホーム	取り組織やサポッ連携を	む。 ータ ー 答 を 通	との 、事 じて	意見を	交換に スム-	こより事 - ズな拍	業の改進に努		る。	

評 価 項	目	図書館	Ĭ						担	当	課	図書館	∄			
事務事業	名	図書館	運営	管理事	業											
事業	の	書活動 【概要 ○図	等を通 】 書館の 書館利	した生 運営 用者団	:涯学習 体等^	型と市り 間の場の の施設 ののイヘ)提供 设貸出		事業	業 年	度	開 昭和4	始 7年度	終継	了 続	
目的・概	要	○イ	ンター	ネット	利用站	帯末の割		上 作				H25	H26	H27	H28	H29
			書館情							左:千	円)		20,390			27,211
前年度課	の 題	○図書○施設○利用	ぎ館情報の適ける。 対象では である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	報シス 切な維 ービス	テム(持管す のさ	の機能 埋及び らなる	見直し 修繕さ 向上の	と 枚修に のため	よる 、開負	施設(第日教	の管 数と	理運営 開館時	評問の見	見直 しれ	倹討	
当該年度目	の標	○図書 情報提○計画○開館	供を 第館情 前的な	行う。 報シス 施設修	テム? :繕に。	を更新 よる、	し、記 安全で	売書推 で快適	進機能な環境	能を引 竟整値	充実 備を	させる	こついて	て、地域	或住民	〜 の
事 業実施状	の況	貸図利多展図エ図開開	日人館状的ホ館べ館日日数数利況ホーまー情数数一::用・一ルつタ報増:	285月 32,904 28 7 28 7 32,904 29 7 30 7 30 7 30 7 30 7 30 7 30 7 30 7 30	名会 サ6日 1 貸田 # 2992名 ·	計数:1 図書 231回 (「子 28日 置設置 式行 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記	延2,54 どもの 来場 <i>)</i>	冊 5名 3名 数 6 5	官まつ 8,925 日間)り」 5名	、数49名	書館ま	つり」	を除く)		
			H25	H26	H27	H28	H29		達月	戊 厚	Ę	• 効	果度	ぎの	検証	
評	価	達成度	A	A	A	A	A	加・ んで ○開館	ボラン いる。 日数 [‡]	ノティ 曽の詞	ア l l 行 l	との協働 日平均で	生涯学 動による ご、貸出 19冊 (「	施設の 人数10	有効活。 4人(火	用が進 電日
		効果度	A	A	A	A	A	あった	。開館 人、1	官時間 貸出冊	延士	長の試行	19 (で、水	曜日が	貸出人
		0 El #i		今	. 34.4	後	»— .		の	77 101	71.71.	課	- All lab =		夏	
今後	の	○図書: ○施設:	館情報 の適切	システ な維持	ムの機 管理及	能活月 なび修締	月 善改修り	こよるカ	施設の	管理:	軍営		の維持多直し検討			
	み			改					善					-	負	
		○図書館 館ホー ○計画I ○開館	ムペー 的な施	ジ、ラ 設修繕	ジオ広 による	、報、 ラ 、 安全	フェイン とで快道	スブック 窗な環境	フ等を 覚整備	活用 を行	して		、館内技住民への			

評	価	項	目	図書館	1						担	当	課	図書館	j			
事	務事	業	名	図書資	科整体	備事業	į											
事日			の画	の収 集・ 【概要	- 住民の 提供 】				よる図言		事業	美 年	度		始 7年度		了 続	1100
Ħ	пy -	7 15元	安	た 〇視	聴覚ラ	イブラ	リー資	資料の単	尺と収算 又集 興協議会		事業!			H25 5,588	H26 5,562	6,702	H28 5,852	5,702
前課	年		の題	○新鯓 ○沿縛 ○利用	市町	村を始	めと	する、	他町村	対図書館		の連扎	隽強	化				
当目	該年		の標	め、 除籍 ○録音 る。	適切な 番を進 千図書	更新と める。 や大活	宇本	など、	高齢ネ	きや障	がいれ	皆に対	讨応	した図	·資料の 計書資料	斗の整(帯を進	
事実	施		の況	○利用 ○地域 ○CD ○北海	者の学出 の と が と が ま り り り り り り り り り り り り り り り り り り	習及び 資料の ロデブラ	調査研 び行 で で で で 、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	研究の7 牧資料の 徳 への提付 OVD:	こめの参 り収集 <i>l</i> 共 ノフト4	参考図書 こよる、 0本購 <i>7</i>	事や専 地域 (富	門的質の特値	資料色あ	の収集る知的	302冊) 財産の看	皆積		
					H25	H26	H27	H28	H29						果度			
評			価	達成度	В	В	А	А	А	活用 る。 ○録音	する ^中 図書 ^や	中で、 空映像	適均	刃に新干 斗の館卢	だ把握し 川書の選 対視聴や ご、図書	訳と収 ・、北海	集を行 道新聞	ってい データ
				効果度	А	А	A	A	А		ってレ				- 、 囚 盲			八促跃
				- t		今		後			の			課		是	夏	
今	~ ~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	复	の	○新鮮 ○沿線 ○利用	市町村	を始め	とする	5、他町)連携	強化						
取		Ħ.	み		i	改					善						色	
				新と除	籍を進	める。			-						整備を図の整備を			な更

評 価 項	目	図書館	Ī						担	当	課	図書館	1			
事務事業	名	読書活	動推達	進事業	4											
事 業 目的・概	の	図書 情報 【概要	の生涯 の提供 】 書資料	情報の)多面的	: なる図 かな提供 5用によ	共と積板	亟的な	事業事業費	費(決	算)	H25	始 7年度 H26	終 継 H27	了 続 H28	H29
				化や利]用者:	ニーズ	`に対』	なした	一層交				_ F料及で	_ 多様 7	_ な図書 ⁶	- 情報
前年度課	の題			.	a -t-1		1 3 126	/ . / . / . / . / . / . / . / . /	II. A. Ne	Ć 111 ×		1 - 1 - 1 · V/r	* vlot [- - 4-	n.). 11 -	****) ITT	
当該年度目	ぎの 標	ること 利用 〇相互	によ 者か 賃借	り、 らのリ システ	クエ	ストな 活用に	:ど、 <u>/</u> : よる、	生涯学 他図	習ニー 書館と	- ズ l : の j	こ必 重携	要な図 貸出を	書資料	斗を提作 ける。	雑に把き 共する。)
事 業 実 施 状	<i>の</i> 況	○リク・○相互:○新た:「ど	エ 貸	数:4,他図書機ののの話	247冊 序館から 後能の追 らく (記 き書推進	(自館)の借号 自加 き計画制 を書せ一と	窓口2, そ950冊 長) 」 ^英	637冊 - ・他図 導入 ・ を(マノ	⊢自館v 書館へ ··12月。	veb66 の貸 より	60冊 ∃出3	+他館 ⁻ 50冊	り、広 ^素 借受950 の追加)冊)	より	₹提供
評	価	達成度		A A	A A	A A	A A	○市民 り、	利用登	i たり 録者	の分数で	当出冊数 514,05	女は、6. 9人とな	47冊と ってい	検 記 高い水 る。 5行の和	準にあ
		劝术反			71		71									
今 後 取 組	のみ	○インり、利	の 変化	收 ットや シ シ シ ン ト ン り ス ラ リ ス ラ シ ス ラ ム フ ラ ム ラ ス ラ ム ラ ム ラ ス ラ ム ラ ム ラ ス ラ ム ラ ム	· 専門誌 クエス の活用	志など様 く トな と 月による	様々な好 ご、生況 5、他[8	某体を活 重学習っ	善 舌用し、 ニーズ(図報	書資 変な	料情報	を的確し料を提供	図書情報	質 服の提供 を たること	

評 価 項	目	図書館	Ĭ						担	当	課	図書館	İ			
事務事業	名	子ども	の読	書推進	事業											
事業	の	でもど 【概要 ○ブ	- ての子 こでも 】 ックス	読書で	*きる環 (乳児	環境づく 見7ヶ月	月相談問	寺)	事	業 年	度	開 昭和4	始 7年度	終継	了 続	
サー 未 目的・概	-		ックス 種おは			く (1 京	飯6か月])				H25	H26	H27	H28	H29
		ÖΞ	どもの校図書	図書館	iまつり)				費(決 立:千		670				
前年度課	の題	・家 ・地	寝庭に:	おける 図書館	読書注 ほにおり	活動の ける読	啓蒙	2次計] ØĴ	具体	的取組	l.			
当該年度目	の標	を継続	まする。 禁館情	, 報シス	テム	更新に	よる第	折たな	子ど	もの語	売書		る読書			
事 業実施状		○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	ク日ごぐも図学校ンンスののりの書校図テテタおおの図館84書イイ	ーははお書支2館アアトななは館援40サ研視フししなま:冊ポ修察	プラ会会しつブ、一会研ス::会りッ中ト:修	91名酉 2回339 0回282 41回5 5月10 7ト交2校 グックフ 月27日 10月7	己布(デ 名名名名 56名 14年 90冊校62 44催	K館も14 13 14 15 15 16 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	F) 8名+6名+ 235名 団 体 加(記	·保護 ·保護 · +保 · +保 · +保 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	者10 者10 者 者 生 者 生 者 生 者 生 者 生 生 生 生 し し し し し し	0名 + ホ 1名 + ホ 158名 + 行委員: 『出8, 01	11∰、	ィア91 ィア45 ティア	名)参》 163名)	参加
			H25	H26	H27	H28	H29		達	成 厚	Ę	• 効	果度	き の	検証	
評	価	達成度	A	A	A	A	A	○児童 りの児 9.2冊)	書の1童書	個人貸 直接貸 高い	出版 出版 水準	₩数64, ₩数19. を保っ	387冊、 0冊(平 ている。 前年度J	幼児・ 成26年	児童一 度全道	人当た
		効果度	A	A	A	А	A									
		0 []		今	. Mr. 0	後	to vi =	I === ¥	0	Д. 11 -	£ ./-	課		是	<u>Į</u>	
今後	の	• 地:	庭にお	ける読 書館に	書活動	かの啓蒙			の具	·体的」	权組	0				
取組	み		ī	沙					善					負	É	
		る。	館情報 図書館	システ 環境 <i>の</i>	ム更新 改善に	所による こ向けた	る新たた た活動を	よ子ども と継続す	っの読 トる。	書推注	進サ		活動の打の提供で		ぎを継続	!

評価項	目	富良野	予学校約	合食セス	ンター				担	当	課	富良里	予学校約	合食セン	ンター	
事務事業	名	安全第	そ心な	学校給?	食の提	供										
事業(の更新 の発生	理の徹然など施った異物が	設設備の 混入等る	の整備を を防止し	を進めな レ、安全	がら.		事	業年	Ĕ 度	開	始	終継	了 続	
目的・概要	要											H25	H26	H27	H28	H29
										業費(海 位:千		266,326	251,202	245,923	240,914	264,900
前年度(課	の題	過して 突発	いる。 的な故 機器の1	障は給1	食提供中	中止を招	くため	が見られ 、今後 :害によ	も計	画的力	よ設備	帯機器⊄	改修、	更新を	進める。	
当該年度は目	の	〇安定 〇大型	機械(食の供約 冷暖房材	洽。 幾) の見	更新。										
事業(実施状)	D	準〇〇〇〇タ〇〇〇〇〇〇〇〇〇日子調沿一H不施・・・備・・し学校理線研を測設吸蒸厨品給洗	て校給員調究と事設収気房、給食を理員用態備式ボ内米食献対員)しに及冷イ見	飯衛立象及 た関び温ラ切 用機選生委にび 給す調水一壁 コーライン おりまれ アンコール アン	回理会全品 献非幾(水ネ テ台、のに衛納 立常器冷ポル ナイン、 表にの原する 表にの原った 4	・単な管義 及こり房プト・ 動を立内書名 び関整機)取繕の支持の 使る 更替	週1回た改施 日回た改施 日間 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本		を食議別修 3ト 30,35	:供 ンター (8回開 2学期 :実施	- の道 界催) 開始 (7/2' 0円 円	重営 寺、講師 7、講師 496, 167,	示:栄養教	女諭・管	理栄養	士)
	T		H25	H26	H27	H28	H29		達	成		• 劾	果具	ま の	検 証	
評	価	達成度	В	A	A	A		○厨房 確に把	調理 握し	型機器、 、優多	給力	食供給月 立を決め	り、計画		新及び	改修を
		効果度	A	A	A	A	А									
				•		後			0	State -		課		是	頁	
		突発 ある。 ○不測	的な故	障は給1 関する則	食提供中 有材費を	中止を招 と用いた	くため .学校ア	等も耐 、 今 を ンケー く。	も計	画的力	よ設備	構機器€	改修、			
				攵					婱					角		
								:型機器 士切り皿			と把握	量し、 計	画的な	更新を	進める。	

評価項目	富良里	予学校約	合食セ	ンター				担	当	課	富良里	予学校約	合食セン	ンター	
事務事業名	「富良	見野ふる	るさと	給食」	の実施										
事業の	え、食味や意工・流	囲を字.	身近に7 習し、1 ぶ機会。	なること 食の大り とする。	: で「地 切さや食	2産地消 対の生		事	業 年	度	開 平成1	始 6年度	終継	了 続	
目的・概要	710	場及び 校農園!) 割便用	1					H24	H25	H26	H27	H28
	7	産地消		H / 13					養 (決 位∶千			_	_	_	_
前年度の課題	〇使用 〇生産	食材の	確保とも	提供者()	開拓		の学校を			-	た日程	の設定	0		
当該年度の 目 標	○地産	大切され		する心を	と育む食	育の推	進。								
事業の実施状況	○提○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	道自食さ者後徴昨す給ふれ新治だと、、的年る食るて聞体よ給議ふな度「ださい	材 にのり食員る回まふよとなの よ生号特、さ答でるり給いる産外別教と 41さ特食の	: 「者」号育給 間と別.で5 ふ、に「関食 の食号ふは月 る企よふ保・ 材やるとでするといっている。	2 と と () () () () () () () () ()	(9月日 園紹2017年 ・ 17年 ・ 年 17年 17年 17年 17年 17年 17年	除食の、会実 形指いの、く」協地-開施 2で導うで残って導うで残るは念	取に地元 容 間更地前な材よ消富 に にし産・い	及りを良 つ して地趣かび地啓野 い 、実消旨。	事れて ~ で ランド・ ~ ここ	場載道はを校のこにりりりこにりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり<th>回) は材 ぞ っ ト 1 回かだっ しただった。</th><th>保 」発行 (24校中 或の旬の た・・・</th><th>¹18校回)食材を ・・839 80%</th><th> 答) ·使用 %</th>	回) は材 ぞ っ ト 1 回かだっ しただった。	保 」発行 (24校中 或の旬の た・・・	¹ 18校回)食材を ・・839 80%	答) ·使用 %
		H25	H26	H27	H28	H29	}	達	成月	Ę	• 効	果度	ま の	検証	:
評 価	達成度	A	A	A	A	А	き、地 る。 〇これ	域農 まで	業への)理解 る	解と地産 さと給負	様々な を地消の	推進が 間を2日	図られ間とし	てい 、5月
	効果度	А	A	А	А	A	から2月 日」を にあっ	設定	il. J	· り {	多様な均	也域の食	材を取	り入れ	、季節
	0 400		}		後	I D 777 11	0	-			課		是	頁	
今後の	○生産						の開拓。元産食		用の更	[なる	方情報携	供方法	の検討。)	
取組み		-	攵				章						負		
NEL VI	〇協力 し、地 〇現在	域農業 市ホー	への理角	解と地産 ジ上で南	を地消の 状立表、	意義を 使用食	生徒と(学ぶ機) 材、給:公開し	会と 食だ	してのよりを	充身	ミを図る) ₀			

評価項	目	富良里	予学校約	合食セ	ンター			担		課	富良里	予学校約	合食セ	ンター	
事務事業	名	食に関	する 打	旨導の!	推進										
事 業 目的・概		食をたる育・人成・栄	事の衆 への感詞	や望まりの健康ではある。	しい 管理 (表 を き (表 を を を を を を を を を を を を を	習慣を身 できるよ を物の生 と持つな	、に付け うにす 産等に	、食事 る。ま かかわ な心を	業費(決	算)	開 H24	始 H25		了 続 H27	H28
		○食育	の重要	生につい	ハて周年	nナスレ	レもに	、栄養教証	命及び答	理学	と養土の) 重用性	を活か] 各	芝校の
前年度課	の題	要望 〇各学	に沿った校の学	た食の打 級担任 ³	指導を追 や養護者	生める必 対論等と	要があ 連携を	ろ.	事の楽し	さ、					
当該年度目	の標	かりに	付ける				食習慣	を身に付け	けると共	に、	感謝す	る気持	ちなど	豊かな	気持ち
事業実施状	の況	・ ・ 社年年献保	西中/ 見学に 指導計	事品をおいては、	良良交小幸食及づ連講野野の、小のびく携話小西内布、指給給に実	をP444中享き食に塩校学校小富(だ指る(校で、中鳥よ導献布 ~ 指布、沼り要立礼	~導部占小発領の家 、中中 成直	富小、旭日	建体育の 山部小	時間	見を中心			、樹海・	‡ 、
			H25	H26	H27	H28	H29	達	成月	Ę	· 効	果児	ま の	検証	:
評	価	達成度	В	В	A	А	А	○未配置札 応え、児童 ○学級担任 的な指導体	童生徒や 壬、養護	·保記 複数記	養者へ指 輸、給食	員導を行 €担当勢	うった。		
		効果度	A	A	A	А	А								
		○ <u>◆</u> 本	の重画	•	、 ア 田 4	後	1, 2 1-	の半半さ	◆ 17. マドか	TH A	課	事用品	ナバエス		当状の
		要○伝行○が○○○会を記録を表記される。学るとは、学るとは、学るとは、学るとは、学者のは、学者のは、学者のは、学者のは、学者のは、学者のは、学者のは、学者の	沿残などの と を を を を で の が と で の が と 、 と 、 と 、 と 、 り し 、 り し し 、 り し し し し し し し し し し し	食少 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	算す立な 進こ導す護 論、 給 に に に に に に に に に に に に に	ちなはすり、公重るり、公重るり、担当る	がでとみ食して、食物を食べる。	るが、和洋要。そのた	羊中の調 とめ、リ	理ク後関す	各種食みトメータをおいる指導	材の ニュー て 食 車 を 推 進	用、地 を取り 指導を する。	域の食う 入れる? 推進す?	文化を などを る必要

評価項目	富良野学校給食セ	ンター	担 当	課 富良野	予学校給食セ	ンター	
事務事業名	学校給食費の徴収						
事業の	給食センター、学校、 り、現金徴収及び口服	保護者の連携・協力 至引き落とし等を利用 給食費の未納防止に 営を図る。	し、学	年度	始終	了 続	
目的・概要			事業費(単位:		H25 H26	H27	H28
前年度の課題	成市町村の教育委員会	しているが、同一世帯 会、保護者と連携を図					び構
当該年度の 目 標	○給食費収納率の向」	上及び滞納額の圧縮。					
事業の実施状況	内即	分 調定額(円) 総食費 138,714,500 富良野 106,326,160 富良野 27,369,350 占冠 5,018,990 給食費 405,185 計 139,119,685	収入済額(円) 138,664,340 106,276,000 27,369,350 5,018,990 0 138,664,340	未収入額(円) 50,160 50,160 0 405,185 455,345	収納率(%) 99.96 99.95 100.00 100.00 -		
評 価	達成度 A A 効果度 A A	H27 H28 H29 A A A A A A	達成 ○学校・家庭と ○滞納分は電話 かった。	連携を図り、		維持でき	
今後の取組み	滞納解消に向けた対 ○給食費の徴収につい を決め、教職員の働きを検討する。 ○滞納家庭においてい らの引き落としなど	いて、文科省が「自治 き方改革一環として取 は、学校及び構成教育 を検討する。 では、富良野市が債権	体が自らの業務 り上げられてい 巻 委員会との連携	として責任をる。今後の国	、督促等によります。	ましい」 の基づき 兼 児童手	方針対応対応

評 価 項	目	富良野	予学校約	合食セ	ンター				担	当	課	富良野	予学校約	合食セ	ンター	
事務事業	名	食物ア	レルミ	ギーのタ	対応											
		徒と同	レルギー様に学権保する	校給食る						業名	F 度	開 平成2	始 23年度	終継	了 続	
事 業 目的・概												H24	H25	H26	H27	H28
ы по	女									業費(. 位 :=			_	_	—	_
前年度課	の題		アレル、保護									通認識と	情報の	共有。		
当該年度目	で標	○食物	委員会 アレル: 安心な:	ギーへの	の正しい	・理解と							万針を策	定する	0	
事 業実 施 状	の況	学断○○料○○料・	び該当 因食材 が困 が ア て 表 発 エ ル ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス	する保証を を場るで を場るで を またして を またして を またして を またして を またして を またして を またして を またして を またした。 と またした。 たったした。 たった。 たった。 たった。 たった。 たった。 たった	童生徒 ℓ する、代表 は乳誤配料 を飲料表	の家庭へ 幸食を 幸食を を を は を は を は の た は の た は の た は の た の に に に に に に に に に に に に に	事前に て家産 り児 め、3 3 3 3 3 3 3	配布。 から弁 徒及名、 (小学生	それ 当 数 学 16名	を参える。	に保記 H29年 当者 学生1	雙者や担 度より 5名を 4名、 ま	ら食材を 対 対 の の 希 に が 数 職員 3 る 数 職員 3 3 る の も る ら る ら る ら る ら る る る ら る る る る る る る る る る る る る	示若し 望者に対 面に貼	くは各 l t し、代	自の判:替飲
			H25	H26	H27	H28	H29						果原			
評	価	達成度	_	_	В	В	В	品を把 ○代替 ながっ	!握す :飲料 :た。	ーるこ 外に名	とが [*] 前を!	できた。 貼付する)、各自 ることに きること	より、	誤配防	止につ
		効果度	—	—	В	В	А	の配布	i 及 C	が代替 口えて	飲料、命	を配布す	すること る事項で	が最大	限でき	ること
		○ A #		}	+ w	後			カ			課		是	夏	
A 54	•	○学校 ※年々		者、給1 ギー体質	食センタ	マーでの	食物ア	レルギ	-13				: 情報の すを拒食		児童生征	走が増
今 後 取 組	のみ		7	女				3	善善					台	É	
112		○食物	アレルミ	ギーを				な把握		命名を	ごする	(現在	募集中、			決定



IV 平成29年度 学校第三者評価

学校自己評価及び学校関係者評価並びに学校訪問等に基づき、各委員から出された項目に対する意見をまとめたものです。

なお、自己評価値は、評価基準を「4:実践が進み効果を上げている 3:実践が進んでいる 2:実践につとめている 1:努力を要する」の4段階とし、各学校において評価した自己評価値の全学校の平均値を記載している。

	観点	自己評価(平均) ()内は前年度
《評価領垣	は:組織運営の状況》	
<項目:	学校の組織運営の状況>	
1	職員会議等が学校運営において有効に機能しているか	4. 0 (3. 9)
各学校の 取組状況	・方針や教育課題への対応などについて共通理解を深めるなど、有効。。 ・各担当ごとに一覧表を活用して議題を確認し、各分掌内で事前に検ている。会議前日までに提案文書が配布され、事前に目を通すことがも校長の経営方針や重点目標等を具現化する場や職員相互の事務連絡有効に機能している。また、職員会議の資料は事前に校長に提出している。・議案は、職員会議の約5日前に提出している。事前の確認・配布にムーズに運営している。・会議資料に次回の議題一覧を提示することにより、各分掌等での十を確保し、過年度の資省を踏まえた具体的な改善策が提案されるとで、過間以上前から行い、各分掌・学年・委員会で充分と議題の確認を2週間以上前から行い、各分掌・学年・委員会で充分と議題の確認を2週間以上前から行い、各分掌・学年・委員会で充分提案されている。組織として提案することで、教職員の参画意識ももで校長による学校経営方針等の意思伝達等の機能を有効に果たしてい	きさ。しらを まい は かって会 ス 間 で まるとい
評価委員の意見	・忙しい中、事前の資料作成等に時間をかけ、真摯に取り組まれてし も継続をお願いします。	\る様子で、今後
2	勤務時間管理や職専免研修の承認状況等、服務管理が適切に行われ ているか	4. 0 (4. 0)
各学校の 取組状況	・課業日や長期休業中の勤務時間管理等の服務管理を適切に行っている。職員動静について、常に教頭を窓口として連絡相談する体制が整っ等、関係書類・通知・資料等を期間を決めて確認・周知徹底を図って・教職員の交通違反・事故発生状況や懲戒処分の文書を回覧し、注意・教職員の共通理解の基に適切に行い、記録管理システムで正確に管・事務主任を窓口に、休暇処理簿・旅行命令簿等の適正・迅速な処理た、チーム意識の醸成に努め、相互に服務規律を厳守する意識の確立・日頃から教職員の不祥事等の事例や資料などを通して服務規律につ知し、指導と管理を適切に行っている。・校長による学校経営方針等の意思伝達等の機能を有効に果たしていも勤務時間縮減に計画的に取り組み、服務管理にも十分に注意を払っ	っている。出勤簿でいる。出勤簿でいる。 は、今日では、一世を図った。 日本を図った。 日本を図った。 日本を図った。 日本を図った。 日本を図った。 日本で図った。
評価委員 の意見	・意見なし	

<項目:	学校と設置者の連携の状況>	
1	設置者の示す明確な教育方針等に基づいて教育目標を設定し、教育 活動その他の学校運営を行っているか	4. 0 (4. 0)
各学校の 取組状況	・市の教育方針に基づき学校運営に努めている。 ・富良野市教育行政方針及び富良野市教育推進の重点を踏まえ、教育 重点目標を設定してマニュフェスト版「扇小山小をよりよくするため 地域に配布するとともに学校HPに掲載して更なる周知を図っている。 ・富良野市 Z E R O運動に基づいて経営の重点を設定し、全職員の共 制を基盤として学校運営を推進している。 ・市の教育行政執行方や針第2次学校教育中期計画に則り、学校や地 を踏まえて重点目標を定め、具現化を図った。 ・学校評価に富良野市学校教育の推進計画の重点項目を位置づけて年 し、取組を推進した。	のに」を保護者・ ○ 通理解・協働体 ② 域の歴史・特性
評価委員 の意見	・意見なし	
2	学校と設置者が、児童生徒の状況や安全管理等に関する情報を適切 に共有しているか	4. 0 (4. 0)
各学校の 取組状況	・生徒指導部を中心に校内の連携を図るとともに、子どもネットワー組織とも連携して迅速な安全確保ができるよう努めている。 ・どんな小さなことでも教育委員会に報告するなど、教育委員会や他しながら安全管理に適切に対応している。 ・市教育委員会や他校(特に近隣校)との連携を密にし、速やかな情いる。併せて、関係施設(児童養護施)との日常的な情報交流を行って生徒指導事案や健康安全等について、管理職等と市教委がサイボウ密接な情報交流と共有を行っている。 ・連携を密にして、情報の共有化と組織的な対応に取り組んでいる。	1校と情報を共有 f報共有を図って ている。
評価委員 の意見	・意見なし	
<項目:		
1	学校の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が具体的に設定されているか	4. 0 (4. 0)
	・教育目標の具現化に向けて、短期・中期目標を具体的に設定し、実 を成長させていける子どもの育成を図っている。 ・昨年度の学校評価を踏まえ、中・短期的目標に近い前期後期の期間 と心の達成目標を設定して、ロードマップを活用して見通しのある目 た。	引で学力及び体力
各学校の 取組状況	・年2回の自己評価、児童アンケートや保護者アンケートなどの結果定し、中・短期の目標を具体的に設定している。 ・全国学力・学習状況調査調査やチャレンジテスト等の結果分析からを作成し、具体策を示して教育活動を推進している。 ・7つの基本方針と具現化に向けた8つのステージ(段階的到達目標) ての教職員が到達度を把握・共有し、適時・適切な指導を実践するこ	。学校改善プラン)を策定し,す~
	図った。 ・年度の重点に基づき、学期毎の目標を設定し、改善に努めている。 ・自己評価及び学校関係者評価を年2回実施し、それに基づいて中・ 定している。	短期の目標を設
評価委員 の意見	・意見なし	

	2 自己評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか	3. 9 (3. 9)
各学校の 取組状況	年2回の自己評価結果を踏まえ、すぐに改善できることは迅速に改善題となる事項については次年度の改善策として教育計画及びマニュフ改善に努めた。 ・自己評価の結果を受け、各分掌で課題、成果や改善点を明確にし、て全職員で検討して具体的な改善策を出している。そのため、全職員通行動の上で学校改善に努めている。 ・教職員の自己評価の結果を保護者評価・児童アンケートとも合わせし、改善点と改善策について明らかにし、計画立案に活用している。・自己評価結果を学校評価委員会及び学校関係者評価委員会で検討し策を出している。	アエストに示して 評価会議におい はで共通理解・共 とて全職員で検討
評価委員 の意見	・意見なし	
	外部アンケート等を実施し、自己評価を行う上での参考としている か	4. 0 (4. 0)
各学校の 取組状況	・保護者評価や学校関係者からの結果を職員で共有し、具体的な指導る。 ・年2回実施の保護者アンケート及び学校関係者評価での意見等を、おける評価項目等に活用して自己評価を行った。 ・児童・保護者アンケートのほかに、運動会などの行事後にもアンケいる。その結果や考察を保護者やコミュニティ・スクール協議会委員評価を行う上での参考としている。 ・保護者評価やCS委員による評価の結果を職員で共有し、自己評価のる。 ・保護者・生徒・教職員で共通項目等でアンケートを実施し、自己評高めている。	自己評価実施に 一トを実施して 良と共有し、自己
評価委員 の意見	・意見なし	
<項目:	学校関係者評価の状況>	
	学校関係者評価が自己評価の結果を踏まえて実施されているか	4. 0 (3. 9)
各学校の 取組状況	・自己評価結果を資料として活用し、評価委員に説明をして、項目ごてもらうとともに、評価書に一人一人の意見等を記入していただき、考とした。 ・学校評価の結果をまとめ分析したものをコミュニティ・スクール協意見をいただいている。 ・CS協議会の中で自己評価の結果を公開し、CS協議会委員の皆さ適切さについて評価・意見をいただいている。 ・CS協議会のなかで近隣の小学校とともに学校関係者評価を実施しづき幅広い意見を聞いている。	改善策作成の参 弱議会で報告し, ぶんから改善策の
評価委員 の意見	・意見なし	

2	学校関係者評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されている か	3. 9 (3. 9)
各学校の 取組状況	・自己評価結果及び評価委員からの意見をもとにして、教育計画及び反映させるよう努めた。 ・コミュニティ・スクール協議会の中での意見を十分に反映して、学を決定している。 ・自己評価の適切さ・改善に向けた具体的な方策についてCS協議会意見をいただき、いただいた意見を基にして学校運営の改善に反映さ・評価結果を真摯に受け止め、教育活動を見直しや改善につながり、かえりや改善に生かすことができた。 ・学校行事や参観日の際に来校していただき、いただいた意見や関係の意見等をまとめ、教育計画の改善に役立てている。	校運営の改善策 委員より評価・ せている。 学校運営のふり
評価委員 の意見	・意見なし	
 <項目:	数育課程等の状況>	
1	学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方 について教職員間で共有されているか	3. 9 (3. 8)
予学校の な組状況	・教育課程における課題及び改善点を年度ごとに見直しを全職員が係い、教職員の共通理解を深めて、学校・地域の特性を活かした教育課施に努めている。・本校の教育目標達成に向け、教育課程を編成・実施している。また検することにより、職員間で共通理解を深めている。・重点目標に沿って成果・課題・具体的な改善策を共有し教育課程のた。今後は成果や課題をより深く捉えるため、教職員の資質向上を図・本校の教育目標をふまえ、今年度は「創造」というキーワードのも編成・実施され、職員会議等で熟議され、教職員間に共通理解が深め・地域の教育資源を有効に活用した教育課程を編成・実施し、全教職もとに進めている。また、保護者・地域への周知を行っている。	程の編成及び集 、常に確認・点 改善を推進し る。 と,教育課程が られている。
平価委員 の意見	・意見なし	
2	各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動の年間指導計画や週 案などが適切に作成されているか、また指導体制が整備され、授業 時数の配当が適切に行われているか	4. 0 (4. 0)
各学校の 取組状況	・学習指導体制を充実させ、基礎・基本となる学習内容の習得を図りに示された指導時数の確保を適切に行っている。 ・教務主任を中心に年間指導計画及び週案管理が共通理解をもって適れている。特に算数では、TTにおける習熟度指導が教育的効果を上げ・教育課程に沿った指導計画のもと、教育効果を向上させる指導内容態・指導体制を工夫し取り組み成果を上げている。また授業時数も年学期毎のまとめの時数を確保するとともに、毎月実施状況を確認し、る。 ・授業時数の確保のため、計画において授業時数に余裕をもたせるよ童の実態と指導体制に応じ、少人数指導の充実に取り組んだ。・学習支援員の活用や各学級への全職員による複数指導により、基礎容の確実な定着、意欲の向上を図る指導体制が整備されている。	切に管理実施さている。 や方法・指導形度当初の計画で 調整を図ってい う工夫した。児
平価委員 の意見	· 意見なし	

<項目:	- 授業の状況>	
1	体験的な学習や問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かし た自主的・自発的な学習が適切に行われているか	3. 9 (3. 9)
A 25 to 0	・学年の発達段階に応じて適切な学年の教育課程(生活科・総合的な体験的な学習及び問題解決的な学習を位置づけて実施している。 ・富良野演劇工場と連携した演劇活動や子ども未来づくりフォーラム地域の教育資源を活用した教育活動に取り組み成果を上げている。 ・小規模校の特性を生かし、個に応じた問題解決的な学習を進めた。 校の特色を生かし、児童生徒が自然な姿で学び合う教育活動を推進す	への参加など, また、小中併置
各学校の 取組状況	た。 ・総合的な学習の時間に地域の自然や産業の調査・発表を取り入れる や環境を生かした教育活動を実施した。 ・児童の興味・関心を高めるため、見通しがもてるパターン化された や、一単位時間の中で身につける力を明確にした授業展開をめざし、 間に、見通し、課題、まとめ、振り返りを設定した実践を行い、授業 研修体制を確立できた。	学習過程の工夫 日常の一単位時
評価委員 の意見	・意見なし	
2	視聴覚教材や教育機器、コンピューターや情報通信ネットワーク、 電子黒板などを効果的に活用した授業が行われているか	4. 0 (3. 9)
各学校の 取組状況	・どの学年も、効果的な実物投影機及びタブレット、視聴覚教材・ハ心かけている。特にノート指導・作業及び資料提示に効果を上げている学級に配備された電子黒板、書画カメラ、タブレットなど、積極る。また、ICT活用に関する研修会への参加を奨励し、還流を通しアップを図り、日常実践に直結させている。・それぞれの機器の有用性を生かし、理科や数学、英語や総合的な学動を中心に活用した。児童生徒が視覚的に捉えることができ、理解のている。iPadのアプリを購入し効果的な活用を実践している。・技術科を中心にコンピューター、情報通信ネットワークを効果的に行っている。また、各教科や道徳においてもデジタル画像を有効に活われている。	Nる。 E的に活用してい で全体のスキル で習の時間等の活 が深まりに繋がっ 活用した授業を
評価委員 の意見	・意見なし	
/佰日・/	 特別支援教育の状況>	
1	特別な支援を必要とする児童生徒について、個別の指導計画や個別 の教育支援計画が適切に作成されているか	3. 9 (3. 8)
各学校の 取組状況	・コーディネーターを中心に計画的な支援計画が適切に作成されて、支援委員会を定期的に開催し、特別な支援が必要な児童だけでなく、童への共通理解が図られている。 ・「すくらむ ふらの」を活用してスムーズな引継ぎができるよう変・所属学級の別なく、支援を要するすべての児童を対象とした個別支し、学校全体で個に応じた支援を実施した。 ・授業の中での困り感や人間関係など生徒の状況把握に努め、望ましを全教職員で共有しながら計画通りに進んでいる。	困り感のある児 らめている。 接計画を策定
評価委員 の意見	・特別支援教育が大変充実しているように感じます。家族も安心して学校へき、喜ばしいことと思います。	>送り出すことがで

△ 垻日:	児童生徒の人格的発達の状況> 「把系の人物な夢系」。 曹かかし即即係も構築でよる場合性なる。	
1	相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる児童生徒を育成 するための指導を行っているか	3. 8 (3. 8)
取組状況	・体験活動を通して、思いやりの心や倫理観・規範意識を育てるとと別活動の時間を中心として、人権教育の充実に努めた。 ・児童が中心となり、縦割り班を活用した清掃、遊びなど、学年をこることで、いじめ防止に向けて取り組んでいる。今後は道徳性を高めせるためにいじめに関する問題を自分自身のこととして考え、「あなか」を真正面から問う「考え、議論する道徳への転換」に努める。・ボランティア活動、読書活動、日常の教育活動、道徳の授業の充実日で全学級とも道徳授業を公開し、懇談では保護者とともに考える時・ZERO運動を基盤として、思いやりをはぐくむ道徳教育を推進してい・Q-Uを活用し、人間関係力の育成を図っている。また、豊かな人間指導等も行っている。	えた交流を進める指導を充実さる たならどうする に努めた。参観 間も設定した。 る。
評価委員 の意見	・意見なし	
<項目:	保健管理の状況>	
1	日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断が適切に実施されているか	3. 8 (3. 8)
取組状況	・担任と養護教諭が連携して健康観察を行うとともに、保護者・担任携して児童の自己健康管理能力向上に向けて、健康便りの発行等を通深めた。 ・毎朝の健康観察により、児童の健康状況を的確に把握するとともにチェックシートの活用など学級活動・保健の指導を工夫し児童生徒の力の向上を図っている。 ・日常の健康観察により児童の健康状況を把握し、情報を共有してい理能力向上のために長期休業中の頑張りカードや掲示物の工夫等取り康診断は計画的に実施している。	じて共通理解を 、生活リズム 自己健康管理能 る。自己健康管
評価委員 意見	・意見なし	
<項目: 1	安全管理>	3. 8 (3. 8)
取組状況	・危機管理マニュアルの改善を図り、緊急時の対応や体制を整えたり 確保のために「見守り隊」を組織したりし、危機管理意識の向上に努 ・危機管理マニュアルは毎年更新し、年度初めに全職員に配付されて きるようにしている。危機管理マニュアルの内容については、足りな で早急に改善する。 ・従来のマニュアルをもとに教職員の共通理解を深めている。また消 した訓練を実施しマニュアルの改善を図るとともに、食物アレルギー の整備を行った。 ・緊急事態発生時に適切に対応できるよう危機管理マニュアルを用い 行った。危機管理マニュアルも毎年検討や改善を行い、児童や教職員 を高める取組を継続している。	めた。 いつもで使用で い部分もあるの 防・警察と連携 など新たな内容 た職員研修を
評価委員 の意見	・意見なし	

<児目:	教職員の研修の状況>	
	授業研究を全教員が行うことや、授業研究を継続的に実施すること などを通じ、授業改善に全校的に取り組んでいるか	3. 9 (3. 9)
	・「話し合い」「振り返り」に重点を置いた校内研修を進め、授業改上に向上に努めている。 ・道徳を窓口に校内研究を進めた。道徳に対する認識が深まるととも を公開して切磋琢磨する体制が整った。また、計画的に実技研修等を	こに,全員が授業
各学校の 取組状況	向上に努めた。 ・校内研修の研究主題にもとづき、全教職員がテーマを決めて、定期 実施することができた。また、公開研究会や研修講座等への積極的な た。また参加後の、還流のためのミニ研修を実施した。 ・研修部が中心となり、授業研究中心の研究が続けられている。今年 公開を行い、授業技術の向上に努めた。	お参加を促してき
評価委員 の意見	・授業公開の研修を行っているとのことですが、今後も継続して、教職員のます。	資質向上を期待し
《評価領地	ず:組織運営の状況》	
<項目:	生徒指導>	
	1 生徒指導のための教育相談が計画的に行われているか	3. 9 (3. 9)
各学校の 取組状況	・全児童対象の教育相談及びアンケートを年3回実施するとともに、毎月月例会を開催して児童理解の共有化を図った。子どもの心に寄り添った生徒指導が組織的に行われ、効果が上がった。 ・いじめアンケートを有効に活用し、全教職員がいじめを「見過ごさない、放置しない、抱え込まない」を基本方針に、生徒指導部のリーダーシップの下、児童の悩みや問題行動を早期に発見するために教育相談を計画的に行っている。 ・定期的な教育相談とあわせ、児童生徒からの要望があったときや普段の児童生徒の観察の中で教師側から声を掛け教育相談を実施し、メンタル面でのサポート強化に努めた。 ・毎月の生活目標反省(含むいじめアンケート)や教育相談、QU検査などを計画的に実施したり、家庭訪問を行ったりして児童理解を深めている。	
評価委員 の意見	・意見なし	
:	2 スクールカウンセラーなどの外部人材が活用されているか	3. 8 (3. 7)
各学校の 取組状況	・毎週月曜日にスクールカウンセラーが配置され、子どもたち、教職員や保護者の相談を行っている。 ・スクールカウンセラーやSSWに来校いただく体制はできている。また、関係機関との連携がとれている。 ・不登校の生徒に対し、心理士や子ども未来課等と連携を密にし、学習指導や体験的活動を実践した。 ・スクールカウンセラーの活用はなかったが、地域の児童養護施設や市教育委員会との連携を図り、児童の心身のケアに配慮した。 ・スクールカウンセラーについては、生徒・保護者・担任の三者がそれぞれの立場で効果的に活用している。また、子ども未来課等との連携もにしている。	
評価委員 の意見	・意見なし	

<項目:進路指導(キャリア教育)の状況>		
1	児童生徒の将来の夢や希望を育み、学ぶことや働くことの意義など 適切な勤労観や職業観を育てるための指導を行っているか	3. 7 (3. 4)
取組状況	・家庭や地域、関係機関と連携し、学ぶことや働くことの意義を知り分らしい生き方を考えさせ、マイノートの活用に努めた。 ・子どもが将来「生きがいと働きがい」を感じ、「郷土を愛する」気ためにに全体計画とキャリアノートの見直しを図り、自己肯定感及できる指導の更なる充実を図っている。 ・マイノートを年間指導計画に組み入れ指導してきた。併せて低学年を重視し、働くことの意義について理解を深めさせてきた。・学年の発達段階に応じて、協業体験等、進路や生き方に繋がるキャしている。また、ふるさとキャリア教育推進事業のもと、小中高の退を展開している。	は持ちを醸成するが自己有用感を実からの勤労体験・リア教育を実施
評価委員 の意見	・意見なし	

《評価領域:家庭と地域との連携協力の状況》

<項目:学校に対する児童生徒・保護者の意見・要望等の状況>		
1	児童生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握し、適切に対応し ているか	3. 9 (3. 7)
取組状況	・各種行事の感想や保護者アンケート結果をもとに、要望として改善善し、課題を明確にして学校経営を進めている。 ・学校行事や参観日・PTA行事等を通して、児童生徒や保護者の意傾け、学校運営の改善に努めた。 ・教育相談や学級懇談、学校評価(保護者アンケート)などの機会を収集し、迅速な対応を図った。	f見や要望に耳を
評価委員 の意見	・意見なし	

<項目:学校に関する情報提供>		
1	学校だよりや学級だよりの発行など、主として保護者を対象とした 情報の伝達・公開が適切に行われているか	4. 0 (3. 9)
取組状況	・学校便り・PTA総会・PTA運営委員会・おやじの会役員会・同窓会役員会・子どもネットワーク会議等のあらゆる機会を活用して経営方針を伝え学校の情報公開に努めている。 ・保護者の知りたい情報に対応するために内容を吟味し、学校便りを定期的に発行している。また、Facebookを活用し学校の情報公開を行っている。・学級通信を保護者、学校だより等を地域に広く公表し、学校の教育方針、生徒の様子、担任の教育への情熱を適切に伝えた。・学校だより、学級だより、事務だよりの定期的な発行、まちこみメールによるタイムラインの有効活用など、適切に情報の伝達・公開が行われている。	
評価委員 の意見	・様々な配布物に加え、メールの活用が一般的になってきているので情報と思います。 ・学校だより等が地域に回覧されている点では子どもたちの様子が分かっます。また、地域の方々の見守りが大変良く行われていると思います。	

	1	
	2 ホームページの活用をはじめ、広く地域住民等に学校に関する情報 を提供するための取組みを行っているか	3. 5 (3. 6)
取組状況	・学校だよりやホームページ、フェイスブックを通して、保護者・地様子を積極的に伝えている。 ・ホームページやPTA広報誌を定期的に発行することで、広く地域提供している。 ・Facebookを開設し教育活動や学校の特徴、小規模校ならではの手厚ど、常に新しい学校の情報の提供に努めている。 ・学校だよりは地域全戸に配布、ホームページも適宜更新し、学校情できた。学校運営協議会でも、学校の教育活動への理解を求めるためことができた。 ・HPを開設しスクールカレンダーや行事予定等を公開している。まルも活用して、保護者に不審者情報等を積極的に配信し、注意喚起を	に学校の情報を い個別指導な 報の提供に努め の方策を伝える ちCOMIメー
評価委員 の意見	・意見なし	
<項目:保護者・地域社会との連携の状況>		

授業や教材の開発に地域の教育資源(人・物・自然など)を活用 し、より良いものとする取組を行っているか

3. 9 (3. 9)

・自然塾や森林学習プログラムなど、地域の教育資源を活用し充実を図っている。 ・学年の発達段階に応じて、メセナ事業・富良野演劇祭・富良野市自然塾・読み聞か せ等を教育課程に位置づけ教育資源の効果的な活用に努めた。

- ・富良野演劇工場と連携した演劇活動,富良野自然塾体験やJA農業体験など地域の教育資源を有効活用した教育活動に積極的に取り組み,成果を上げている。
- ・放課後子ども教室、総合的な学習の時間やさまざまな行事に地域人材や地域の自然 資源を積極的に活用している。

取組状況

- ・総合的な学習の時間で1年は富良野ウォーカー「職業調べ」2年は「職場体験学習」で地域で活動するなど、地域の多様な人材を活用し、教育活動の充実を図っている。
- ・富良野看護学校、山部太陽の里、市内各事業所等を積極的に地域の教育資源として 活用し、体験的な教育活動に取り組んでいる。

評価委員 の意見

意見なし

※評価基準 4:実践が進み成果を上げている 3:実践が進んでいる

2:実践につとめている 1:努力を要する



V 教育行政評価委員会の開催について

1、教育行政評価委員会

教育行政評価委員会は、委員 4名の委嘱により、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条の規定による事務事業等の点検・評価の実施及び教育行政評価委員会設置要綱に基づく富良野市学校第三者評価を行いました。

事務事業等の点検・評価では、教育委員会から提出した資料(教育委員会の活動状況及び事務事業点検・評価 52 事業)について事務局より説明し、それに対する教育行政評価委員側からの質疑を交え意見交換を行いました。

学校第三者評価では、学校自己評価及び学校関係者評価の結果並びに学校第三 者評価項目に対する学校自己評価結果について説明をするとともに、市立扇山小 学校及び市立富良野西中学校の学校訪問を行い、さらに校長会会長、副会長との 意見交換を行いました。

- 1) 第1回会議 5月24日(木)
 - ○教育委員会事務事業点検・評価シートの説明、質疑
 - ○教育委員会の活動状況の評価説明、質疑
 - ○学校関係者評価集約結果の説明、質疑
- 2) 第2回会議 7月 3日(火)
 - ○学校訪問~市立扇山小学校、市立富良野西中学校
- 3) 第3回会議 7月24日 (火)
 - ○学校訪問における感想、意見交換
 - ○校長会長、副会長との意見交換
 - ○事務事業点検評価項目の質疑に対する説明
 - ○広域連合教育委員会教育行政評価報告書について
- 4) 第4回会議 8月22日(水)
 - ○学校第三者評価のまとめ及び報告書の最終確認について

2、教育行政評価委員会における意見

1)教育委員会の活動状況について

教育をめぐる社会環境は大きく変貌しつつあり、それに伴う問題も複雑多岐に わたっています。教育委員が常に教育環境の状況把握に努めるために活発な議論 をし、富良野市の教育の基本理念を確認し共有することが益々大切となっていま す。

平成27年4月から教育委員会制度の改革が行われ、地方教育行政における首長の責任がより明確となり、首長のもとで地方公共団体が一体となって教育施策を進める体制となりました。本市においても、首長が主宰者となり、富良野市総合教育会議を開催しています。

教育委員の学校訪問については、より一層、学校課題に対しての指導・助言を 行うよう意見が出されました。

2)「教育委員会事務事業点検・評価」について

「第5次富良野市総合計画前期基本計画」並びに「平成29年度富良野市教育行政執行方針」、「平成29年度富良野市学校教育推進の重点」、「平成29年度富良野市社会教育推進計画」、「富良野市第2次特別支援教育マスタープラン」に基づいて平成29年度中に実施した主な事務事業52事業と教育委員会活動状況について事務局で整理し、第1回会議にて説明いたしました。各委員からの14項目に渡る質問・意見について担当課と意見交換をし、事業効果は毎年向上し期待どおりの効果が得られているとの意見が出されました。

3) 学校教育について

教育委員会に課せられた最大の職務は学校教育の充実にありますが、市内の小中学校では「富良野市第2次学校教育中期計画」に基づいて教育活動計画等を策定し、毎年の検証・評価を経ながら教育活動を改善しています。

また、長期休業日における学習サポート事業は全学校で実施し、児童生徒の学力向上に向けて教職員一丸となり取組んでおり、今後も学力向上に向けて、学力の基本となる「読み・書き・計算」をしっかりと身につけさせ、学習意欲を高めながら子どもの個性を生かす教育を充実するとともに、確かな学力・人間性豊かな教育を推進し、「生きる力」を育む教育課程の編成、実施、評価、改善のより一層の計画的な推進が必要であります。

また、各小学校においては、コミュニティ・スクールが導入され、それぞれの地域の特性を生かしながら、学校・保護者・地域住民が一体となって学校を支えるとともに、保護者や地域住民が学校を評価することにより教育の質を高めています。

4) 社会教育について

社会教育は、個人の要求に応えることではなく、市民の必要課題に基づく学習 内容に対応する企画立案や社会教育関係団体の育成等、生涯学習の観点に立った 推進が大切です。

社会教育に関する各種事業は社会教育中期計画並びに単年度社会教育推進計画に基づき実施されており、その内容、効果度には高いものがあります。しかし、「青年塾」、「市民講座」、「ことぶき大学」などは、達成度・効果度とも評価開始以降B評価が続いているので、点検評価の課題解決に向けた取り組みが必要であります。

5) 学校第三者評価について

学校第三者評価は、単に学校の格付けや教諭を評価するためのものではなく、 保護者や地域住民が学校と共に子どもたちを基本に考えることにより、より良い 「開かれた学校」をめざすものであります。

学校第三者評価は、学校自己評価、学校関係者評価、学校第三者評価項目の自己評価、学校訪問、校長会会長・副会長との意見交換を基に、評価項目に対する各学校の取組み状況に対し各委員の意見をまとめました。

今後も、評価項目のみならず学校運営全般に関し、自己評価、学校関係者評価、 学校第三者評価の結果を、より良い「開かれた学校」のための貴重な資料として 各学校において活用する必要があります。

6) 校長会会長・副会長との意見交換

富良野市第2次学校教育中期計画及び富良野市学校教育の重点方針における 基本理念や重点方針を受け、各校では学校経営と学校教育において、その実現 への方向性が示されていることは、大切なことであります。

また、学力と体力の向上、心の教育の充実に向けた取り組みが全校で推進され、学力向上やいじめ防止を含めた生徒指導の充実が図られています。

校長会として、本市の教育の充実・発展に向けてリーダーシップを発揮して います。

また、これからの教育を担うミドルリーダーを含めた後継者育成が必要であり、各種取組みをさらに進めてほしい。



市立布部小中学校マスコットキャラ 「ぬのべ犬」

富良野市教育行政評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号) 第26条に基づき、富良野市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が実施する行政評価の透明性を確保するとともに、学校教育法(昭和22年法律第 26号)第42条、第49条及び富良野市立学校管理規則(昭和56年教育委員会規則第2号)第6条の4の規定に基づき、富良野市立の小学校及び中学校の学校教育活動、学校運営の状況等の評価について、教育に関し学識を有する者の知見を活用するため、富良野市教育行政評価委員会(以下、「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

- 第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。
 - (1)教育委員会が実施した事務事業の点検及び評価について、教育委員会に 意見を述べること。
 - (2)学校関係者評価について、教育委員会に意見を述べること。

(構成)

第3条 委員会は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育長が委嘱する4名をもって構成する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日の属する年度末までとする。

(運 営)

- 第5条 委員会には、委員長及び副委員長を置く。
- 2 委員長は、委員の互選により定める。
- 3 委員会は、必要に応じて委員長が招集する。
- 4 委員会は、審議のために必要があるときは、関係者の出席を求め、意見を 聴取するほか、資料の提出を求めることができる。

(庶 務)

- 第6条 委員会の庶務は、事務事業評価に関する事務を所管する課が処理する。 附 則
 - 1 この要綱は、平成22年4月1日から施行する。
 - 2 最初の委員会は、第5条第3項の規定にかかわらず、教育長が招集する。
 附 則
 - 1 この要綱は、平成23年4月1日から施行する。 附 則
 - 1 この要綱は、公布の日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

教育行政評価委員名簿

委員長	天 日 守	社会教育委員長
副委員長	阿部敏幸	学識経験者(元学校長)
委員	木 戸 秀 子	富良野市スポーツ推進委員会会長
委員	中田昭子	社会教育団体役員

資料: 3

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

[昭和 31 年 6 月 30 日法律第 162 号]

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

- 第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識 経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

平成29年度 教育行政執行方針

平成29年第1回富良野市議会定例会の開会にあたり、教育行政に関する執行 方針を申し上げ、市議会議員各位並びに市民の皆さまのご理解とご協力をいた だき、地域に根ざした実効性のある教育施策を進めてまいりたいと存じます。

1. はじめに

今日、人口減少・少子高齢社会の到来やグローバル化が進展する中、我が国は社会情勢が急激に変化し続けており、人々の求める豊かさは物質的なものから精神的なものへと関心が移り、価値観の多様化が進んでいます。

こうした変化の激しい社会に対応できるよう、第 5 次富良野市総合計画後期 基本計画及び富良野市まち・ひと・しごと創生総合戦略を基本とした富良野市 教育に関する大綱にもとづき、幼児期からの知育・徳育・体育の調和のとれた 着実な育成をめざし、「すべては 子どもたちのために」を合言葉に、子どもた ちの無限の可能性を伸ばす教育の充実に努めるとともに、市民が心身ともに健 康で生きがいのある充実した人生を送ることができ、学んだ成果を適切に生か すことのできる環境づくりを推進してまいります。

また、次世代を担う子どもたちを安心して育てることができる環境づくりに向けて、子どもの発達段階や特性に応じた児童の発達・自立を促す教育の充実を図るとともに、健康づくり、子どもを持つ家庭に対する支援体制と機能を強化する必要があります。

そのため、富良野の子どもたちを総合的に育むことを目的に、保育、療育、 子育てなどの業務について、平成 29 年度から保健福祉部より教育委員会に移管 し、学校教育及び社会教育と併せて子育て支援施策を総合的に推進してまいり ます。

2. 学校教育について

学校教育につきましては、富良野市第2次学校教育中期計画にもとづき、自立と共生の未来を拓く、心豊かでたくましい人を育むことを基本理念とし、子どもたちが未来を拓き変化の激しい時代をたくましく生き抜く「生きる力」を地域全体で育むため、学びの大地に大きく育つ三本の木と、成長を支える『富良野市ZERO運動』を推進し、教育実践の輪を広げるとともに、平成30年度からの第3次学校教育中期計画の策定に取り組んでまいります。

1) 主体的な学びを育てる 知育の木

学力向上につきましては、全国学力・学習状況調査及び小学生を対象とした標準学力検査の実施によりその結果を分析し、学習指導方法の工夫改善や学習環境づくりに取り組んでまいります。

森林環境教育につきましては、東京大学北海道演習林の恵まれた森林資源を 活用した森林学習プログラムの実践などに取り組んでまいります。

外国語活動につきましては、英語力や外国語でのコミュニケーション能力の 向上に向けて外国語指導助手などを配置するとともに、次期学習指導要領を見 据えながら「英語が話せるふらのっ子」をめざした外国語活動の充実に取り組 んでまいります。 特別支援教育につきましては、一人ひとりのニーズに応えるために保育所・ 幼稚園・各学校間の円滑な引き継ぎに向けて関係機関との連携を図るとともに、 学校や保護者に対する相談、支援体制の充実に努めてまいります。

学校図書館につきましては、学習に必要な図書の整備を図るとともに、市立 図書館との連携や学校支援ボランティアの協力による読み聞かせ会の実施など、 児童生徒の読書活動を地域ぐるみで推進してまいります。

2) 自主自律の心を育てる 情意の木

いじめZEROの推進につきましては、「いじめを しない させない ゆるさない」を合言葉に、いじめの未然防止、早期発見・迅速な対応に努め、その根絶に向けて学校・家庭・地域との連携により取り組んでまいります。

心の教育につきましては、学校教育アドバイザー及び子どもと親の相談員、 スクールカウンセラーの配置により、関係機関との連携を図りながら心の問題 をケアできる体制を整備してまいります。

道徳教育につきましては、富良野にゆかりのある講師陣による心に響く道徳 教育を推進するとともに、生命を大切にする心や他人を思いやる心、規範意識 の醸成に努めてまいります。

キャリア教育につきましては、望ましい自己有用感と職業観・勤労観の育成 を図るとともに、郷土の理解を深め、郷土愛を育む「小中高一貫ふるさとキャ リア教育」の実践研究を支援してまいります。

情報教育につきましては、関係機関と連携を図り情報モラル教育に取り組んでまいります。

3) 恵まれた環境と食で育てる 健康の木

体力の向上につきましては、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を 踏まえ、学校における体育・健康に関する指導の改善と家庭における規則正し い生活習慣の定着に努めてまいります。

食育につきましては、栄養教諭と養護教諭が連携を図りながら子どもの発達 段階に応じた実践とともに、「早寝・早起き・朝ごはん・みんなそろって晩ごは ん」運動を展開してまいります。

健康教育につきましては、関係機関との連携により児童生徒の発達段階に応じた性教育、薬物乱用防止教育を推進するとともに、校内における健康相談体制の充実を図り、学校における食物アレルギー対応指針を策定してまいります。

また、児童生徒の歯の健康づくりに向けて、全小中学校でのフッ化物洗口を 継続して取り組んでまいります。

危機管理につきましては、地域との連携を図りながら学校内外での安全・安 心な生活環境づくりと学校間の情報共有に努めるとともに、学校における危機 管理マニュアルにもとづき、防犯訓練及び災害発生時の避難訓練などを実施し てまいります。

学校教育施設の整備につきましては、富良野小学校管理棟屋根防水改修工事、 富良野西中学校収納棚設置工事などを実施し、安全・安心な学校施設の整備及 び児童生徒の教育環境の向上を図るとともに、学校トイレの洋式化改修工事を 計画的に実施してまいります。

4) 原点を見つめ未来への輪を広げる 学びの大地

学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともに

ある学校づくり」を進めるコミュニティ・スクール制度導入に全小学校で取り 組んでまいります。

また、児童生徒のコミュニケーション能力の向上に向けて、演劇手法を取り 入れたワークショップを小中学校で実施してまいります。

さらに、小学校就学支援に向けた第3子以降多子世帯就学助成事業、就学援助制度及び育英基金貸付事業の推進により教育の機会均等を図ってまいります。

3. 社会教育について

社会教育につきましては、富良野市第7次社会教育中期計画にもとづき、健 やかな心身を育み、やさしさと生きがいが実感できる社会教育の推進を基本目 標として、市民が生涯各期にわたり自主的な学習活動に取り組むことができ、 その成果を適切に生かすことのできる生涯学習社会をめざしてまいります。

1) 家庭教育

家庭教育につきましては、子どもたちの健やかな育ちの基盤である家庭の教育力を高めるために、学校や関係機関と連携を図りながら、家庭教育講演会・セミナーの開催や子どもの発達段階に合わせた家庭教育ハンドブックの作成、配布をしてまいります。

また、インターネットやスマートフォンなどによるトラブル防止に向けて情報提供を行うとともに、家庭でのルールづくりや危機管理の徹底について啓発活動を継続してまいります。

2) 青少年教育

少年教育につきましては、子どもたちの安全・安心な居場所づくりとして放 課後子ども教室及び学童保育センターを開設し、放課後児童健全育成事業の推 進に取り組んでまいります。

また、学校支援ボランティアの活用や学社融合推進事業、子ども未来づくり 事業及びふらのまちづくり未来ラボ推進事業を実施するとともに、関係機関と の連携・協力による青少年健全育成に取り組んでまいります。

青年教育につきましては、青年塾の開設により、青年同士の出会いと交流の場の提供及び学習機会の充実と社会参加や地域活動への参画を通した自主的な実践活動を支援してまいります。

3)成人、高齢者教育

成人教育につきましては、多様なニーズやグローバル社会に対応した学習機 会の充実を図ってまいります。

高齢者教育につきましては、高齢者のニーズに対応したことぶき大学の開設 を通し、高齢者の知識・経験を生かした地域活動やボランティア活動などの社 会参加活動を推進してまいります。

4) 文化財保護

文化財は郷土の歴史、文化、自然、風土を理解するうえで不可欠な文化遺産であり、市民共有の財産として保護するとともに、教育的な活用を推進し、文化財保護意識の啓発・普及に努めてまいります。

また、伝承活動を担う郷土芸能保存団体の活動を支援してまいります。

5) 読書推進

読書活動の推進につきましては、市民参加による親しまれる図書館づくりを めざして、市民の多様なニーズに適応した図書館運営と図書館資料の充実とと もに、図書館利用サークルやボランティアと連携した企画展・作品展・講演会 など多彩な事業の実施による交流の場の創出を図ってまいります。

また、図書館情報システムの更新による、新たな読書推進サービスの提供を図るとともに、開館日数増及び開館時間延長の試行など、利便性の向上に向けて検討してまいります。

子どもの読書推進につきましては、すべての子どもたちがいつでも読書活動ができるよう、乳幼児期からの読書活動の動機づけに効果があるブックスタート並びにブックスタートプラス事業を継続実施するとともに、学校における読書活動の支援や子どもの読書推進ボランティアとの連携による読書環境の整備を図ってまいります。

以上、平成29年度の教育行政執行方針について申し上げましたが、執行にあたりましては、事務の管理及び執行状況の点検・評価にもとづき、より一層開かれた教育行政をめざしながら効果的に推進してまいりますので、議員各位並びに市民の皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

平成29年度 学校教育重点事項

~すべては子どもたちのために~

平成29年4月1日 富良野市教育委員会

<基本理念>

「自立と共生の未来を拓く 心豊かでたくましい人を育む」

(富良野市第2次学校教育中期計画)

<重点方針>

教育の原点である知育・徳育・体育の着実な育成を基本に据え、「すべては子どもたちのために」を合言葉に、子ども達の無限の可能性を伸ばす教育の充実に努める。

また、子どもたちが未来を拓き変化の激しい時代をたくましく生き抜く「生きる力」を地域全体で育むために、学びの大地に大きく育つ三本の木としての『富良野市ZERO運動』を推進し、教育実践の輪を広げる。

<重点課題>

- 1 「富良野市いじめZERO推進条例」に基づくいじめの未然防止と早期発 見・迅速な対応を図る。
- 2 全小学校でコミュニティ・スクール制度(学校運営協議会制度)を導入する。
- 3 確かな学力・体力向上をめざし、授業改善及び授業公開と家庭学習を含めた規則正しい生活習慣の定着を図る。
- 3 次期学習指導要領を見据えた外国語活動の充実を図る。
- 4 森林学習プログラムを実践する。
- 5 「子どもたちのための食育ガイドライン」の見直しとともに、学校における食物アレルギー対応指針を策定する。

<重点項目>

1、主体的な学びを育てる 知育の木

1) 学力向上について

- ・全国学力学習状況調査及び小学生を対象とした標準学力検査の実施により、その結果 を分析し、学習指導方法の工夫改善や学習環境づくりに取り組む。
- ・地域の方々や学校内外の教職員に対する「授業公開」「研究授業」を積極的に進め、「地域に開かれた学校づくり」、「教員の授業研究、授業改善」に向け取り組む。(年2回程度の地域授業公開の実施)

2)環境教育

- ・ 東大演習林の恵まれた森林資源を活用した森林学習プログラムを9校で実践する。
- •「富良野自然塾」などの活用により、本市における自然環境を生かし、様々な体験活動を通して、自然に対する豊かな感受性や生命を尊重する精神、環境に対する関心などを培う教育の充実を図る。

3) 外国語活動について

・外国語活動を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や能力の育成に向け、「英語が話せるふらのっ子」をめざした取り組みを推進する。

取組例:「放課後英語ランド」、「朝の英語活動」、「イングリッシュキャンプ」、「スクールバス乗車時を活用した英語活動」等

- ・次期学習指導要領を見据えた外国語活動の充実を図るため、北海道教育委員会より「小学校外国語活動巡回指導教員研修事業」の指定を受け、巡回指導教員を配置する。
- ・巡回指導教員による学級担任への指導、助言及び模範授業や開国後活動に関する教員 研修会などを実施する。
- ・外国語指導助手(ALT)を小中学校へ派遣するとともに、外国語活動推進委員会に おいて、推進体制や指導形態の工夫改善に向けて小中連携による外国語活動を推進す る。

4)特別支援教育について

- ・幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校等への円滑な引き継ぎを図るため、特別 支援教育アドバイザーを配置し、学校や保護者に対する相談、支援体制の充実を図る。
- ・一人ひとりのニーズに応じた教育を推進するために特別支援教育支援員を25名配置 し、校内における支援の充実を図る。

配置校 富良野小学校 8名、東小学校 6名、扇山小学校 5名 鳥沼小学校、山部小学校 各1名 富良野東中学校、富良野西中学校 各2名

・就学前児童への子どもの成長記録ファイル「すくらむ ふらの」を活用し、学校間の引き継ぎ等における活用を推進する。

5) 学校における読書の推進について

・市立図書館と各学校との連携や学校支援ボランティアの協力による読み聞かせ会の実施など、児童生徒の読書活動を地域ぐるみで推進する。

2、自主自律の心を育てる 情意の木

1) いじめ ZERO(ゼロ)の推進について

- •「富良野市いじめZERO(ゼロ)推進条例」に基づくいじめの未然防止、早期発見・ 迅速な対応と、その根絶に向けて学校・家庭・地域の連携を図る。
- ・いじめZERO(ゼロ)に向けて、児童生徒から標語の募集を行うとともに、いじめ 防止に向けた研修会を開催する。

2)心の教育について

- ・学校教育アドバイザー、適応指導教室指導員(社会福祉士有資格者)及び子どもと親の相談員(臨床心理士有資格者)、スクールカウンセラー(臨床心理士有資格者)を引き続き配置し、子どもたちの心の問題をケアできる体制づくりを図る。
 - ※子どもと親の相談員、スクールカウンセラーの配置について
 - 1) 富良野西中学校、扇山小学校 …… 松田 剛先生を配置
 - 2) 富良野東中学校、富良野小学校、東小学校 …… 石黒三知子先生を配置
 - 3) 必要に応じて他校においても対応可能

3) 道徳教育について

・ 富良野にゆかりのある講師陣による心に響く道徳教育を推進し、豊かな情操や生命倫理、規範意識の醸成を図る。

4) キャリア教育について

- ・望ましい自己有用感と職業観や勤労観の育成を図る。
- 各学校が、各教科及び各種事業をキャリア教育の視点でも捉え、有効活用を図る。
- ・小中高一貫ふるさとキャリア教育研究校に道教委より富良野緑峰高等学校、富良野西中学校、富良野小学校が指定されており、研究指定校への実践研究の支援を行う。

5)情報教育について

- ・学校、家庭、PTA、関係機関団体との連携により情報モラル教育を推進する。
- ・家庭でのルールづくりや危機管理の徹底を図るとともに、家族の約束7か条の推進と ネット被害から子どもたちを守る取り組みを進める。

3、恵まれた環境と食で育てる 健康の木

1)体力向上について

・全国体力運動能力、運動習慣等の結果を踏まえ、体育・健康に関する指導の改善及び 家庭における規則正しい生活習慣の定着に努める。

2) 食育について

- •「子どもたちのための食育ガイドライン」の見直しを行うとともに、子どもの発達段階 に応じた食育を栄養教諭と養護教諭の連携により実践する。
- ・学校給食の「食べ残しゼロ」運動を推進するとともに、基本的生活習慣である「早寝・早起き・朝ごはん、みんなそろって晩ごはん」運動を PTA と連携し推進する。

3)健康教育について

- 計画的な性教育、薬物乱用防止教育を推進するとともに、校内における健康相談体制の充実を図る。
- 学校における食物アレルギー対応指針を策定する。
- ・児童生徒の歯の健康づくりに向けて、全小中学校でフッ化物洗口を実施する。

4) 防災教育・危機管理について

- ・自然災害、事故、事件等に対する危機管理体制の徹底を図るとともに、防犯訓練及び 災害発生時の実技訓練を実施し、児童生徒の安全対策の充実を図る。
- ・児童虐待問題は、こども未来課や児童相談所、警察署等関係機関との連携を図り対応する。

4、原点を見つめ未来への輪を広げる 学びの大地

1) コミュニティ・スクールの導入について

・地域とともにある学校づくりをめざして、学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることのできるコミュニティ・スクールを全小学校で導入する。

2) コミュニケーション能力の向上について

- ・児童生徒のコミュニケーション能力の向上に向けて、演劇手法を取り入れたワークショップを小中学校で実施します。
- •「文化芸術による子どもの育成事業」(文化庁事業)の継続活用により、演劇活動や演 劇鑑賞を通して児童生徒の自主性やコミュニケーション能力の向上と個性の創出など を図ります。
- ・教職員を対象に演劇的手法を活用した教職員研修の継続実施と充実を図り、コミュニケーション能力の育成に向けた教育を推進する。

平成29年度 富良野市教育行政評価報告書

教育委員会事務事業点檢·評価 学 校 第 三 者 評 価

発行:平成30年8月

富良野市教育委員会